南房総市スポーツのまちづくり基本計画

平成２５年６月

南　　房　　総　　市

＜目次＞

序章　はじめに 1

第１章　南房総市の実態把握 3
１．上位計画、関連計画 3
２．南房総市の概況 10
３．南房総市の自然環境 17
４．南房総市のスポーツ交流環境 19

第２章　スポーツ交流の関係者の意向把握 35
１．スポーツイベント参加者の意向 35
２．スポーツ交流イベント参加者の意向 38
３．宿泊施設関係者の意向 42
４．関係団体の意向 46

第３章　スポーツのまちづくりに向けた課題 47
１．これまでの検討結果の整理 47
２．スポーツのまちづくりに向けた課題 50

第４章　スポーツのまちづくりに向けた基本方針 52
１．スポーツのまちづくりの基本方針 52
２．スポーツのまちづくりの目標と基本施策 54

第５章　基本施策の内容 57
１．「スポーツ交流のための場所づくり」に関する施策 57
２．「スポーツ交流による地域振興に向けた仕組みづくり」に関する施策 61
３．「スポーツ交流を実現する市民の心身の健康づくり」に関する施策 71
４．「スポーツのまちづくりを支える人づくりと持続可能な体制の構築」に関する施策 77

第６章　重点事業 81
１．重点事業の選定 81
２．重点事業の内容 84

第７章　推進プログラム 97
１．推進プログラム 97

序章　はじめに

（１）背景と目的

わが国におけるスポーツは、明治期以降、体育教育の一環として行われてきましたが、近年は、プロ野球やＪリーグなどのようにビジネスとして展開されたり、健康の維持・増進、障害者の生きがいとして行ったり、あるいはスポーツを観ることによる人々の豊かな生活の支え、さらには地域の絆の形成に活用されるなど、まちづくりとの関係が深くなってきています。また、国の政策でも、2000 年の「スポーツ振興計画」では特段の記述はなかったものの、2010 年に策定された「スポーツ立国戦略」では、「スポーツは社会を形成する上で欠かすことのできない存在」とし、「目指す姿」では、「スポーツは多様な意義を有する」と明記されています。

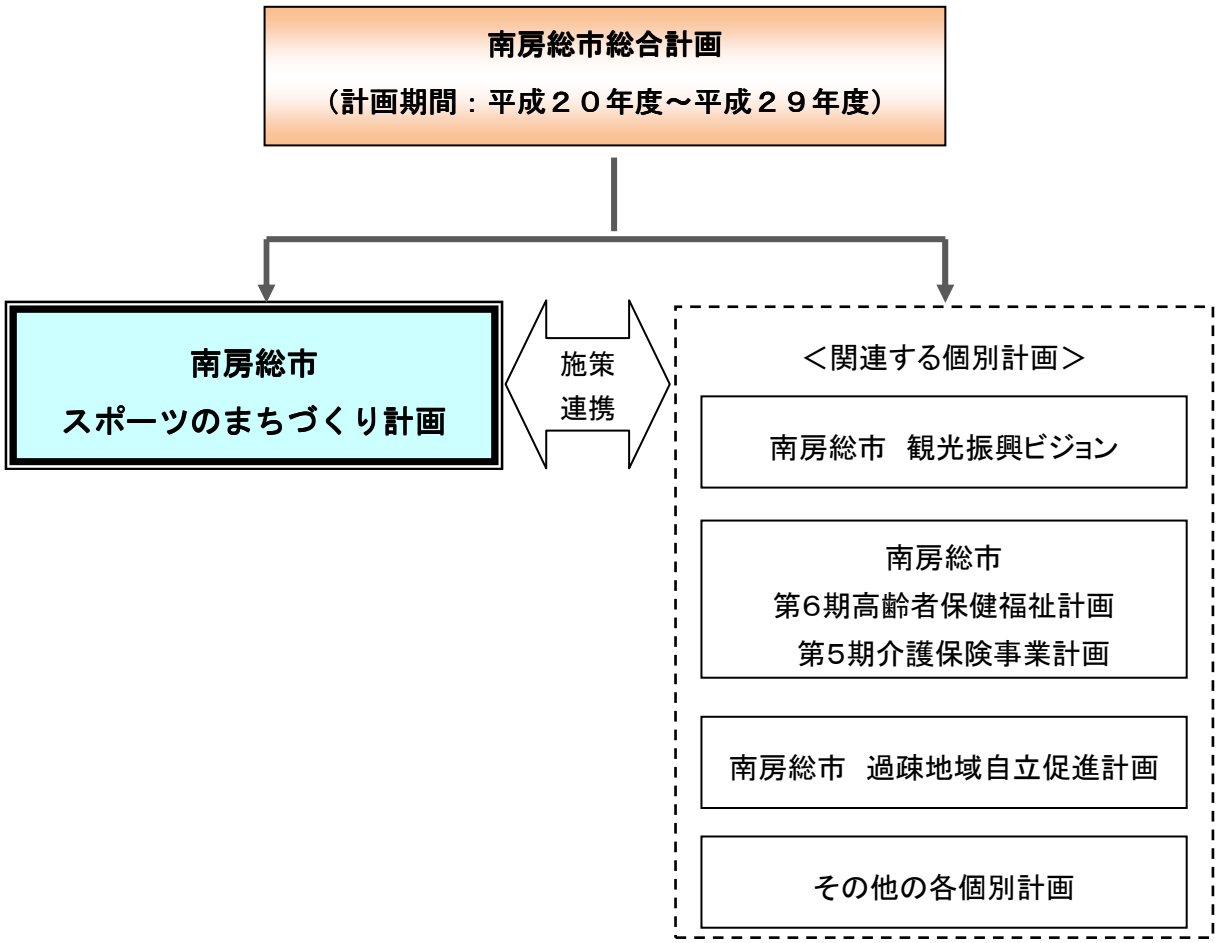
南房総市は、平成 18 年 3 月に安房 7 町村が合併して誕生しましたが、古くから東京との近接性や温暖な気候、豊かな自然環境等から、多くの人々が海水浴等のレクリエーションやスポーツ合宿等に訪れていました。しかしながら近年は、社会環境の変化などから来訪者は減少し、地域経済が低迷しています。また、地域での雇用機会も減少し、地域を離れる若者も増加しているため、地域の活性化がまちづくりの大きな課題となっています。

このような背景から、南房総市の活性化に向けては、地域資源である温暖な気候や豊かな自然、これまでのスポーツ合宿のノウハウ等を活かすことができる「スポーツのまちづくり」を推進していくことが有効です。このことから、南房総市の特性を活かしたスポーツによるまちづくりの推進に向けて、「南房総市スポーツのまちづくり基本計画」を策定するものです。

（２）計画の位置付け

「南房総市スポーツのまちづくり基本計画」は、「南房総市総合計画」を上位計画とする個別計画であり、特に「スポーツを通じたまちづくり」の視点から、今後の南房総市において進めていくべき施策を示すものです。

また、「南房総市観光振興ビジョン」や「南房総市第６期高齢者保健福祉計画　第５期介護保険事業計画」等の関連計画における施策とも連携を図るものとします。

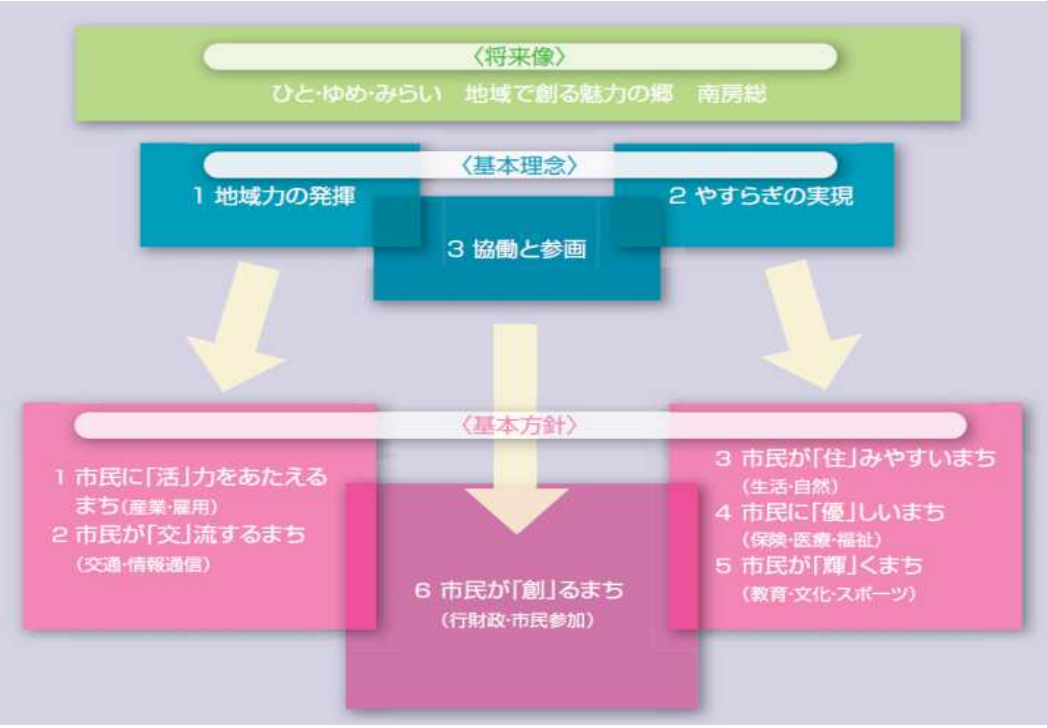


第１章　南房総市の実態把握

１．上位計画、関連計画

（１）南房総市総合計画（基本構想・後期基本計画）

平成 20 年 3 月に策定された総合計画基本構想、及び平成 25 年 3 月に策定された後期基本計画について概要を整理します。なお、後期基本計画については、スポーツ、観光、交流等に関連する施策を整理します。

基本構想	計画期間	平成 20 年度～平成 29 年度
	将 来 像	ひと・ゆめ・みらい　地域で創る魅力の郷　南房総
	基本理念	●地域力の発揮（地域の資源を活力にするまちづくり） ●やすらぎの実現（心豊かに安心して暮らせるまちづくり） ●協働と参画（ともに考え行動するまちづくり）
	基本方針	１．市民に「活」力をあたえるまち（産業・雇用） ２．市民が「交」流するまち（交通・情報通信） ３．市民が「住」みやすいまち（生活・自然） ４．市民に「優」しいまち（保健・医療・福祉） ５．市民が「輝」くまち（教育・文化・スポーツ） ６．市民が「創」るまち（行財政・市民参加）
		

	スポーツ・交流に関わる主な施策 ◎：重点プロジェクト	指標　現状値/目標値
後期 基本計画 （平成 25 年度 ～29 年度）	＜観光の振興＞ ◎地域の特色を活かした観光拠点の整備・充実 ◎地域資源を活かした観光プロモーション ◎観光受け入れ態勢の整備とサービスの向上 ◎観光情報交流拠点施設の機能強化 ◎都市と農漁村との交流の促進	観光入り込み客数 457 万人（H23） /**560 万人（H29）**
	＜自然環境の保全と共生＞ ◎環境学習の推進	環境学習会の参加人数 312 人(H23)/**400 人(H29)**
	＜保健・医療体制の充実＞ ◎健康づくり活動の支援	特定健康診査受診率 41.8%（H23）/**60%（H29）**
	＜高齢者福祉の充実＞ ○高齢者の生きがいづくりの推進	65 歳以上に占める要介護認定者の割合 16.5%（H23）/**16.2%（H29）**
	＜障害者福祉の充実＞ ○障害者福祉の推進	障害者入所施設退所者数 8 人（H23）/**32 人（H29）**
	＜生涯学習の推進＞ ◎市民の力を活かした対応した学習機会の提供 ○公民館施設などの効果的活用 ○社会教育関係団体などの育成および支援	公民館定期利用サークル数 185 団体（H23） /**255 団体（H29）**
	＜スポーツ・レクリエーション活動の推進＞ ○各種スポーツ大会等生涯スポーツの推進 ○指導者育成・確保の推進 ◎既存スポーツ施設の有効活用と拠点施設の整備	スポーツ団体加入者数 5,978 人（H23） /**6,200 人（H29）**
	＜地域間交流の促進＞ ○姉妹都市・友好都市との交流 ○国際交流の促進	国際交流イベントへの参加者数 360 人(H23)/**500 人(H29)**

（２）南房総市過疎地域自立促進計画（平成 22 年度～平成 27 年度）

南房総市は、合併前においては改正前の過疎地域自立促進特別措置法第 2 条の規定により、富浦町・白浜町・千倉町・丸山町・和田町が過疎地域の指定を受けており、合併後は同法第33条第１項の規定により、南房総市全域が過疎地域とみなされることになりました。また、この度、改正後の同法第２条の規定により、南房総市全域が過疎地域の指定を受けました。

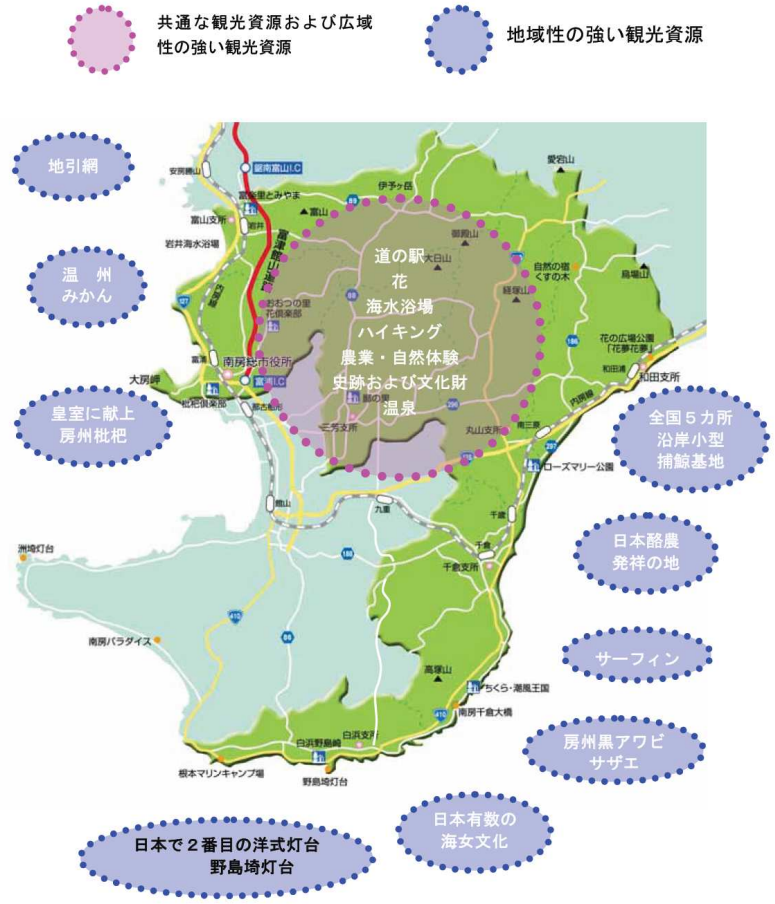
以下にその概要として、スポーツや交流に関わる主な事業を整理します。

■主な課題、対策、事業等（関連するもののみ整理）

項目	課題、対策等	主な関連事業
◆産業の振興（観光の振興）	・主力観光資源を積極的に活用し、通年型、滞在型観光へ転換。 ・隠れた観光資源の発掘。 ・地場産業に結びつけた体験型観光の充実と、ホスピタリティ（おもてなしの心）の推進。	・南房総ﾃﾞｨｽｶﾊﾞﾘｰﾄﾚｲﾙ（発見の小径）整備事業（ﾎﾟｹｯﾄﾊﾟｰｸ、遊歩道等の整備） ・体験交流施設整備事業 ・交流拠点施設整備事業 ・ハイキングコース整備事業 ・観光施設整備事業　等
◆交通通信体系の整備、情報化及び地域間交流の促進	・市が有する自然、歴史、文化を前面に出し、様々な地域との交流を深める。 ・既存のまつりや交流イベントの一層の充実を図るとともに、イベントの目的意識を明確にし、市民主体による交流活動の展開と地域の魅力増進を図り、既存施設を活用した各種イベントを実施し、地域の魅力発信に努める。	－
◆高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進	・高齢者の生涯学習機会の充実と社会参画の促進のため、地域における高齢者の活躍の場づくり・生きがいづくりの機会を提供。	・生きがい活動支援通所事業 ・シルバー人材センター運営事業　等
◆教育の振興（生涯学習、社会教育及び社会体育）	・市民がそれぞれの興味・関心に応じ、文化・芸術・スポーツ等の学習活動に取組めるよう、家庭や学校、地域、関係団体との緊密な連携と施設の整備及び適正配置による総合的支援体制の確立。 ・学校開放による体育館などの施設を最大限に活用し、子どもから高齢者までスポーツに親しむことのできる生涯スポーツを推進。	・社会体育施設整備事業 ・スポーツ交流拠点施設整備事業　等

（３）南房総市観光振興ビジョン

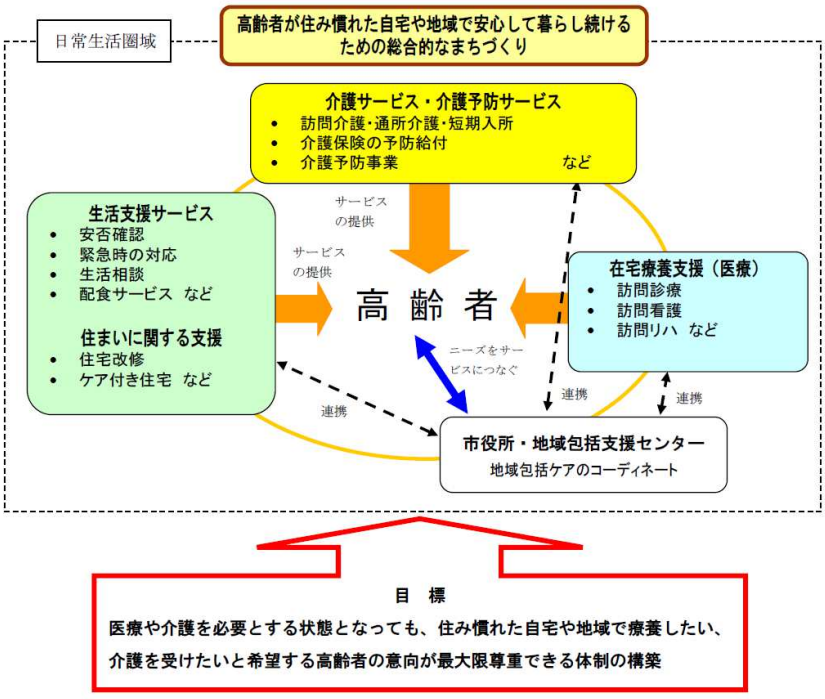
南房総市では、社会状況の変化や平成 18 年の 7 町村合併等を踏まえ、地域資源を最大限に活かした観光振興によるまちづくりを推進するため「南房総市観光振興ビジョン」を平成 21 年に策定しました。以下にその概要を示します。

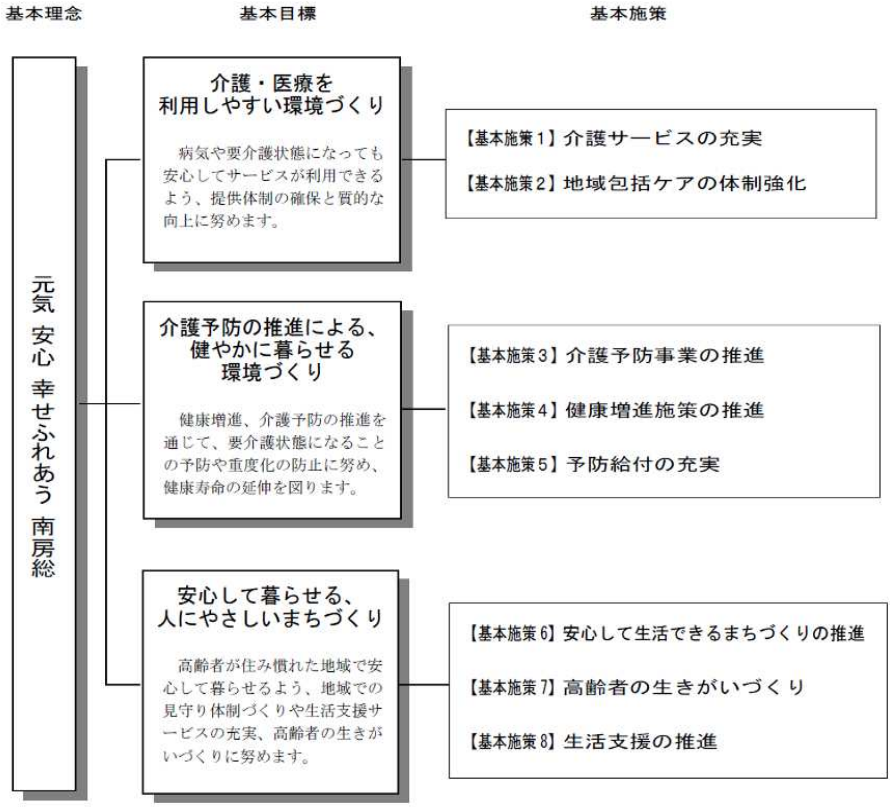
位置付け	総合計画（H20～29 年度）を上位計画とする観光部門の計画
計画期間	H22 年度～H26 年度（５年間）
主要な観光資源	・南房総市は、房総半島の南端に位置し、自然に恵まれ、また、古代から近代に至る遺跡等の歴史資源も有している。 **南房総市主要観光資源** 
観光振興によるまちづくりの目標	・南房総市の観光資源を活かし、「見る観光」から「地元の生活スタイルとの交わり」に重点を置く、新たな「歓交」を展開するため、取組を実施する。 ・「観光都市」の実現による交流人口の増加や、地域環境保全を目指して、まちづくりの目標を**<u>「環境を活かす！魅力の郷 ときめき歓交」～南房総ファンを増やそう！新・生活スタイル～</u>**に定める。

	施策の方向性	主要な関連施策
観光施策の方向性と主な関連施策	(1)地域の特色を活かした戦略	地域力（地区）再生整備
		昔と変わらないまちなみの保全
		花半島再生整備
		祭事、歴史遺跡や文化財などの活用
	(2)地域資源を活かした効果的な情報発信	魅力ある海岸づくり
		地産地消の推進
		新たな観光開発
	(3)観光受け入れ態勢の整備	南房総新スタイル「家族時間」
		観光情報提供整備
	(4)交流拠点施設の機能強化	外国人観光客受け入れ整備
		2次・3次交通システム機能整備
		南房総印の食のブランド
	(5)観光人材の育成	エコツーリズム
		南房総市観光大使設置
		来訪者・直売所などの交流促進
	(6)都市交流の推進	第2のふるさと促進
		お試し宿泊定住体験

（４）南房総市第 6 期高齢者保健福祉計画　第 5 期介護保険事業計画

南房総市では、老人福祉法に基づく「老人福祉計画」及び介護保険法に基づく「介護保険事業計画」を一体的に推進する計画として、平成 21 年度に「第 5 期高齢者保健福祉計画・第 4 期介護保険事業計画（H21～H23 年度」を策定し、これにより、関連施策を推進してきました。本計画は、この後継計画として平成 23 年に策定されました。以下にその概要を示します。

位置付け	老人福祉法による「老人福祉計画」及び 介護保険法による「介護保険事業計画」
計画期間	平成 24 年～26 年度（3 ヶ年）
基本理念	元気　安心　幸せふれあう　南房総
高齢者人口の推計	・平成 26 年の総人口は 39,656 人、65 歳以上人口は 16,588 人、75 歳以上人口は 8,794 人、高齢化率は 41.8%、後期高齢者率は 22.2%になるものと見込まれる。
「地域包括ケア」の必要性	・厚生労働省では、超高齢社会の対策のキーワードとして「地域包括ケア」を掲げている。 ・「地域包括ケア」は、地域の社会資源の組み合わせによって、高齢者が介護が必要な状態になっても、安心して住み続けられるまちづくりを目指すもの。 

目標と基本施策	・本計画では、基本理念「元気　安心　幸せふれあう　南房総」のもとに、３つの基本目標、８つの基本施策を掲げている。 

●まとめ

・**上位計画、関連計画については、現行の「南房総市総合計画」との整合を図りつつ、観光振興ビジョン等の個別計画が策定されています。**

・本「スポーツのまちづくり基本計画」についても、**「南房総市総合計画」との整合性**を図りつつ検討し、策定します。特に、総合計画で示される**６つの基本方針**を念頭に、関連施策について検討します。

２．南房総市の概況

（１）位置、地勢

南房総市は、房総半島の南端に位置し、房総丘陵が広がり、北側には県下最高峰の愛宕山（408m）をはじめ、富山（349m）等 300m級の山が連なっています。西側には東京湾、東側及び南側には太平洋と三方を海に囲まれ、その海岸線は、南房総国定公園に指定されており、最南端は野島崎が位置します。市は 230.22k ㎡の面積を有しています。

首都東京からは、100km 圏に位置しており、自動車で東京まで 95 分、県都・千葉市まで 70 分程度の距離にあります。平成 19 年には東関東自動車道館山線が全線開通し、首都圏から南房総市がより身近になっています。

鉄道は、JR 東日本内房線が通り、市内には西から岩井駅、富浦駅、千倉駅、千歳駅、南三原駅、和田浦駅（途中、館山市内 3 駅を挟む）が位置します。

■南房総市の位置



注：図中の各「支所」は、現在は、「地域センター」

●まとめ

・南房総市は、図の通り、西側は東京湾に面し、東及び南側は、太平洋に面しており、北側には、県下最高峰の山々を有しており、**自然に恵まれている地勢**と言えます。

・アクアラインを利用した道路交通では、東京から約 90 分の位置にあり、また、東関東自動車道館山線が平成 19 年に全線開通しており、**交通に関するポテンシャルは高い**と言えます。

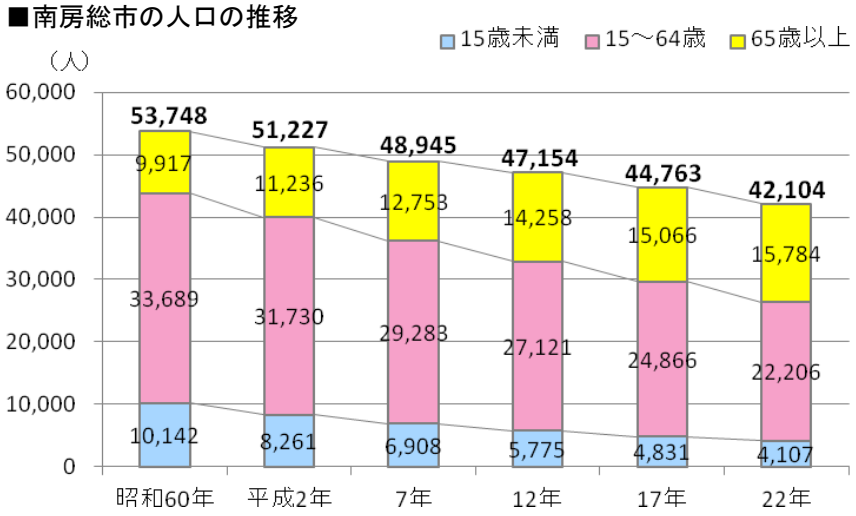
（２）人口動態

①人口減少

南房総市の総人口は、昭和 60 年の 53,748 人から平成 22 年の 42,104 人へと、25 年間で 21.7%減少しています。今後も**過疎化が進行**し、本市の推計によると**平成 29 年には、38,400 人**になると予測されています。

さらに、国立社会保障・人口問題研究所による「日本の市区町村の将来推計人口」では、基準年の平成 17 年の約 4.5 万人が、30 年後の平成 47 年には約 2.9 万人まで減少すると推計されています。

■南房総市の人口の推移



注）年齢不詳人口があるため、平成 2 年、7 年、及び 22 年の年齢 3 区分人口の合計は総人口に一致しない。

出典：国勢調査

■南房総市の将来人口（市推計）

単位:人･世帯

		平成 17 年 (2005 年)	平成 24 年 (2012 年)	平成 29 年 (2017 年)
総人口		44,763	41,200	38,400
年齢別人口	15 歳未満 (年少人口割合)	4,831 (10.8%)	4,000 (9.7%)	3,400 (8.9%)
	15～64 歳 (生産年齢人口割合)	24,866 (55.5%)	20,900 (50.7%)	17,800 (46.3%)
	65 歳以上 (老年人口割合)	15,066 (33.7%)	16,300 (39.6%)	17,200 (44.8%)
世帯	世帯数 (平均世帯人員数)	15,533 (2.88)	15,400 (2.68)	15,200 (2.53)

※平成 17 年は国勢調査による実績値、平成 24 年、29 年は推計値です。

■南房総市の将来人口（国立社会保障・人口問題研究所）

年次	人口
平成 17 年（2005 年）	約 4.5 万人
平成 47 年（2035 年）	約 2.9 万人（推計）

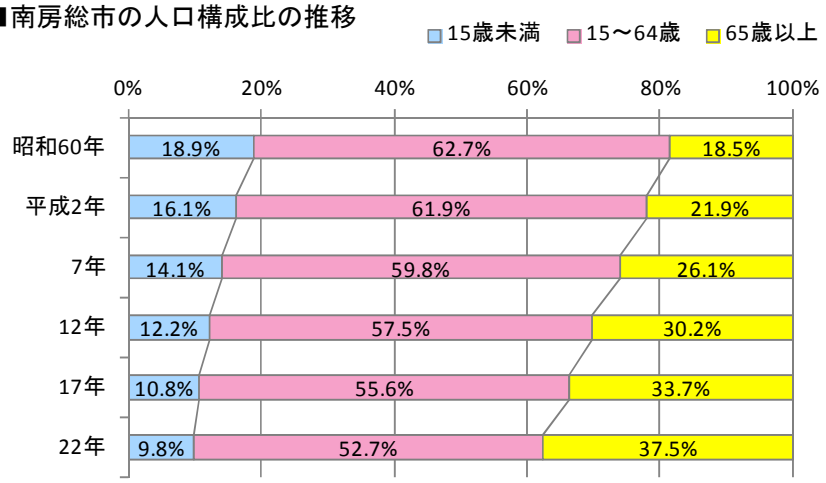
出典:『日本の市区町村別将来推計人口』(H20.12 推計)

②少子高齢化の進展

15 歳未満及び 15～64 歳の人口が減少する一方で、65 歳以上人口の割合は、昭和 60 年の 18.5%から平成 22 年には 37.5%へと著しく増加し、**高齢化が急速に進行**しており、県平均（21.2%、平成 22 年国勢調査）を大きく上回っています。さらに、本市の推計では**平成 29 年には、高齢化率は 44.8%に拡大（人口は約 3.8 万人）**すると予測されています。

また、地区別の状況をみると、**白浜地区で最も高齢化が進み 42.1%**となっていますが、平成 26 年推計値では、三芳地区を除いた全ての地区において、高齢化率は 40%を超えるものと推計されています。

■南房総市の人口構成比の推移



出典：国勢調査

■地区別高齢化率の推計

	富浦	富山	三芳	白浜	千倉	丸山	和田
H22 年実績	35.2%	37.9%	34.2%	42.1%	37.6%	36.1%	39.0%
H26 年推計	40.2%	43.3%	38.5%	46.9%	41.3%	40.5%	42.5%

●まとめ

・他都市同様に**人口減少が進展**しており、平成 22 年の 4.2 万人が平成 29 年には約 3.8 万人になると推計されています。

・**少子高齢化は千葉県内でも特に顕著**で、平成 22 年県平均の 21.2%に対し、南房総市は 37.5%となっています。平成 29 年の高齢化率は 44.8%になると推計されています。

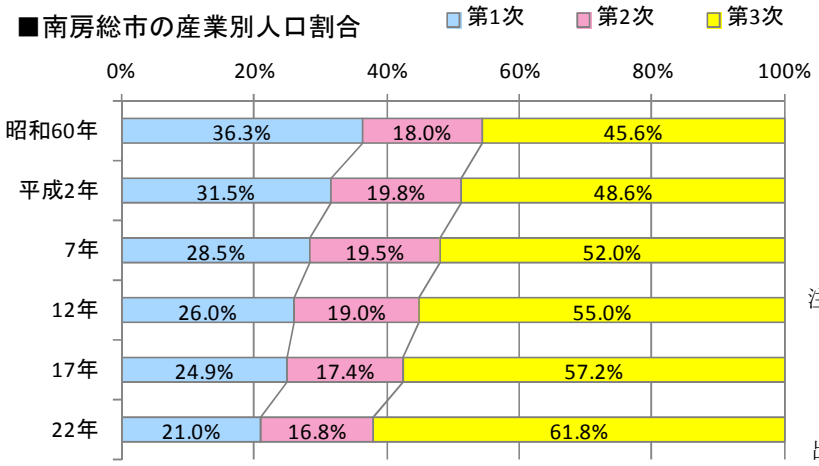
（３）産業構造

①産業別就業人口の割合

南房総市の産業別就業人口割合をみると、年々減少傾向にあるものの依然として**第 1 次産業が 21%を占め**ており、県平均（2.9%、平成 22 年国勢調査）に比べて大きい割合です。一方、第 3 次産業は 61.8%で市全体の割合としては多い状況ですが、県平均（71.6%、平成 22 年国勢調査）に比べ約 10%程度下回り、比較的少ない割合となっています。

第 1 次産業の農業においては、農家戸数は全般的に減少し、1 戸あたり耕地面積は県平均と比べ小さく、粗生産額も低めとなっていることから、構成比率は高いものの、経営規模は相対的に小規模と言えます。また、漁業において南房総市は県下水産業の中心的地域ですが、漁業経営体数は近年大きく減少しており、漁業組合の数は現在 5 組合となっています。

第 2 次産業は 16.8%と少なく、市内事業所数は 100 箇所程度となっており、このうち約 5 割は千倉地区に立地しています。小規模の事業所が多く、1 事業所当りの出荷額は、いずれも県平均を下回っています。

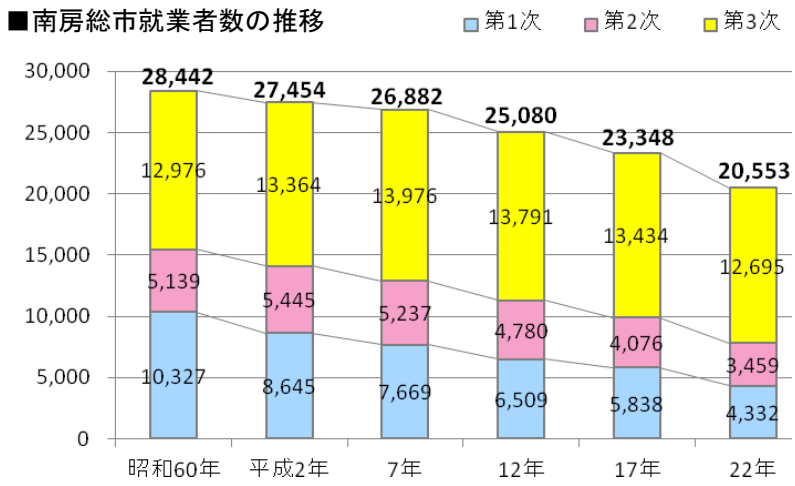


注）就業人口総数には「分類不能」が含まれるため、合計が 100.0 にならない場合がある

出典：国勢調査

②就業者数

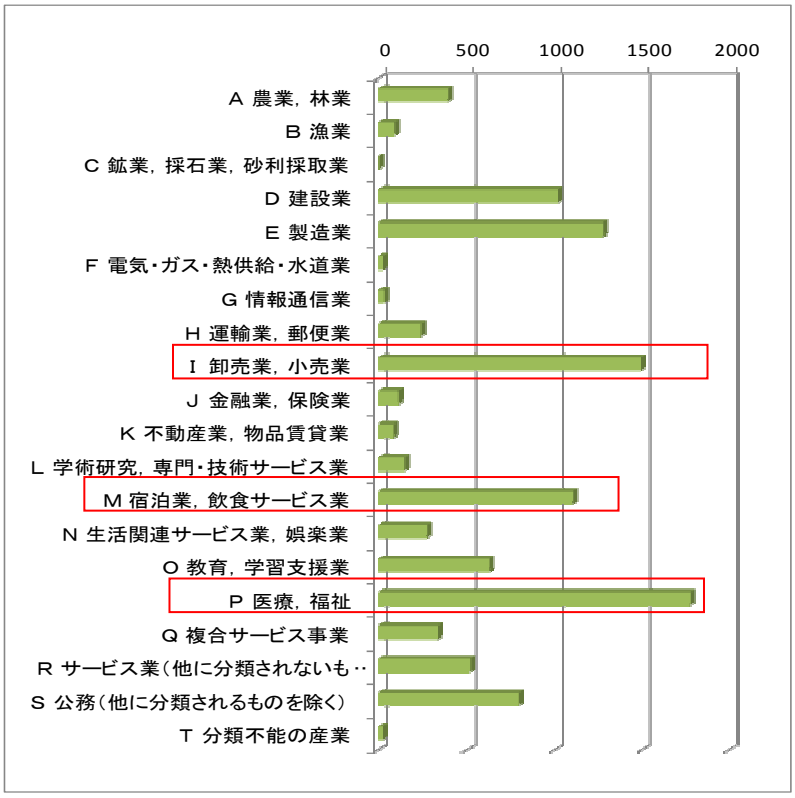
南房総市の平成 22 年の就業者数は 20,553 人で年々減少しており、人口に比べて落ち込み度合いが大きくなっています。昭和 60 年からの 25 年間で 27.8%減少しており、特に近年その度合いが大きい状況です。この原因の一つとして、若年層が市外に雇用を求めて流出していることが考えられます。



出典：国勢調査

また、産業分類別にみると、高齢化時代において重要な産業となる「医療福祉」分野が最も多く、また観光産業に関連して「卸売業、小売業」、「宿泊業、飲食サービス業」も多くなっています。

■南房総市の産業別就業者数（平成２２年）
【産業別（大分類）就業者数（単位：人）】



出典：国勢調査

●まとめ

・産業では、第一次産業は、県の他都市と比較して多く、**漁業では県の中心**的地域です。
・**事業所数は 100 箇所程度と少なく、小規模事業所が多く**なっています。
・就業者数は、人口減少に伴い減少傾向で、**若年層等は、市外へ雇用機会を求めて流出**しているものと思われます。
・個別産業では、**「医療・福祉」**、「卸売り・小売業」、**「宿泊・飲食サービス」**が多くなっています。

（４）歴史

①安房地域の歴史

安房地域は 718 年に上総国から分かれ安房国となり、その後、一旦は国を廃され上総国へ合併されましたが、757 年に再び安房国として独立しました。かつては多数の荘園が存在し、中世末まで統治者の交代を繰り返していましたが、戦国時代に入り、15 世紀中頃に里見氏が安房統一を果たし、戦国末期に館山城を築城して安房国統治の拠点としました。現在でも市域の各地に城址等が残っています。

その後里見氏は、江戸幕府による全国支配体制の確立により、1614 年に改易され、以降この地は旗本領、天領、小大名の領地として分割統治されました。

近代に入り、明治 11 年の郡区町編成法施行により郡制を施行、明治 30 年には安房郡、平郡、朝夷郡、長狭郡の四郡を合併して、現在の安房郡の前身となる「安房郡」が形成されました。

■安房地域の概略年表

年代	出来事
718 年	上総国からの「安房国」の分離
757 年	再度の「安房国」の独立
～中世末	統治者の交代を繰り返す
15 世紀中頃	里見氏による安房統一
戦国時代末	里見氏による館山城築城
1614 年	江戸幕府による里見氏の改易 分割統治
明治 11 年	明治政府による郡制施行 （安房郡、平郡、朝夷郡、長狭郡）
明治 30 年	安房郡、平郡、朝夷郡、長狭郡の合併（現在の「安房郡」の前身の形成）
平成 18 年	６町１村の合併により、現在の「南房総市」が誕生

■主な歴史資源


小松寺


白間津のオオマチ（大祭）行事


旧尾形家住宅


石堂寺多宝塔

②町村合併

昭和 30 年前後に相次いだ町村合併を経て、旧「富浦町・富山町・三芳村・白浜町・千倉町・丸山町・和田町」がそれぞれ成立し、さらに**平成 18 年 3 月には、これら 6 町 1 村が合併して、新しい「南房総市」が誕生**しました。



●まとめ

・安房地域は、15 世紀に里見氏に統一されたこと等により、「南総里見八犬伝」等の里見氏関連のものを中心に、歴史的資源が豊富にあります。

・**平成 18 年 3 月に、6 町 1 村の合併**により、現在の南房総市が誕生し、現在に至っています。

３．南房総市の自然環境

（１）気候

三方を海に囲まれた千葉県は、冬暖かく夏涼しい海洋性の温暖な気候で、年間平均気温は約 16 度となっています。特に南房総沿岸は、沖合いを流れる暖流（黒潮）の影響を受け、1 年を通して霜の降りない無霜地帯も有ります。

降水量は、夏季に多く、冬季は少ない気候となっています。

■気象データの平年値（1981-2010 年）

都市	年間 降水量	年間 平均気温	8 月 平均気温	1 月 平均気温	8 月 最高気温	1 月 最低気温
館山	1790.0mm	15.9℃	26.4℃	6.3℃	30.5℃	1.0℃
鴨川	1822.4mm	15.7℃	26.0℃	6.0℃	30.3℃	1.5℃
東京	1528.8mm	16.3℃	27.4℃	6.1℃	31.1℃	2.5℃

出典：気象庁

（２）自然

南房総市の北側には県下最高峰の愛宕山（408m）をはじめ、富山（349m）などの山々が連なっており、また、市の西側は東京湾、東側及び南側は太平洋に面しており、海岸線は南房総国定公園に指定されています。このように、南房総市は豊かな緑や海洋の自然に恵まれています。

○自然資源を活かした農業・漁業

温暖な気候を生かした野菜や果実、花卉などの園芸が盛んであり、収益性の高いびわ、みかんなどの果実、花卉の産地となっています。また、我が国の酪農発祥の地でもあり、酪農の盛んな地域が多くみられます。

沿岸は、回遊性の魚種、アワビ・イセエビ等の磯根魚種を中心として、各種魚類・貝類・海藻類等の資源に恵まれており、県下水産業の中心地域の一つとして、アジ、サバ、カツオ等を対象とした一本釣り、さし網、曳縄等の漁船漁業に加え、定置網や採貝藻及び各種養殖業が盛んである。また、関東唯一の沿岸捕鯨基地となっている和田地区では、現在、年間２６頭のツチクジラを捕獲しています。





（３）エコツーリズムの推進

南房総市では、前項で述べた豊かな自然と歴史文化を連携させた「エコツーリズム」や、特に緑や関連産業を活かした「グリーンツーリズム」を推進しています。また、平成 19 年 3 月には「南房総市エコツーリズム基本計画」を策定しています。ここでは、その概要を示します。

基本理念	**人と自然のつながりを再生する**
目標設定	**（ア）エコツーリズムの理解を広める。** ①エコツーリズムの啓蒙 ②エコツアー参加者の環境保全への意識の芽生え ③地域住民の地域資源保全への意識の芽生え ④自然環境を配慮した観光行動 ⑤持続的な自然環境の保全 **（イ）地域連携の輪を広げ、市民活動や地域経済の活性化を図る。** ①地域住民の活動の活性化を目指す ②幅広い地域産業への経済波及効果を目指す ③各地域の魅力ある資源を組み合わせプログラムの差別化を図る **（ウ）エコツアー（自然体験型観光）を推進し、観光事業の振興を図る。** ①旅行者数の増加を図る ②旅行者の今日的なニーズを的確にとらえる
基本方針	１）エコツーリズムの意識の啓蒙 ２）エコツーリズムの中間支援組織の構築 ４）エコツーリズム基本計画に沿った事業の推進 ５）中間支援組織と共に定期的に計画の見直し等を行う ６）ルールの策定
将来像	交流による活力あふれる観光と環境教育都市 南房総

●まとめ

- **１年を通じて温暖な気候**で、これを活かした農業、特に**花、果樹の栽培**が盛んになっています。また、海岸線は国定公園に指定されており、海水浴客も多く訪れています。
- このような豊かな自然を観光産業（ツーリズム）に活用すべく、平成 19 年には、「**エコツーリズム基本計画**」が策定されています。

４．南房総市のスポーツ交流環境

（１）スポーツ施設の整備状況

南房総市には、公共の主なものだけでも、約 40 のスポーツ・レクリエーション施設が整備されており、各地区に点在しています。以下に各施設等の概要を示します。

番号	区分	名称	仕様・規模等
1	スポーツ施設	富山ふれあいスポーツセンター	・バスケットボールコート２面等 ・観客席：424 席
2	スポーツ施設	富山多目的運動場	・野球場 ・夜間照明あり
3	スポーツ施設	富山平群運動場	・野球場 ・夜間照明あり
4	スポーツ施設	富山平群体育館	・バスケットボール１面、バレーボール１面、バドミントン２面　等
5	スポーツ施設	富浦体育館	・バスケットボールコート２面等 ・観客席 180 席
6	スポーツ施設	富浦八束体育館	・バスケットボール１面、バレーボール　１面等
7	スポーツ施設	富浦テニスコート	・オムニコート（砂入り・人工芝）2 面
8	スポーツ施設	三芳国民体育館	・軽スポーツ
9	スポーツ施設	三芳柔剣道場	・剣道、柔道、空手等
10	スポーツ施設	三芳弓道場	・5 人近的距離 28m ・夜間照明施設あり
11	スポーツ施設	三芳テニスコート	・ラバーコート２面 ・夜間照明施設あり
12	スポーツ施設	白浜体育館	・バスケットボール１面、バレーボール１面
13	スポーツ施設	白浜運動広場	・ソフトボール場 ・テニスコート
14	スポーツ施設	千倉総合運動公園	・多目的広場、野球場、テニスコート（オムニコート３面）、屋外活動施設研修室　等
15	スポーツ施設	千倉 B&G 海洋センター	・アリーナ（多目的に使えるコンパクトな体育館） ・武道場、室内プール
16	スポーツ施設	丸山体育館	・バスケットボールコート２面等
17	スポーツ施設	丸山児童体育館	・軽スポーツ
18	スポーツ施設	丸山運動広場	・多目的広場 ・夜間照明あり
19	スポーツ施設	和田コミュニティ運動広場	・野球場 ・夜間照明あり
20	スポーツ施設	北三原農村広場	・テニスコート ・夜間照明あり
21	多目的施設	大房岬少年自然の家	・運動広場、ビジターセンター、ホテル、キャンプ場、駐車場、芝生園地、遊歩道、展望台等を併設

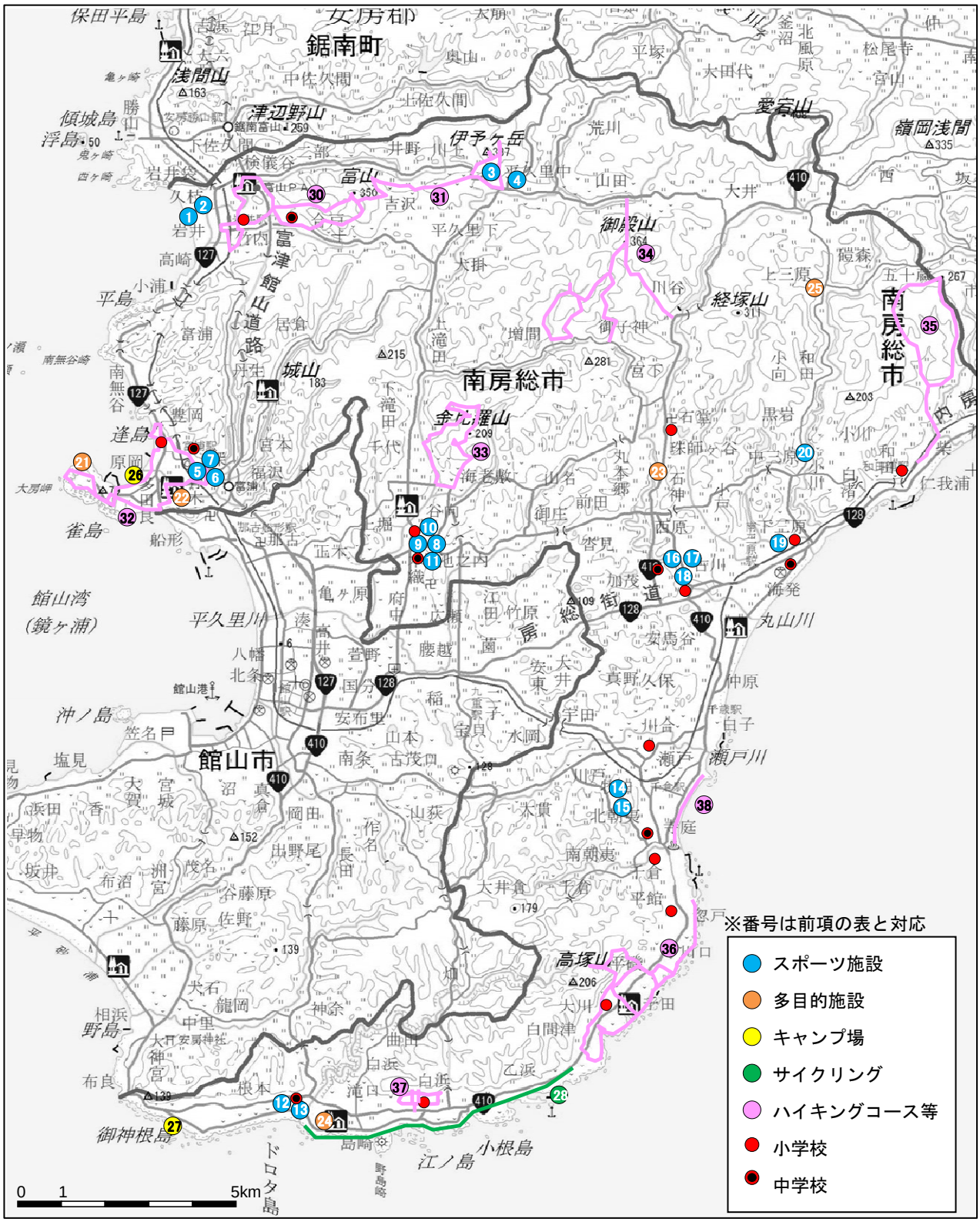
番号	区分	名称	仕様・規模等
22	多目的施設	とみうら元気倶楽部	・公民館機能、保健機能、観光機能等を備えた複合施設
23	多目的施設	丸山農業者トレーニングセンター	・多目的ルーム、体育館、トレーニングルーム
24	多目的施設	白浜フローラルホール	・多目的ホール （観覧席の収納時の広さ 552 ㎡、24m×23m）
25	多目的施設	自然の宿「くすの木」	・各種体験が可能な宿泊施設
26	キャンプ場	多田良北浜海岸キャンプ場	・駐車場 30 台
27	キャンプ場	根本マリンキャンプ場	・駐車場 400 台（オートキャンプ可）
28	サイクリング	白浜町サイクリングロード	・乙浜～根本までの海岸沿い約 10 ㎞
29	サイクリング	くるくる車ららん（レンタサイクル）	・貸出･返却拠点 14 ヶ所、レンタサイクル 87 台
30	ﾊｲｷﾝｸﾞ･ｳｫｰｷﾝｸﾞ	とみさん伏姫ハイキングコース	・里見八犬見伝のふるさと「富山（とみさん)」を巡る初心者向きコース
31	ﾊｲｷﾝｸﾞ･ｳｫｰｷﾝｸﾞ	伊予ヶ岳ハイキングコース	・標高３３６ｍの伊予ヶ岳への「山登り」コース
32	ﾊｲｷﾝｸﾞ･ｳｫｰｷﾝｸﾞ	とみうら遊楽散歩道	・枇杷の産地・富浦の海と岬、花畑を巡るコース
33	ﾊｲｷﾝｸﾞ･ｳｫｰｷﾝｸﾞ	三芳・森林遊歩道コース	・歴史と自然を満喫できるコース
34	ﾊｲｷﾝｸﾞ･ｳｫｰｷﾝｸﾞ	御殿山・大日山ハイキングコース	・御殿山から大日山への山歩きコース
35	ﾊｲｷﾝｸﾞ･ｳｫｰｷﾝｸﾞ	花嫁街道ハイキングコース	・眺望が人気で、名所も多いコース
36	ﾊｲｷﾝｸﾞ･ｳｫｰｷﾝｸﾞ	千倉里山遊歩道コース	・花と海と里山が楽しめるコース
37	ﾊｲｷﾝｸﾞ･ｳｫｰｷﾝｸﾞ	白浜民話のみち散策コース	・白浜地区に残る伝説や歴史に触れるハイキングコース
38	ﾊｲｷﾝｸﾞ･ｳｫｰｷﾝｸﾞ	千倉町ウォーキングトレイル	・幅 3m、距離 1.6ｋｍの歩行者専用道路

●まとめ

・合併に伴い、約 40 **のスポーツ・レクリエーション関連施設が点在**し、また小中学校の**約 50 の学校体育施設**は、地域住民のスポーツ交流活動や民宿等のスポーツ合宿に利用されており、これら施設はスポーツ交流の推進に向けた貴重な資源と言えます。

・一方、人口減少、少子高齢化等の状況を踏まえると、今後は、より多くの**他都市住民とのスポーツ交流**に利用してもらう等、**施設運営の効率化や利活用**等も考える必要があります。

■南房総市におけるスポーツ施設の立地状況



■主要な施設



1. 富山ふれあいｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ



2. 富山多目的運動場



7. 富浦テニスコート



9. 三芳柔剣道場



10. 三芳弓道場



12. 白浜体育館



14. 千倉総合運動公園



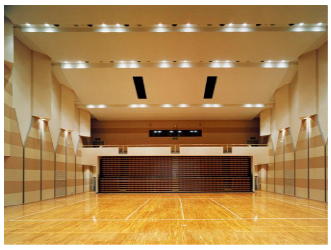
16. 丸山体育館



19. 和田ｺﾐｭﾆﾃｨ運動広場



22. とみうら元気倶楽部



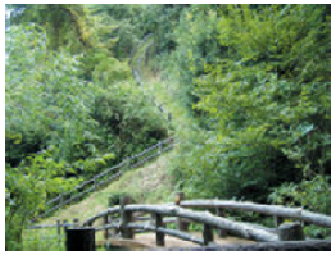
24. 白浜ﾌﾛｰﾗﾙﾎｰﾙ



26. 多田良北浜海岸ｷｬﾝﾌﾟ場



28. 白浜町ｻｲｸﾘﾝｸﾞﾛｰﾄﾞ



34. 御殿山・大日山
ハイキングコース



38. 千倉町ｳｫｰｷﾝｸﾞﾄﾚｲﾙ

（２）スポーツイベントの開催状況

南房総市では、豊な自然環境と温暖な気候をいかしたスポーツイベントが、年間を通して各地で開催されています。主なものを以下に整理します。

スポーツイベント	主催者	大会概要	備考
南房総市ロードレース千倉	市 教育委員会 南房総市観光協会 南房総市体育協会 （実行委員会）	・毎年 9 月開催 ・参加者数：3,500 人程度（招待選手含む） ・ハーフマラソン及び 5、10 キロロードレース ・参加費：3000 円	千倉漁港広場
関東地区ミニバスケットボール南房総市ＴＯＭＩＵＲＡさざ波大会	市 教育委員会 （実行委員会）	・8 月下旬（3 日間） ・関東地区ナンバーワンを決める小学生を対象としたミニバスケットボール大会 ・3 日間で延べ約 1800 泊数	富浦体育館 富浦小学校 富浦中学校
小野派一刀流流祖忠明旗争奪関東小学生剣道大会	市 教育委員会 （実行委員会）	・2 月開催 ・旧丸山町（現南房総市）御子神に生まれた江戸時代初期の剣豪・小野次郎右衛門忠明の生誕を記念した大会	富浦体育館
ママさんバレーボール南房総市さざ波大会	市 教育委員会 （実行委員会）	・11 月下旬（2 日間） ・安房郡市の二大ママさんバレーボール大会	富浦体育館 富山ふれあいスポーツセンター 三芳中学校
南房総フラワーマーチ	市 教育委員会 南房総市観光協会 （実行委員会）	・3 月（2 日間） ・花と海を見ながらのウォーキングイベント	南房総市全域
南房総市黒潮サッカーフェスティバル	南房総市サッカー協会	・毎年 8 月開催（３泊４日） ・小学生を対象とし、遠方の小学校からも参加がある大会 ・地元の中学生の選手等も運営に協力 ・参加者数：延べ 4,500 人程度	南房総市内及び近隣のグラウンド、千倉町瀬戸海岸

スポーツイベント	主催者	大会概要	備考
南房総アクアスロン岩井大会	一般社団法人日本国際オープンウォータースイミング協会	・平成 24 年６月に第１回大会を開催 ・参加者数 178 名、来場者数約 500 名 ・スイムとランを続けて行い、その総合順位を争うタイムレース	岩井海水浴場（スイム）、海岸沿いの道路上（ラン）
ボディビルコンテスト	南房総市観光協会	・８月開催 ・参加費無料	原岡海岸
ＪＰＳＡジャパンプロサーフィンツアー2012 ロングボード第１戦	ＪＰＳＡ（一般社団法人　日本プロサーフィン連盟）	・5 月(3 日間) ・出場者数：公認プロ（男子約 88 名/女子約 24 名）/登録アマ（男子約 80 名/女子約 25 名）	南千倉海岸
ビーチハンドフェスタ	千葉県ハンドボール協会ビーチハンドボール委員会	・スプリングカップ（6 月、2 日間）、サマーカップ（8 月、2 日間） ・2011 年サマーカップ参加状況：男子 18 チーム、女子 11 チーム	原岡海岸

■南房総市黒潮サッカーフェスティバル
（H24 年の開催風景）



■南房総市ロードレース千倉
（H24 年の開催風景）



■南房総フラワーマーチ（H25 年 3 月実施パンフレットから抜粋）





●まとめ

・南房総市の温暖な気候、豊かな自然等、スポーツに適した環境を活かした**各種のイベントが、官民により実施**されています。

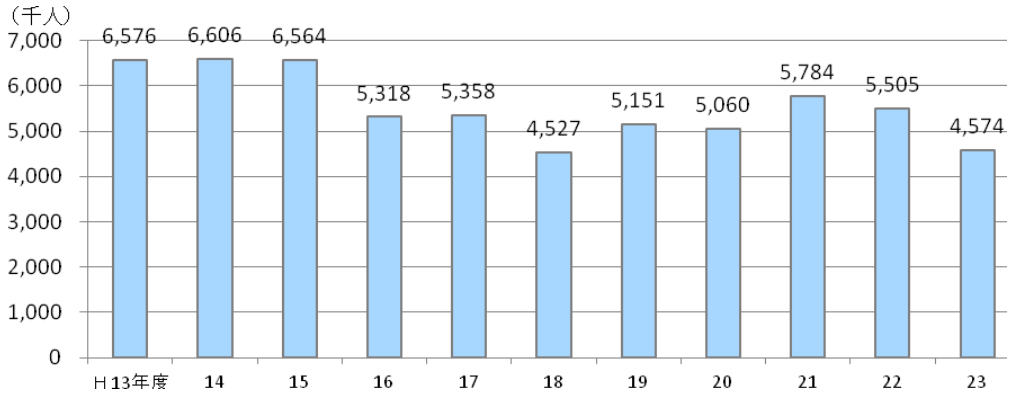
・これらは今後のスポーツのまちづくりに向けて、貴重な資源と言えます。

（３）交流に関する実態

１）観光入り込み状況

①観光客数の推移、概況

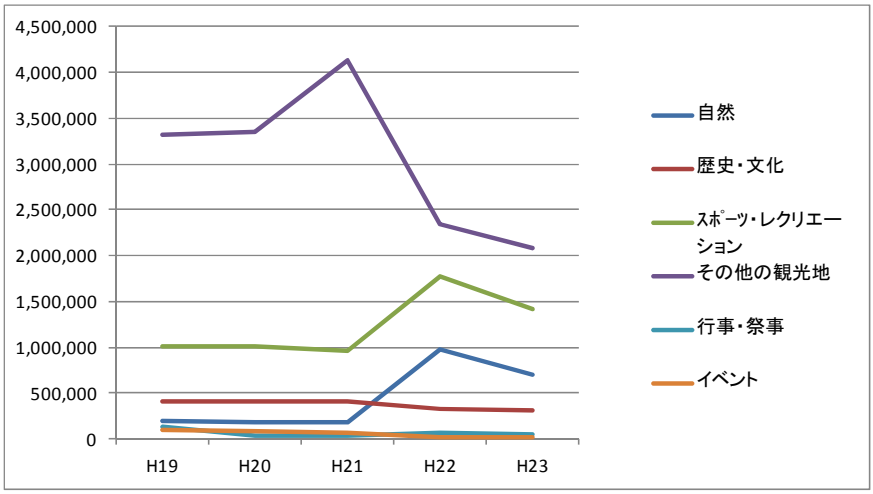
南房総市の年間観光入り込み客数は、平成 14 年度の 660 万人以降は減少傾向で、18 年度には 450 万人まで落ち込みました。19 年度から 22 年度にかけては回復傾向に転じ、500～580 万人程度で推移しましたが、平成 23 年度は、東日本大震災の影響もあり、約 460 万人に減少しました。



○観光地点別推移

上記の内訳として、ここ 5 年間の観光地点別の推移を見ると、下図のようになります。平成 21 年から 22 年にかけて、道の駅等の「その他の観光地」が大きく減少し、「スポーツレクリエーション」、「自然」が増加しています。

■南房総市観光入り込み客数の地点別推移



	自然	歴史・文化	ｽﾎﾟｰﾂ・レクリエーション	その他の観光地	行事・祭事	イベント	合計
H19	203,143	401,495	1,003,968	3,322,757	126,178	93,500	5,151,041
H20	178,585	409,048	1,002,400	3,351,802	35,150	85,000	5,061,985
H21	176,942	404,556	956,093	4,137,237	40,287	68,500	5,783,615
H22	979,328	328,048	1,771,641	2,341,882	68,000	16,000	5,504,899
H23	706,595	302,613	1,422,628	2,075,920	48,400	18,000	4,574,156

②観光レクリエーション施設の入込状況

平成 23 年度の市内観光レクリエーション施設の入り込み客数の合計値は 453 万人で、東日本大震災の影響もあり前年度の 545 万人を大きく下回っています。

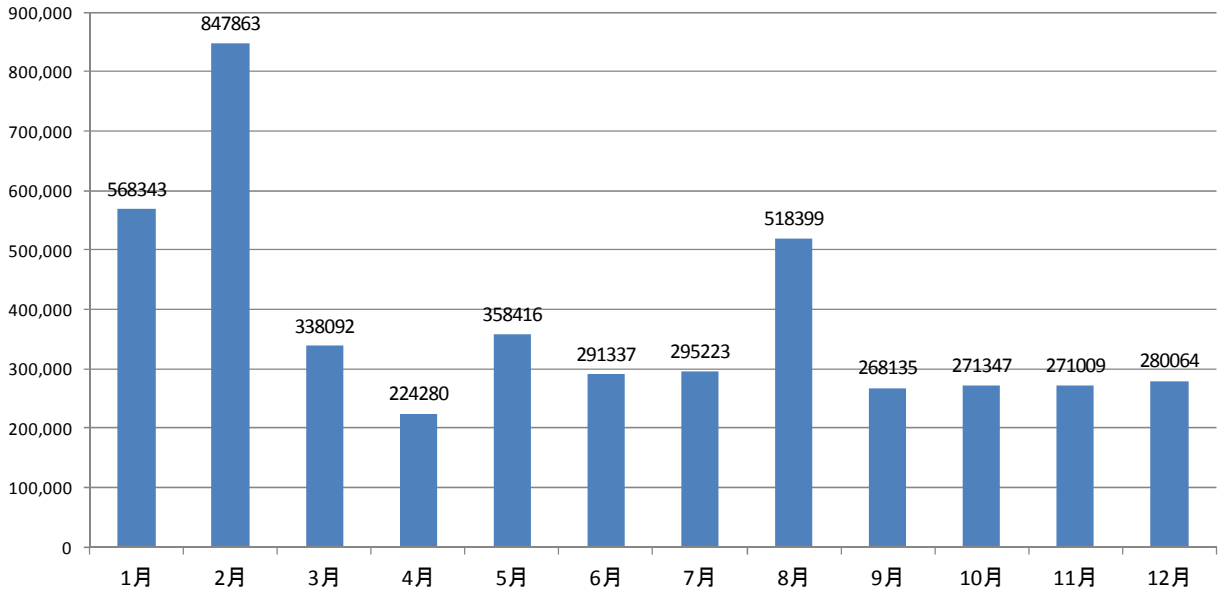
■観光レクリエーション施設への入り込み状況

年次	入込客数
平成 20 年	約 483 万人
平成 21 年	約 557 万人
平成 22 年	約 545 万人
平成 23 年	約 453 万人

○月別状況

平成 23 年の状況を月別にみると、花畑等のハイキングシーズンでもある 2 月の約 84.7 万人が最も多く、次いで一月、その次に夏休み、海水浴シーズンとなる８月の約 51.8 万人が多くなっています。

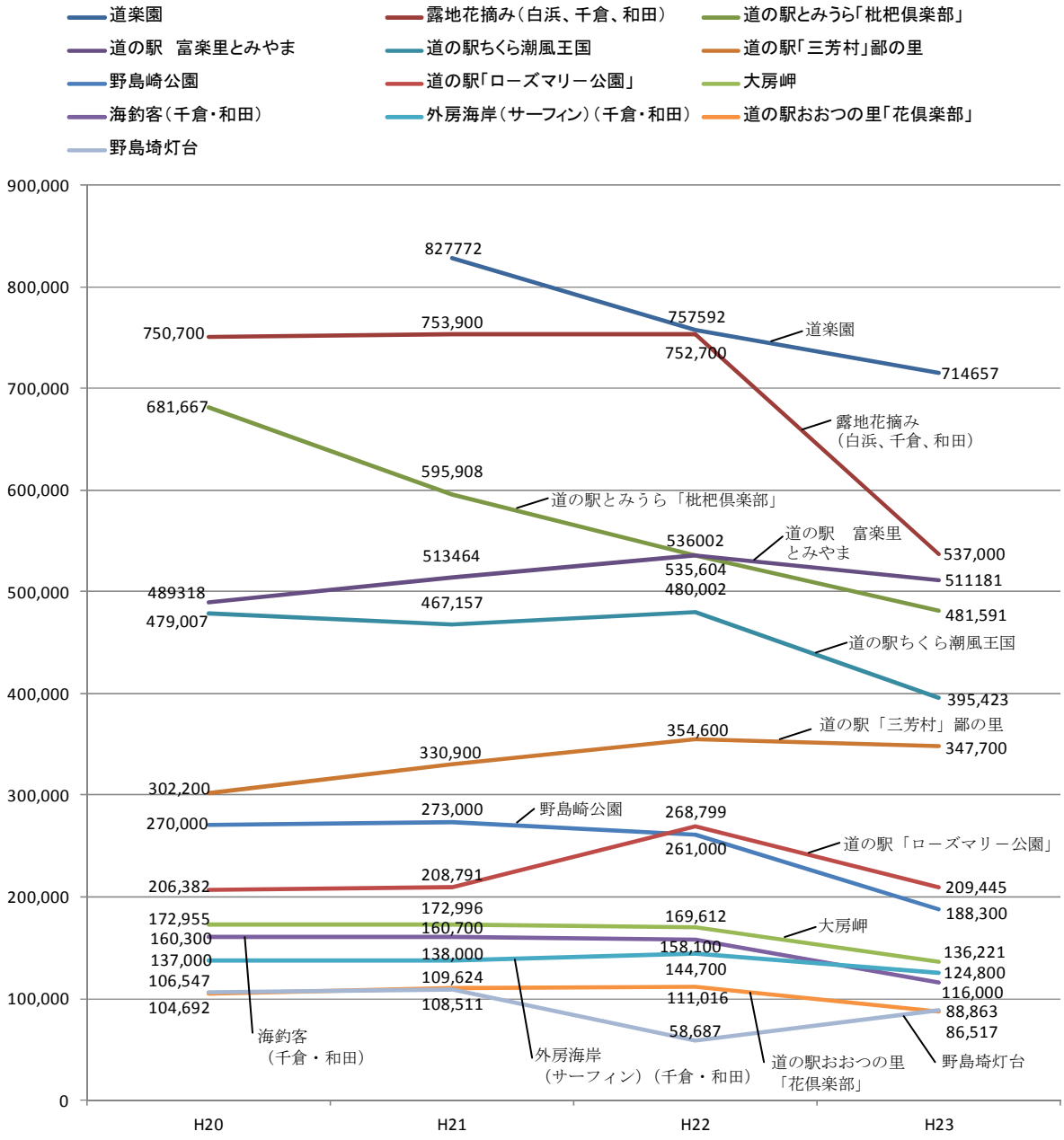
■市内観光レクリエーション施設の月別入り込み客数（平成 23 年、単位：人）



○施設別推移

観光・交流施設別に推移をみると、入り込み客数としては「道楽園」が最も多く、平成 23 年では 71.5 万人の入り込みをみていますが、平成 21 年からは減少傾向となっています。

■主な観光・交流施設の入り込み客数の推移（単位：人）



③宿泊施設の利用状況

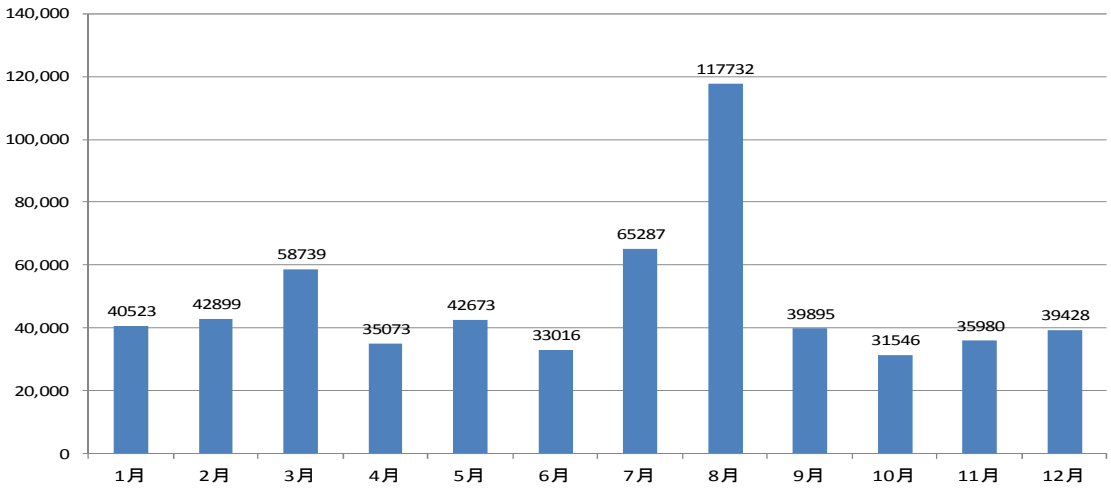
南房総市には、ホテル・旅館が 29 施設あるほか、多くの民宿やペンション等が立地しており、家族連れの観光旅行のほか、生徒、学生の修学旅行や合宿などに利用されています。

宿泊施設 201 件の利用状況をみると、年間利用者数は合計 58.3 万人で、月別では、8 月の利用者が 11.8 万人で最も多くなっています。

■南房総市の宿泊施設

施設分類	対象施設数
ホテル･旅館	29
民宿･ペンション等の民営宿泊施設	166
社会教育施設	2
キャンプ場	4
合計	201

■市内宿泊施設の月別利用状況（平成 22 年、単位：人）

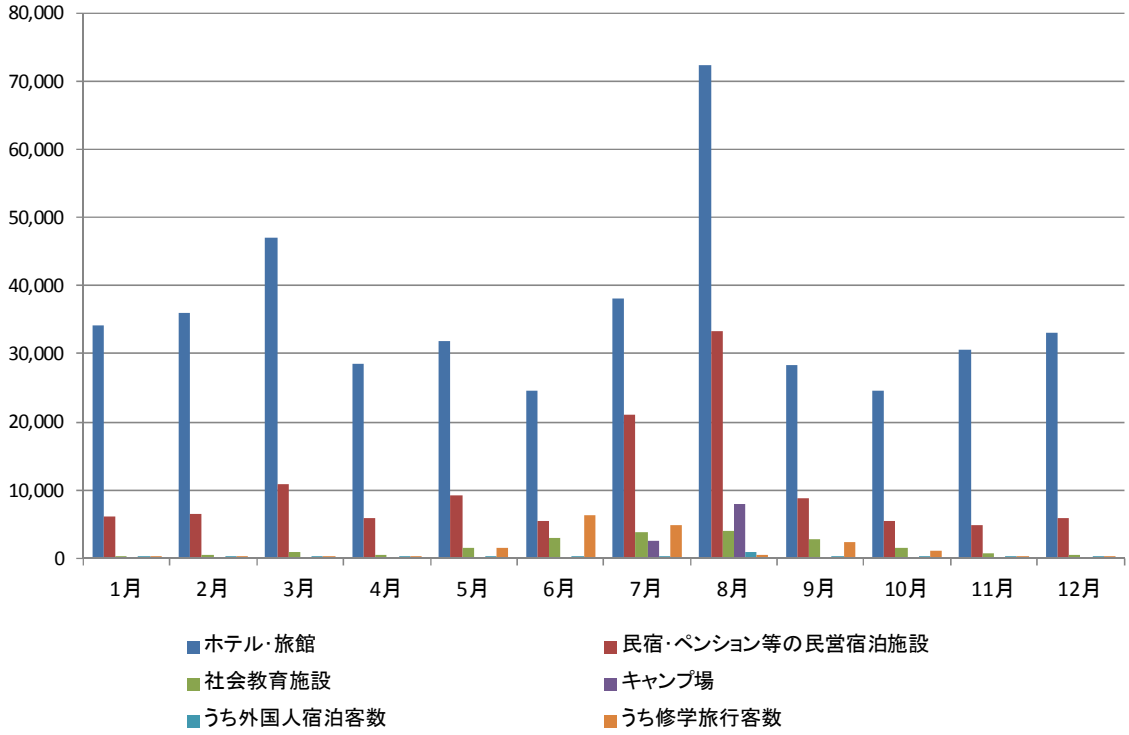


○宿泊施設の種類別の状況

南房総市の宿泊者数を前項の施設種類別に見ると、ホテル・旅館では８月に次いで３月が多くなっていますが、民宿・ペンションでは８月が突出して多くなっています。

このうち、年間合計では、修学旅行客数は 1.8 万人（全体の 3%）、外国人宿泊客数は 2 千人弱となっています。なお、外国人宿泊客数の内訳では、韓国人が最も多く、台湾人、中国人と続いています。

■宿泊施設の種類別月別状況（平成 22 年、単位：人）



（単位：人泊）

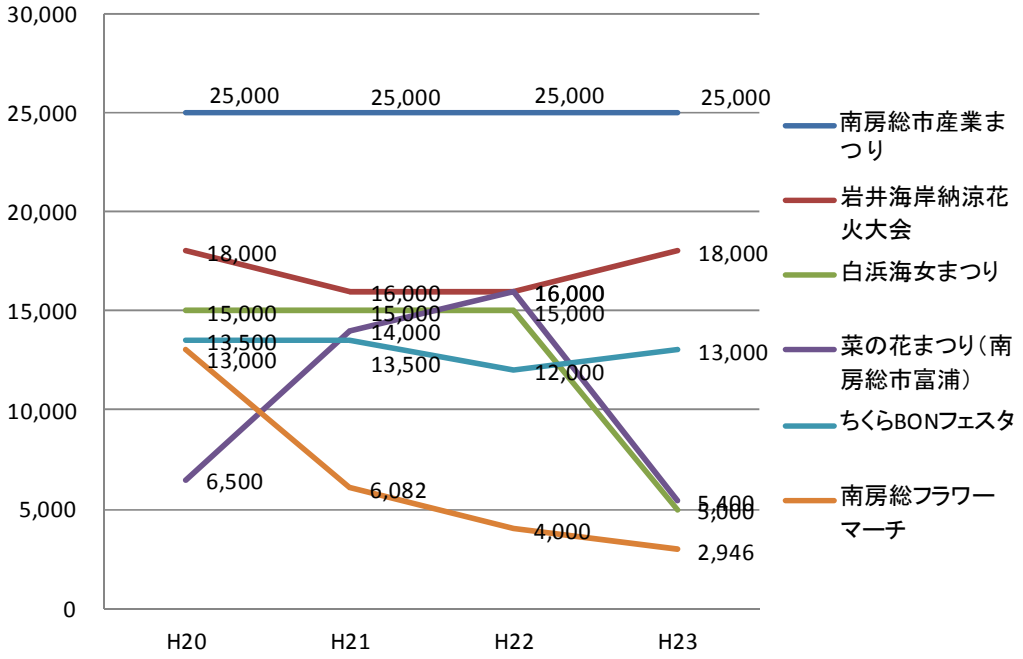
施設分類	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間計
ホテル･旅館	34,118	36,034	47,011	28,615	31,802	24,490	38,062	72,340	28,389	24,584	30,507	33,169	429,121
民宿･ペンション等の民営宿泊施設	6,071	6,454	10,909	5,909	9,285	5,530	20,958	33,331	8,845	5,396	4,891	5,782	123,361
社会教育施設	334	411	819	549	1,586	2,996	3,737	4,029	2,661	1,566	582	477	19,747
キャンプ場	0	0	0	0	0	0	2,530	8,032	0	0	0	0	10,562
合計	**40,523**	**42,899**	**58,739**	**35,073**	**42,673**	**33,016**	**65,287**	**117,732**	**39,895**	**31,546**	**35,980**	**39,428**	**582,791**
うち外国人宿泊客数	60	60	74	92	117	146	265	953	73	22	84	26	1,972
うち修学旅行客数	94	259	32	360	1,606	6,344	4,903	498	2,278	1,118	279	254	18,025

④主なイベントの入り込み状況

南房総市における主なイベントとしては、花火大会を除けば、南房総市の自然や産業を生かしたものが多く開催されています。個別には「南房総市産業まつり」や「岩井海岸納涼花火大会」、「ちくら BON フェスタ」の入り込み客数が安定して多くなっています。

平成 23 年度は「白浜海女まつり」と「菜の花まつり」が大きく落ちこんだ一方、「納涼花火大会」や「ちくら BON フェスタ」は増加しました。

■主なイベントの入り込み客数の推移（単位：人）



また、平成 23 年度における各イベントの開催月と入り込み客数を見ると下表のようになります。4～6 月、9～10 月、12 月には集客効果のある大きなイベントは、開催されていない状況です。

■市内の主なイベントの月別入り込み状況

月	主要イベント名	入り込み客数（人）
１月	菜の花まつり（南房総市富浦）	5,400
２月	―	―
３月	南房総フラワーマーチ	2,946
４月	―	―
５月	―	―
６月	―	―
７月	白浜海女まつり	5,000
８月	岩井海岸納涼花火大会	18,000
	ちくら BON フェスタ	13,000
９月	―	―
１０月	―	―
１１月	南房総市産業まつり	25,000
１２月	―	―

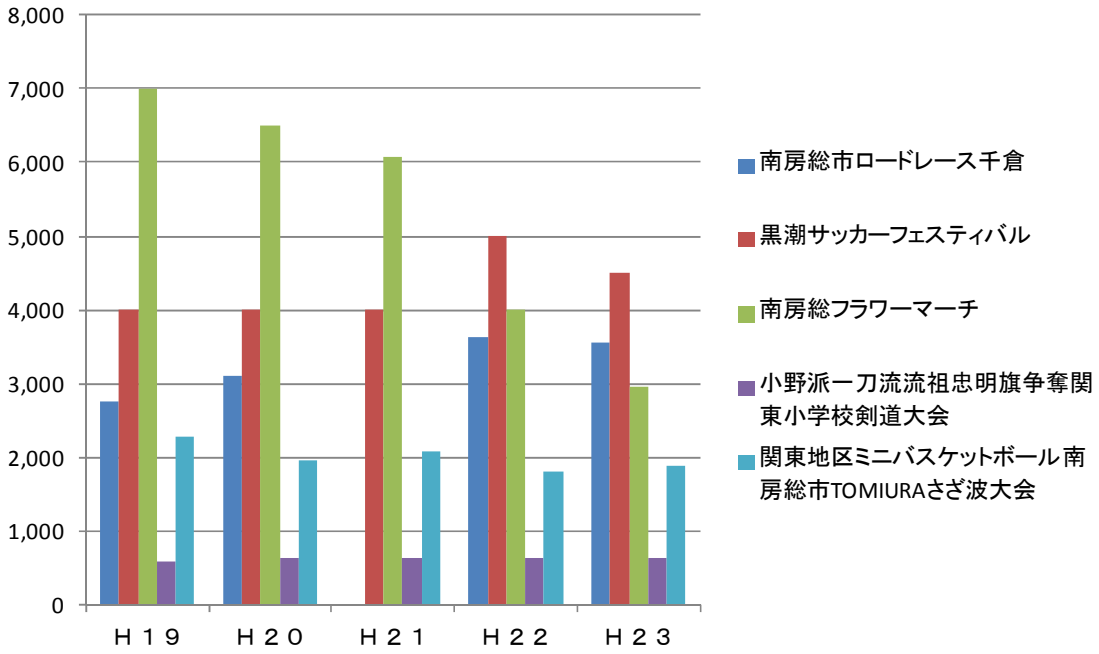
⑤主なスポーツイベントの参加者の状況

南房総市における主要なスポーツイベントの近年の参加者の状況を示します。

「南房総市ロードレース千倉」は近年のマラソンブームの中で増加傾向にある一方、「南房総フラワーマーチ」の参加者は大きく減少しています。各競技団体が中心に運営するサッカーフェスティバルやミニバスケット、剣道大会は、同程度で推移しています。

今後の少子高齢化の進展が予想される中、参加者の維持、増加に向けては、さらなる工夫や対策が必要と思われます。

■主なスポーツイベントの参加者数の推移（単位：人）



	年度	H19	H20	H21	H22	H23
南房総市ロードレース千倉	申込者数	2,750	3,114	休止	3,630	3,564
黒潮サッカーフェスティバル	申込チーム数	55	56	58	67	58
	参加者数（延べ人数）	4,000	4,000	4,000	5,000	4,500
南房総フラワーマーチ	申込者数	7,000	6,500	6,082	4,000	2,946
小野派一刀流流祖忠明旗争奪関東小学校剣道大会	申込チーム数	101	114	111	111	112
	参加者数	580	647	635	631	633
関東地区ミニバスケットボール南房総市TOMIURAさざ波大会	3日間延べ参加者	2,276	1,953	2,094	1,799	1,881

●まとめ

〇観光客数

・南房総市への観光入り込み客数は、平成 19 年度から 22 年度にかけては、約 500～580 万人程度で推移していましたが、平成 23 年度は、**東日本大震災の影響もあり、約 460 万人に減少**しました。

・月別では、花畑等のシーズンと重なる**２月**が最も多く次いで１月、その次に夏休みの**８月**が多くなっています。

〇宿泊施設利用

・宿泊施設の利用者数を月別でみると、**８月が特に多く、次いで７月、３月**が多くなっています。

〇イベント

・「南房総市産業まつり」など、**南房総市の自然や産業を生かしたイベント**が多く開催されている一方、平成 23 年は、震災の影響もあり、減少しているイベントも見られました。

・大きな**イベントの開催が無い月**も見られます。

〇スポーツイベント

・「南房総市ロードレース千倉」の参加者数が増加傾向である一方、**南房総フラワーマーチの参加者数は大きく減少**しています。

（４）スポーツ交流に関する人的環境・組織環境等の状況

南房総市で活動する「スポーツ」及び「交流」に関連する団体の概要を示します。

団体名		概要
スポーツに関する主な団体	南房総市体育協会	・体協は、全２２の競技団体から組織（役員は、各団体の代表者等）スポーツ少年団の活動も支援
	南房総市スポーツ推進委員連絡協議会	・スポーツ推進委員連絡協議会は、地域でのスポーツ活動を推進する委員の連絡会（全４７名）
	スポーツ少年団	・市内の７地区において、個別競技別に全３７団体があり、活動中
	サッカー協会・NPO スフィーレ	・サッカー協会としては、黒潮サッカーやフットサル大会等を主催 ・NPO スフィーレは、サッカークラブであり、上記イベントの主管組織
	総合型千倉スポーツクラブドルフィン	・千倉地区を拠点に活動している総合型地域スポーツクラブ
交流に関する主な団体	南房総市観光協会	・７支部と１０の賛助会員により構成
	南房総市旅館組合 南房総市温泉組合	・千倉、白浜地区を中心に旅館、ホテル等により構成
	各地区民宿組合	・市内の５地区に組合があり、観光協会等と連携し、独自の活動を実施
	(株)ちば南房総	・市１００％出資会社であり、市内の道の駅４施設と酪農のさと、計５施設を管理運営

※各団体に対しては、「スポーツのまちづくり」に向けた意向の把握を目的に、個別にもしくは複数団体合同でのヒアリング調査を実施しました。各団体の活動内容等についてもその中で確認しました。（次章参照）

第２章　スポーツ交流の関係者の意向把握

１．スポーツイベント参加者の意向

（１）調査対象イベントの概要

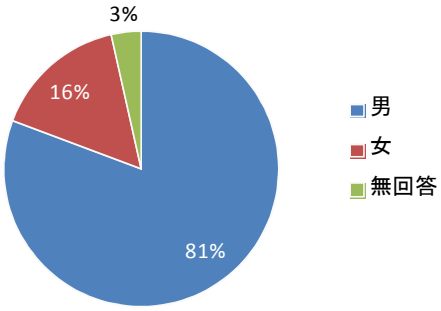
南房総市では、平成 24 年 9 月 23 日に実施した「南房総市ロードレース千倉」にあわせて、参加者の意向を把握するアンケート調査を行いました。ここでは、その概要を示します。

イベント名	南房総市ロードレース千倉
日時	平成 24 年 9 月 23 日
当日参加者数	2,422 人
アンケート回答者数	57 人

（２）アンケート結果の概要

①参加者の概要

・回答者の性別は、男性が約８割を占めています。



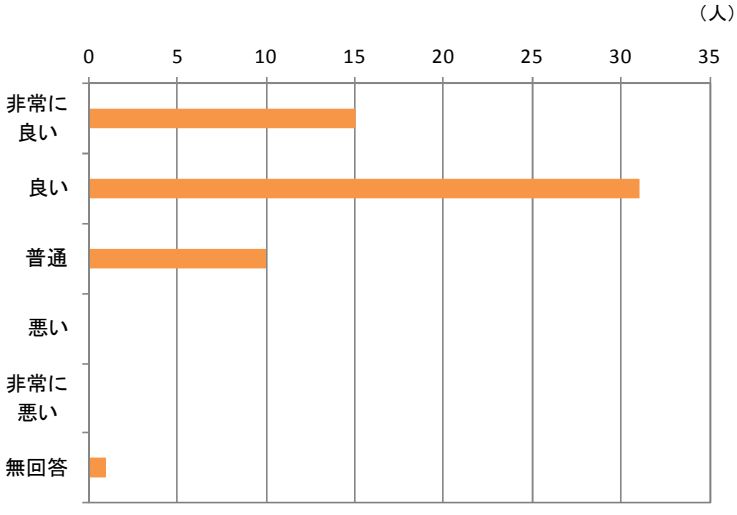
性別	男	女	無回答
	46	9	2

②大会の印象

・本大会の印象は、全般的に良く約 80%の人が、「非常に良い」、「良い」と回答しています。

・ただし、個別意見を見ると、駐車場の問題や、雨天時の収容施設に関するもの、トイレや道路の混雑、カッパを捨てる人がいた、新鮮味に欠ける等の問題点を指摘する意見も見られました。

・特に、他の大会の工夫を取り入れる、専用列車の運行、地元飲食店との連携等を提案する意見もみられました。



印象	非常に良い	良い	普通	悪い	非常に悪い	無回答
	15	31	10	0	0	1

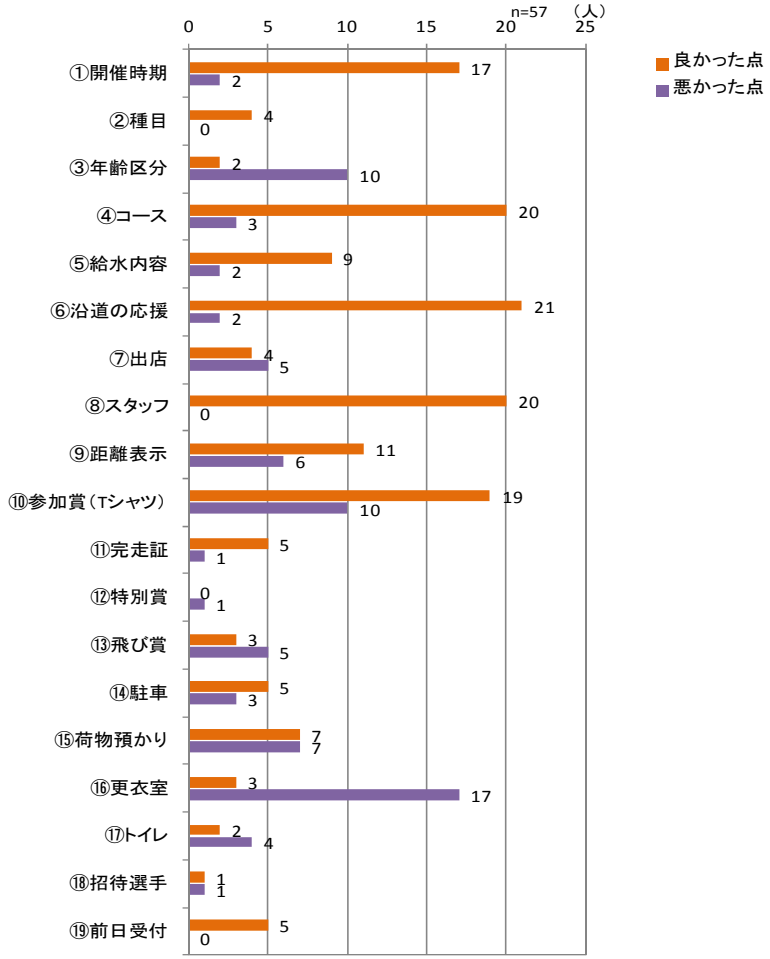
○主な個別意見

課題	・**以前はもっと近くに駐車**できたのに、ずっと遠くになっていた。 ・漁村センターのみでは**収容には限界**がある。 ・**各部スタート時間に差がないため、トイレ、道路の混雑**は大変。 ・今回雨だったので、**ビニールのカッパを途中で脱いで沿道に捨てている人**がいて、せっかく応援してくれているのに、少し残念でした。 ・**駐車場の誘導が良くない**。先着順であれば、受付に近い所から並ぶべき。 ・回数を重ねているので、役員は手際が良いが**新鮮味が欠ける**。
提案	・**他の大会の工夫を取り入れる**事も必要ではないか。去年と違っていいな、というような、サプライズが欲しい。 ・東京、千葉からの**専用列車**が出せるようになれば、良い。**走り終えた後に仲間と地元産のつまみで祝杯をあげられるような出店があれば良い**。 ・参加賞のＴシャツが昨年と同じ感じ。何か特色を出してくれたら。

③良かった点・悪かった点

・良かった点としては、「沿道の応援」をあげる人が最も多く、次いで「コース」、「スタッフ」、「参加賞」が多くなっています。

・悪かった点としては、「更衣室」が特に多く、次いで「年齢区分」、「参加賞」をあげる人が多くなっています。



④自由意見

・自由意見の内、特に課題に関する意見を中心に、主なものを下表に示します。
・トイレの案内や混雑に関する意見が多く見られました。
・その他、入浴の割引サービスなどの事前の情報提供、雨天時の対応、参加賞の地域特性等に関する意見、要望があげられています。

施設・設備等	・小便専用トイレをお願い致します。 ・駐車場が遠かった。
誘導・案内等	・千倉漁村センターの 2 階へあがる階段が、スタート前の混雑で通りにくかった。 ・**トイレのインフォメーション**がすくない。（×3） ・コース途中のトイレが冊子には載っておらず、スタッフに聞いた。
おもてなし・サービス	・**入浴割引、当日知った**。 ・荷物預りは無料で有難いが、300 円くらい徴収しても。 ・手話通訳者が助かりました。
その他	・ゼッケンを止める安全ピンが弱すぎる。危ない。 ・**雨天の場合の対応**、もう少し配慮していただきたい。 ・千倉で開催しているので、魚類がほしかった。**Ｔシャツはどこでも同じ。地域の特性を**だして欲しかった。

●まとめ（考察）

・全般的に、参加者の満足度は高いものの、個別意見からは、以下のような課題がうかがえます。

→雨天時にも臨機応変に対応できる**大屋根のある施設**等の活用

→マンネリとならない、他地区の大会と同じにならない、**南房総市ならではの特徴的な大会に**する工夫

→**まちづくり・地域の活性化への接続**（地元の飲食店や魚などのみやげもの店との連携等）

２．スポーツ交流イベント参加者の意向

（１）調査対象イベント及び調査概要

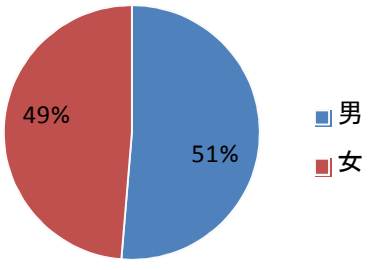
スポーツ交流イベントにおける来訪者を対象に、アンケート調査を行いました。以下にその概要を示します。

イベント概要	名称	南房総フラワーマーチ
	参加者数	約 3000 人
調査概要	①調査目的	・南房総市における交流イベントへの一般の参加者を対象に、南房総市における「スポーツのまちづくり」の推進に向けた課題や需要を把握する。
	②対象者	・イベント参加者
	③調査方法	・参加者への調査員によるインタビュー調査 ・出発式前及びゴール後に実施
	④主な調査項目	・属性（居住地、年齢、性別） ・日常的なスポーツの実施状況 ・南房総市におけるイベントへの評価と課題や要望
	⑤回収サンプル数	・115

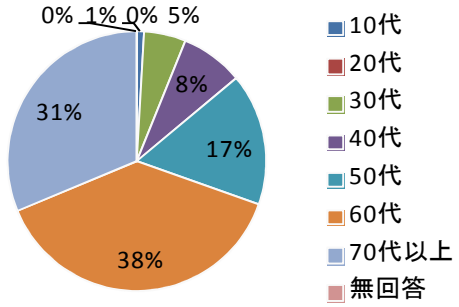
（２）アンケート結果の概要

①基本属性

・回答者の性別は男女でほぼ半々で、年齢は特に 60 代が 38%と多く、50 代以上で 9 割近くを占めています。



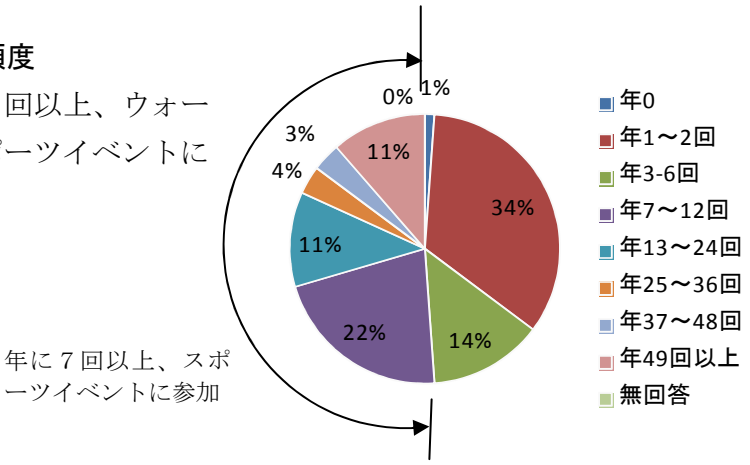
男	女
59	56



10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1	0	6	9	19	44	36

②スポーツイベントへの参加頻度

・約半数の人が、2 ヶ月に 1 回以上、ウォーキングを含む何らかのスポーツイベントに参加しています。

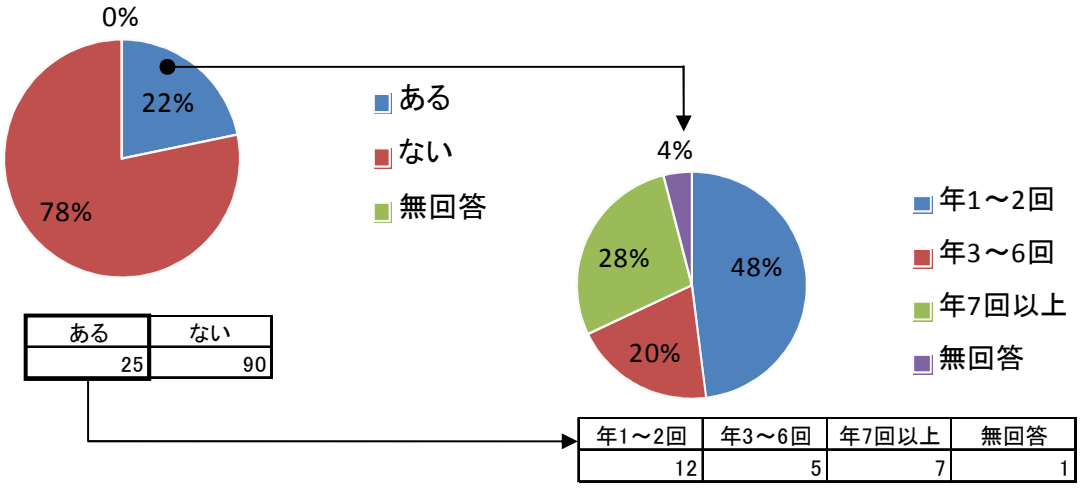


年0	年1～2回	年3-6回	年7～12回	年13～24回	年25～36回	年37～48回	年49回以上	無回答
1	30	12	19	10	3	3	10	0

③スポーツの為の旅行（合宿）等の実施状況

・仲間とのウォーキング（散策やハイキング）のための旅行の実施状況については、22%の人が「している」と回答しています。

・回数については、その内半数の人が、年に 1～2 回としているが、年に 7 回以上としている人も約 3 割います。

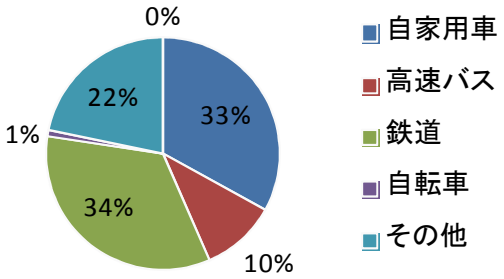


ある	ない
25	90

年1～2回	年3～6回	年7回以上	無回答
12	5	7	1

④南房総市への交通手段

・今回の南房総市への交通手段は、自家用車と鉄道が、それぞれ 33%、34%を占め、高速バスが 10%となっています。

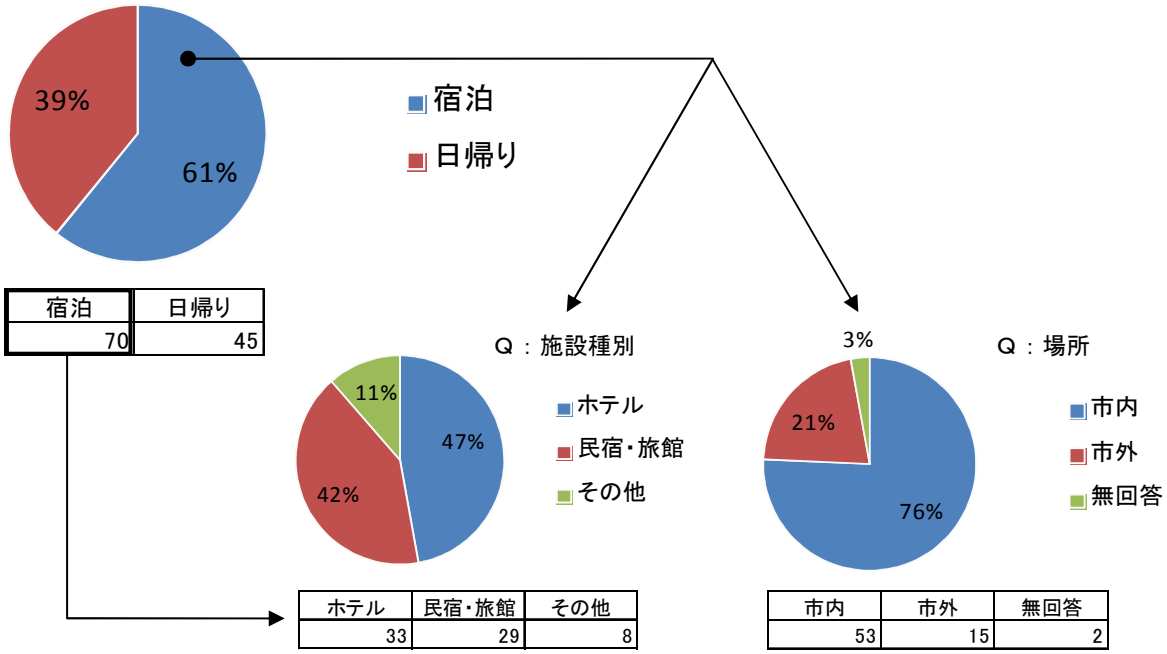


自家用車	高速バス	鉄道	自転車	その他	無効･無回答
38	12	39	1	25	0

⑤宿泊状況

・宿泊状況は、約 6 割の人が「宿泊する」と回答しています。

・宿泊者の施設種別は、ホテルが 47%、民宿が 42%で、場所では 76%の人が南房総市内に宿泊しています。



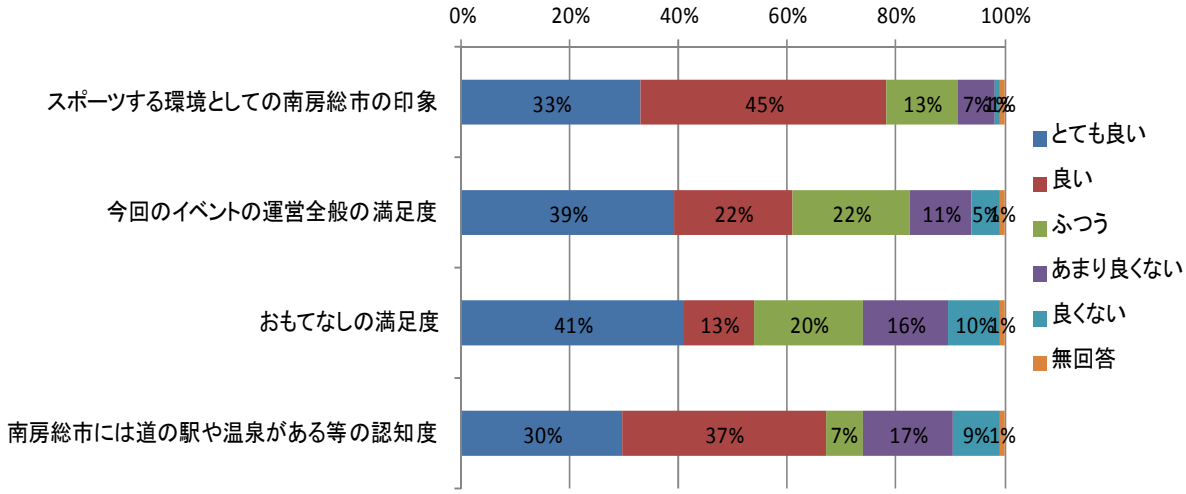
⑥南房総市におけるスポーツ交流イベントに関する評価

・「南房総市の印象」については、78%が良い印象をもっています。

・「今回のイベントの運営全般の満足度」については、満足しているのは 61%で、16%は不満としており、決して高いとは言えない状況です。

・「おもてなしの満足度」についても、満足しているのは 54%に留まり、26%は不満としており、満足度としては低いと言えます。

・「認知度」については、67%の人に知られていますが、知らない人も 26%と見られます。



⑦主な自由意見（具体要望、提案）

コース等	ロケーション	フラワーマーチと言うわりには**花が少ない**。（同種意見×3）
		山の中のみで、**海を見て歩く事が出来ず、残念**。（同種意見×2）
	距離	20km コースに参加したが、実際には 24km あった。（同種意見×2）
		5km コースは、団体で移動するので、スピードを合わせるのが大変。（同種意見×2）
運営	事前案内	**事前の案内が不十分**。8 時半頃だと思っていた。
	現地案内	**館山での案内が無かった**為、不安があった。（同種意見×3）
		途中での表示が少なく、分かりにくい。1km ごとに案内が欲しい。（同種意見×5）
		コースの**地図が分かりにくい**。（同種意見×5）
	進行	バスのスケジュールが不安。出発式から参加したい。
		100 円引きの**券の情報が錯綜**している。（同種意見×3）
		待ち時間が長く、もう少しスタートが早い方が良い。
	エイド等、記念品等	途中に**お茶が無かった**。書いてあったのに。（同種意見×2）
		コースの途中でお茶とか地元の食べ物を食べられると良い。（同種意見×2）
		参加費を **1000 円取っている割にサービスが悪い**。（同種意見×2）
おもてなし		おもてなしをもっと充実した方が良い
		帰ってきた時にもっと歓迎して欲しい。（同種意見×2）
		日帰り温泉があると良い。
その他、提案等	交通関連	電車の急行がでておらず不便。
		千葉から来るのに時間がかかる。イベントの日だけでも直通電車が欲しい。
		宿泊施設を充実させる。交通の便をよくする。高速バス、鉄道が少ない。
		参加者が少なく淋しい。**交通の便が悪い**からか？（同種意見×2）
	情報発信、ＰＲ	無農薬の野菜等を PR したら良い。
		草花がたくさん感じられる南房総の魅力を堪能できるイベントだと良い。

●まとめ（考察）

・参加者は、普段から**ウォーキング等を積極的に楽しんでいる壮年層から高齢者層**が多く見られます。イベントとしては、首都圏はもちろん、全国からの集客が見込まれるイベントと言えます。

・友人等との散策、**ハイキング等の旅行需要も見込まれる**ことから、**スポーツイベントの集客ターゲット**としても考えられます。

・南房総市の環境に関する印象は良い一方で、イベントに関する運営やおもてなしに関する満足度は高いとは言えず、今後の課題と言えます。

・具体的には、花や海を活かしたコース設定等、**南房総市の特性を活かしたプログラムの構築**や、**運営体制の改善等による案内やおもてなしの充実**が必要と考えます。また、交通事業者との連携等による**交通の利便性**、アクセス性の改善も必要と言えます。

３．宿泊施設関係者の意向

（１）調査対象及び調査概要

市内の宿泊施設を対象に、アンケート調査を行いました。以下にその概要を示します。

①調査目的	・南房総市内の宿泊施設の利用状況（利用者、時期等の特性）を把握するとともに、関係者の今後のスポーツのまちづくりに関する意向を把握する。
②対象者	・各宿泊施設の運営・管理者
③調査方法	・各宿泊施設へ郵送配布、回収
④主な調査項目	・施設概要（収容者数等） ・宿泊者の特性 ・スポーツイベントとの連携による集客方策に関する意向　等
⑤サンプル数	・回収 79（配布 173 施設）

（２）アンケート結果の概要

①サンプル概要

・回答は、民宿を中心に 79 軒から得られています。

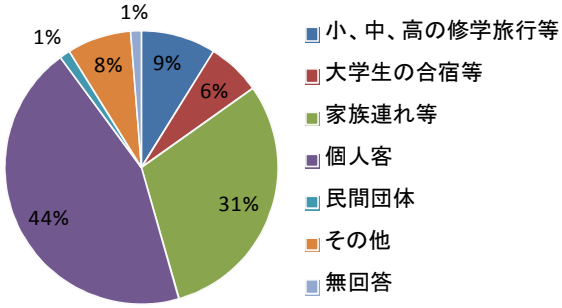
施設形態	ホテル	旅館	民宿・ペンション	その他	合計
サンプル数	5	13	58	3	79

②宿泊の状況、宿泊者の特性等

〇客層

・客層は、個人客が 44%と多く、次いで家族連れ等となっています。

・修学旅行や合宿等を主な客層としている施設もあります。

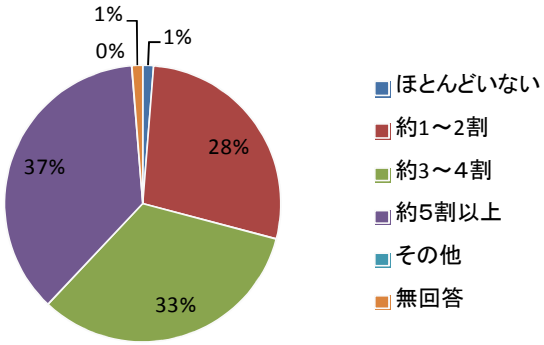


小、中、高の修学旅行等	大学生の合宿等	家族連れ等	個人客	民間団体	その他	無回答
7	5	24	35	1	6	1

〇リピーターの状況

・リピーターは、約 1～2 割、約 3～4 割、約 5 割以上が、それぞれ 3 分の 1 程度となっています。

・約 7 割の施設で、リピーターの比率が 3 割以上となっています。



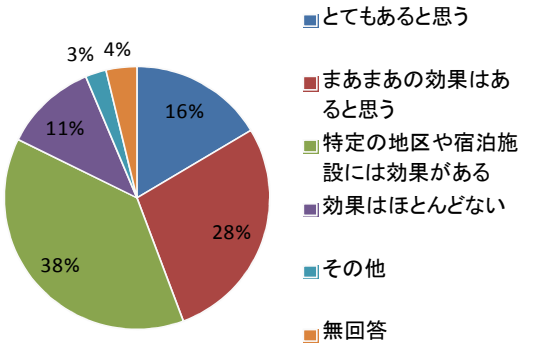
ほとんどいない	約1～2割	約3～4割	約5割以上	その他	無回答
1	22	26	29	0	1

③スポーツイベント等の影響等

○スポーツイベントの影響、効果

・スポーツイベントによる集客効果は、44%の施設で感じている状況です。

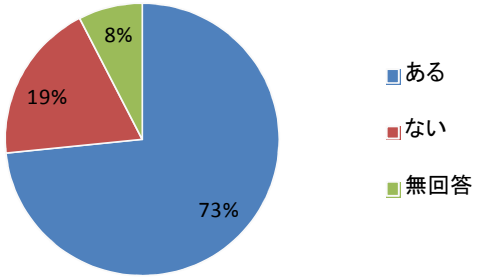
・一方、その効果は、特定地区や施設への効果とする意見も 38%見られます。



とてもあると思う	まあまあの効果はあると思う	特定の地区や宿泊施設には効果がある	効果はほとんどない	その他	無回答
13	22	30	9	2	3

○スポーツイベント参加者や合宿利用者の宿泊状況

・約 7 割の施設で、スポーツ交流を目的とした来訪者の利用があります。

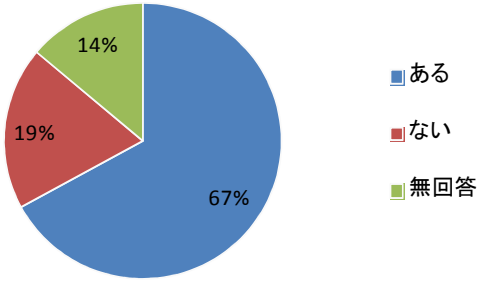


ある	ない	無回答
58	15	6

④スポーツ交流と連携した宿泊者の集客に向けた方策

○スポーツ交流の来訪者の受け入れ意向

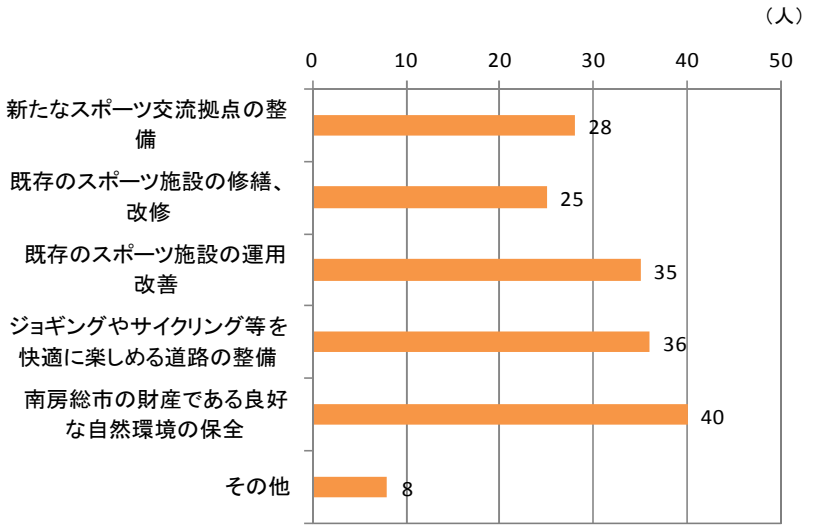
・スポーツ交流の来訪者の受け入れ意向については、67%の施設で「ある」と答えています。



ある	ない	無回答
53	15	11

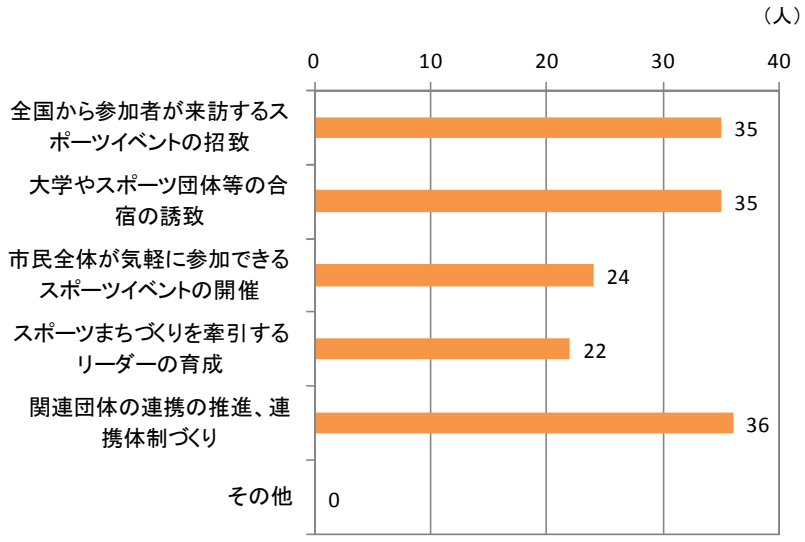
○必要な施設整備・環境整備に関する方策

・ハード関連の方策としては、「自然環境の保全」をあげる人が 40 人で最も多く、次いで「ジョギングやサイクリングを楽しめる道路整備」、「既存スポーツ施設の運用改善」が多くなっています。



○必要なイベントや仕組みづくりの方策

・ソフト関連の方策としては、「連携体制づくり」が最も多く、「スポーツイベントの招致」や「合宿の誘致」も同程度で多くなっています。



⑤主な自由意見

スポーツ交流の取り組み全般		・スポーツは、**幅広い年齢層で趣味や競技として**行われている。「体育」から「生涯学習」と、いろいろなスポーツ交流者を向かい入れる事が出来る。
		・スポーツ交流の取り組みは、特定の宿には効果的だが、公平さに欠ける。
		・対象種目や**目的を明確に**しないと、集客には効果的ではない。
ハード方策		・自然環境を生かした、**ハイキング、登山ロード等**のスポーツ環境整備に力を入れる。
		・**総合グランド**を一ヵ所、新規に作ってもらいたい。
		・富山地区にサッカー場や野球場等、たくさん出来ればよい。
		・グランド整備は、必須。
		・スポーツ後の「いやし」を担当する業界である。温泉施設の設備が必要。
		・大自然の中には良いものが多くある。これらを利用したスポーツ空間が必要。
ソフト方策	施設利用の仕組み	・スポーツ施設の利用は、**多くの宿が抽選で決めるので、困っている**。
		・スポーツ交流の来訪者が来ても、施設を地元関係者が利用しており、場所がない。せめて、**イベント時だけでも自由に使わせて**やれたら良い。
		・市外の方でもグランドを予約しやすくする。
	イベント	・南房総は、**海のイベント向き**と言える。大きな「海の公園」があるだけでも、集まってくる人は多くいると思う。
		・**スポーツ大会招致**は課題であると思う。
		・富山、他の山登り等、ゆっくり登って泊ってもらえるようなイベント。
		・イベントは大事だが、その労力を思うと、当施設にはあまり効果がない。イベントに頼らず、**普段からそういう客層が来れる環境**を整えることが大事。
		・市民だけの大会やイベントだけでなく、**全国から参加者が来訪するスポーツイベント**や大会の開催。宿泊に繋がる大会やイベントにしてほしい。
	情報発信	・**周知活動**。都心から近く、2 つの空港からも近い事を生かした集客を考える。
	その他	・**障害者スポーツの誘致**。障害者の公式試合が出来る場所が少ないと聞く。
		・まずは、**市民が身近なスポーツを楽しんで**いるかどうかだと思う。
体制や組織		・民間団体と協力し、協議して決めた方が良い。
		・自営業者と町づくり関係者との接点はむずかしい。**市民の意見を拾い上げて協力してまとまる**こと。お金をかければよいという問題ではない。
		・各スポーツに通じている人と宿泊施設の人の**交流や組織づくりが重要**。
		・競技団体組織の協力を得て、専門競技の運営が出来るように、**運営の専門スタッフの育成**。

●まとめ（考察）

・宿泊施設の**ピークは 8 月**が圧倒的に多く、利用者は個人や家族連れが多くを占めています。

・現況のスポーツ**イベントによる集客効果は、44%の施設で感じている**一方、**効果は特定地域や施設のみとする意見も 38%**あります。

・約 7 割の施設で**スポーツ交流を目的とした宿泊客の受け入れ**経験があり、また、同程度の施設で今後も受け入れ意向があります。

・今後は、旧 7 町村の地域特性を活かし、宿泊施設と連携して、全市的にスポーツ交流の効果が波及していくような取り組みの具体化が課題と思われます。

・具体的には、今後のハード関連の方策では、南房総市の財産である**自然環境を保全**しつつ、ジョギングやサイクリング等を楽しめる**道路等の整備**や**施設運用の改善**、**新たな拠点整備**等が求められています。また、ソフト方策では、**関係者間の連携体制の構築、イベント誘致、合宿誘致**等を求める意見が多く見られます。

４．関係団体の意向

南房総市において「スポーツのまちづくり」を進めて行くにあたっては、南房総市の「スポーツ」や「交流」に関する団体との協力、連携が不可欠です。ここでは、前項で示した関連団体にヒアリングを実施し、それぞれの概況や「スポーツのまちづくり」に関する意向等を把握した上で、複数の団体に共通した課題認識や方向性、類似する提案、及び特徴的な提案等を総括的に整理します。

<table>
<tr><td colspan="2">現況の問題点・課題</td><td>・指導者の高齢化、指導者不足
・少子化による各競技団体間での子どもの取り合い
・関係団体間の連携不足、事業に関する役割分担ができていない
・各スポーツ施設の予約の調整が難しく、利用も不効率
・スポーツ合宿時の宿泊施設からスポーツ施設への輸送手段の確保が困難
・観光のオフシーズンにおける入り込み客の底上げ（平準化）
・高齢者の健康づくりのトレーナー等、専門家がいない</td></tr>
<tr><td colspan="2">スポーツのまちづくりの方向性</td><td>・「スポーツのまちづくり」に関する基本方針の設定が必要
・関係団体の役割の明確化と連携強化、情報共有（連携体制づくり）
・子どもにスポーツに触れてもらう機会づくり（複数のスポーツクラブを掛け持ちできる仕組みづくり）
・スポーツ施設の利用、活用の効率化
・「スポーツのまち」としての情報発信、ＰＲ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">個別提案</td><td>ハード整備
運用改善等</td><td>・イベント誘致に向けた、拠点となるスポーツ広場の整備
・スポーツ施設の運営における維持管理コストや事業性の検討（商業施設等の併設）</td></tr>
<tr><td>ソフト方策</td><td>●イベント関連
・地域の資源を活かしたイベントの実施（森林セラピー等）
・マイナースポーツ大会の誘致
・障害者のスポーツイベント
●その他
・大規模イベントの受け入れに向けた「分宿」の仕組みづくり
・スポーツ施設や宿泊施設の予約状況が把握できる、便利な予約システムの構築
・「山ガール」など若い女性を集客ターゲットとした集客
・南房総市のスポーツ観光資源である一次産業（農業、漁業）の振興
・首都圏住民を対象とした、二地域居住、移住等の促進</td></tr>
</table>

第３章　スポーツのまちづくりに向けた課題

１．これまでの検討結果の整理

（１）第１章のまとめ

スポーツのまちづくりに向けた課題を抽出するにあたって、「第１章　南房総市の実態把握」について、あらためてその概要を確認します。

<table>
<tr><td>１．上位計画、関連計画</td><td>
●南房総市総合計画
・計画期間：平成 20 年～H29 年度（10 年間）
・将来像：　ひと・ゆめ・みらい 地域で創る魅力の郷 南房総
・基本理念と基本方針
<table>
<tr><td>基本理念</td><td>●地域力の発揮　●やすらぎの実現　●協働と参画</td></tr>
<tr><td>基本方針</td><td>１．市民に「活」力をあたえるまち（産業・雇用）
２．市民が「交」流するまち（交通・情報通信）
３．市民が「住」みやすいまち（生活・自然）
４．市民に「優」しいまち（保健・医療・福祉）
５．市民が「輝」くまち　（教育･文化･スポーツ）
６．市民が「創」るまち　（行財政・市民参加）</td></tr>
</table>
●南房総市観光振興ビジョン（H22～26 年度）
<table>
<tr><td>観光施策の方向性</td><td>・地域の特色を活かした戦略
・地域資源を活かした効果的な情報発信
・観光受け入れ態勢の整備　･交流拠点施設の機能強化
・観光人材の育成　・都市交流の推進</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>２．南房総市の概況</td><td>
●位置
・東京から、100km 圏。アクアラインの開通等により交通ポテンシャルは高い。
●人口
・H22 年の人口 42104 人が、H29 年は 38400 人と推計されており、さらなる人口減少（過疎化、人口流出）が予想されている。
・高齢化率も、H22 年 37.5%が、H29 年は 44.8%に拡大と予測。
●産業
・第一次産業(農漁業等)が、21%を占め、県内では比較的高い。
・個別産業別では「医療、福祉」(1 位)、「宿泊業･飲食サービス業」(4 位)が多い。
・人口減少は、若年層が市外に雇用を求めて流出していることも要因。
●歴史
・「里見八犬伝」等の里見氏に関わる歴史資源がある。
・南房総市は、H18 年 3 月に 6 町 1 村の合併により誕生。
</td></tr>
</table>

３．自然環境	・暖流（黒潮）により、冬に暖かく夏涼しい海洋性の**温暖な気候**である。 ・県下最高峰の愛宕山（408m）をはじめとした山々の緑や、市の西側の東京湾、東側の太平洋による海洋の**自然に恵まれ**ている。 ・豊富な自然を活かすべく、**エコツーリズム等の取組**も進められている。
４．スポーツ交流に関わる環境	**●スポーツ施設、イベントの実施状況** ・公共のものだけでも**約 40 のスポーツ施設、及び約 50 の学校体育施設**があり、利活用されている。特に学校体育施設については、その**統廃合が予定**されている。 ・年間を通じて、各種のスポーツイベントが実施されている。 ●交流（観光）の状況 ・観光入込客数は、減少傾向　(H14:約 660 万→H20:約 506 万人) ・観光施設への入り込み客は 2 月が、**宿泊客は 8 月がピーク**。 ・スポーツイベントへの参加者数では、南房総市ロードレース千倉が増加傾向の一方、**南房総フラワーマーチは減少傾向**。 ●関連団体 ・スポーツ交流の関連団体としては、体育協会や個別の競技団体、観光協会、旅館組合や民宿組合、及び道の駅運営事業者（(株)ちば南房総）などがある。

（２）第２章のまとめ

前項同様に「第２章　スポーツ交流の関係者の意向把握」について、その概要を確認します。

１．スポーツイベント（競技）への参加者の意向	・イベント自体については、参加者の満足度は高い一方、個別の意見からは、以下の課題がうかがえる。 →雨天時にも対応できる施設（大屋根）の活用 →南房総市ならではの特徴的な大会にする工夫 →まちづくりや地域の活性化への接続
２．スポーツ交流イベントの参加者の意向	・南房総市の環境に関する印象は良い一方で、今回イベントに関する運営やおもてなしに関する満足度は高いとは言えず、今後の課題と言える。 ・具体的には、花や海を活かしたコース設定等、南房総市の特性を活かしたプログラムの構築や、運営体制の改善等による案内やおもてなしの充実が必要と考える。また、交通事業者との連携等による交通の利便性、アクセス性の改善も必要と言える。
３．宿泊施設関係者の意向（宿泊施設アンケート）	・約７割の施設でスポーツ交流関連の宿泊客の受け入れ経験があり、今後も受け入れる意向がある。 ・旧７町村の地域特性を活かした、宿泊施設と連携して、全市的にスポーツ交流の効果が波及していくような取り組みの具体化が課題。 ・具体的には、ハード方策としては、自然環境を保全・活用しつつ、ジョギング等を楽しめる道路等の整備や施設運用の改善、新たな拠点整備等が求められている。また、ソフト方策では、関係者間の連携体制の構築、イベント誘致、合宿誘致等を求める意見が多い。
４．スポーツ交流の関係団体等の意向（ヒアリング概要）	**〇現況の問題点、課題認識** ・少子化による問題（各スポーツ競技団体による子どもの取り合い）や、高齢化による問題（指導者の不足）が顕在化している。 ・関係団体間の連携不足、役割分担ができていない。 ・各スポーツ施設の予約の効率化や宿泊施設からスポーツ施設への輸送手段の確保が課題。 ・トレーナー等の専門家がいない。 **〇対応方策に関する意向** ・全般的な意向としては、関係団体間の連携強化、体制づくり、子どもがスポーツに触れてもらう機会づくり、スポーツ施設の利活用の効率化、情報発信・ＰＲがあげられる。 ・個別の事業や取り組みとしては、拠点となるスポーツ広場の整備、スポーツ施設の運営における維持管理コストや事業性の確保、若い女性をターゲットとした集客、一次産業の振興、地域の資源を活かしたイベント（森林セラピー等）、マイナースポーツ大会の誘致、障害者のスポーツイベント、二地域居住、移住等の促進等の意見、要望がある。

２．スポーツのまちづくりに向けた課題

前節でその概要を示した第１章及び第２章の内容を踏まえ、南房総市における今後の「スポーツのまちづくり」に向けた問題点と課題を、「南房総市基本構想」の基本方針の項目を念頭に、整理します。

＜スポーツのまちづくりに向けた問題点と課題＞

「基本構想」の基本方針の項目	問題点	課題
産業・雇用	・市の就業者数の減少は、**若年層が市外に雇用を求めて流出**していることも要因の一つ。 ・高齢化時代の財政を考えると**高齢者の雇用**機会の創出も問題となる。 ・スポーツ観光を支える一次産業の従事者が高齢化し、**後継者の不足**が問題である。	・スポーツをキーワードとしたまちづくりを進め、若者や高齢者を意識した**スポーツ関連の雇用機会を創出**する必要がある。 ・特に、スポーツに適した温暖な気候や自然の特性、医療や宿泊等の産業**特性を活かした取組**が課題となる。 ・**一次産業の振興（支援策等）も課題**である。
交通・情報通信	・アクアラインの開通により、東京との交通の利便性は向上したが、**交流人口の増加に結びついていない**。（観光客数は減少傾向） ・ＩＴを活用した**情報提供・発信も、不足**しており、問題と考える。	・本市の**位置的ポテンシャルが周知、ＰＲされていない**。ＩＴを活用した、**市内のスポーツ資源に関する情報発信**が課題となる。 ・交通の利便性を活かしたスポーツ交流の**集客に向けたイベント等の具体化**が課題となる。 ・**イベント時に対応した交通の確保**、事業者との連携も課題と言える。
生活・自然	・人口減少、高齢化が進展するなか、**コミュニティの崩壊**、地域防災、防犯への影響が懸念される。 ・高齢化により、関係者の人手が少なくなるなか、スポーツ交流の資源となる**自然環境の保全**も問題となる。	・市民が、スポーツを通じて**交流できる拠点施設等の「場所づくり（施設整備等）」や「仕組みづくり（プログラム等）」**が課題となる。 ・スポーツ交流の資源となる自然環境の保全に向けた、**各種施設等の管理運営方法**等も課題となる。

保健・医療・福祉	・高齢化の進展に伴い、**医療費の増大、家計への影響**も考えられ、問題となる。 ・高齢者に、より健康になってもらう必要があるが、そのための専門家はいない。 ・障害者への対応も問題となる。	・医療費の抑制に向け、高齢者を中心とする**市民の健康づくり**が課題となる。 ・**スポーツを通じた障害者の社会参加**の機会の創出も課題である。 ・これらを支える**トレーナー等の専門家の配置、育成等**も課題である。
教育・文化・スポーツ	・少子化や合併を踏まえ、**市内の児童・生徒の適正な、教育環境の形成**が問題となる。 ・里見氏関連等の歴史・文化資源もあり、有効活用が考えられる。	・各種の**学校体育施設の統廃合、必要に応じた施設の整備、運営の効率化**等が課題となる。 ・歴史・文化等の地域資源を活用したウォーキングプログラム等のスポーツへの接続が課題となる。
行財政・住民参加	・少子高齢化の進展の中、財政状況は厳しくなる。財政負担軽減に向け、**各種施設の利活用、運営の効率化が問題**となる。 ・住民がまちづくりに参画する機会は限定的である。	・各種施設の利活用、効率的な運用に向けた関連団体の**連携体制づくり、運営を担う組織の構築**が課題となる。 ・住民がスポーツ交流を通じて「まちづくり」にも参加する仕組みづくりも課題と言える。

第４章　スポーツのまちづくりに向けた基本方針

１．スポーツのまちづくりの基本方針

これまでに確認した南房総市の現況や整理した課題等を踏まえ、基本方向及び基本方針を以下のように設定します。

（１）基本方向

基本方向については、南房総市総合計画等の上位計画との整合や課題への総括的な対応を念頭に、基本理念及び２つの基本方向を示します。

基本方向

■基本理念

・本計画は、以下を基本理念として設定し、これに基づき策定する。

南房総の資源を活かした「スポーツ交流」を通じて、
地域の活性化を図り、
市民の心身の健康づくりを実現する

■基本方向

〇スポーツ交流に適した本市の資源を最大限に活かした地域の活性化

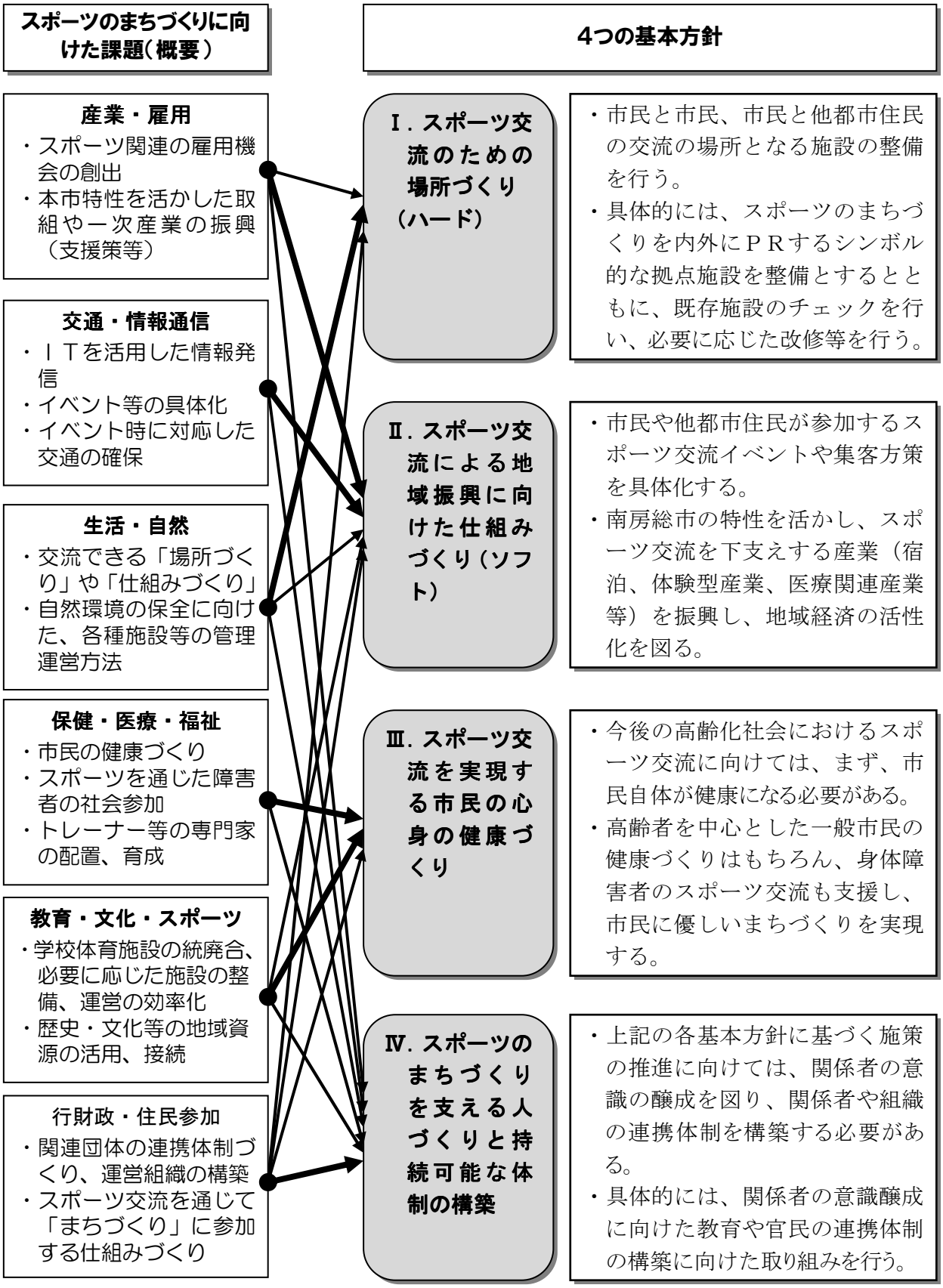
・南房総の豊かなスポーツ資源を活用し、県南地域のスポーツ交流拠点としての基盤整備やスポーツ合宿・大会の誘致を図り、スポーツ交流人口を拡大し、地域経済の活性化を目指す。

〇市民の心身の健康づくり

・子どもから高齢者までが多様な種目、レベルでスポーツに親しみ、心身の健全な発達や健康増進を図ると共に、地域内外との交流の輪を拡大させ、スポーツによる賑わいのあるまちづくりを目指す。

（２）基本方針

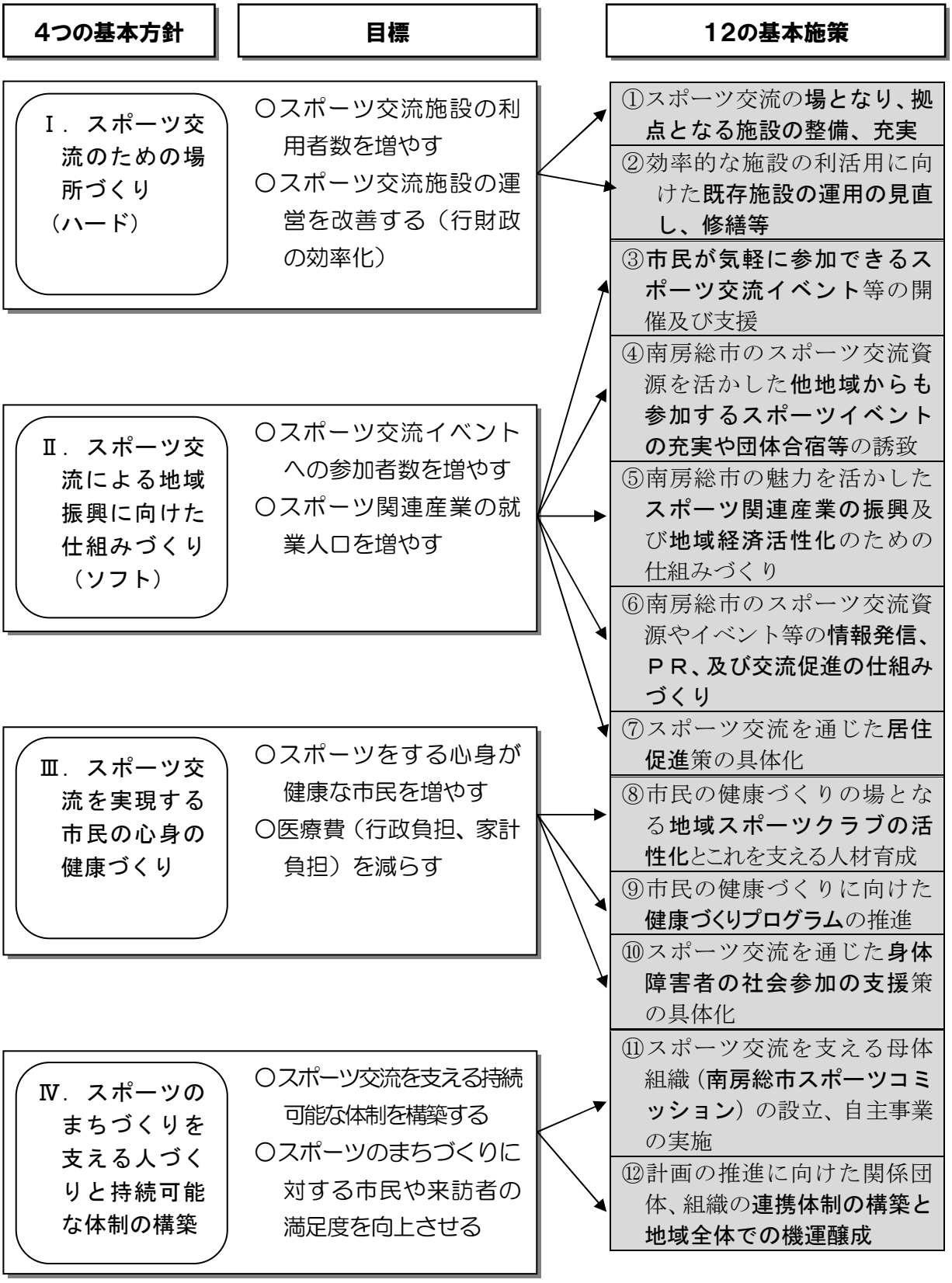
基本方針については、第 3 章で整理した「スポーツのまちづくりに向けた課題」の各項目を前提として、これらへの対応を踏まえ、４つの基本方針を設定します。



２．スポーツのまちづくりの目標と基本施策

（１）目標と基本施策の設定

前項で示した基本方針を前提に、これに対応する目標を定めるとともに、第 2 章の各意向調査等から得られた意見や提案、その他先進事例等を参考に、基本施策を設定します。



（２）12 の基本施策の概要

12 の基本施策の概要、及び第２章で示した関係者の意向等を参考に、南房総市で考えられる主な事業や取り組みのメニューを下表に示します。なお、このうち重点事業は◎で示します。なお、重点事業の選定の考え方は、第６章で示します。

12 の基本施策	考えられる主な事業や取り組み （◎：重点事業）
①スポーツ交流の場となり、拠点となる施設の整備、充実 ・市民間の交流や市民と他都市住民の交流場となる施設、特に拠点、シンボルとなり、交流を促進するために必要となる施設を整備する。	**◎多目的に利用できる新たなスポーツ交流拠点施設（スポーツ広場）の整備** ○ハイキングコースの充実、整備 （散策路等の整備）
②効率的な施設の利活用に向けた既存施設の運用の見直し、修繕等 ・人口減少、少子高齢化時代に対応し、既存施設の利用状況、運用状況を精査し、各施設の体系的な運用の見直しや、必要に応じた廃止、修繕等を行う。	○体育・スポーツ交流施設の利用状況、管理・運営状況の把握 **◎既存のスポーツ交流施設の利活用方針、計画の具体化**
③市民が気軽に参加できるスポーツ交流イベント等の開催及び支援 ・市民が気軽に参加できるスポーツ交流イベントを開催、支援し、市民間の交流を促進する。	○市内スポーツ団体等のスポーツ交流イベントの具体化 ○既存のスポーツイベントの運営の効率化（効果の増大に向けた工夫）
④南房総市のスポーツ交流資源を活かした他地域からも参加するスポーツイベントの充実や団体合宿等の誘致 ・他都市住民が参加するスポーツイベントや、交流施設を活用した大学等の合宿を誘致し、交流を促進する。	**◎新たなスポーツイベントや合宿の誘致** ○近隣大学との連携によるスポーツイベントの運営 ○フラワーマーチとの連携 ○民間のスポーツ・レクリエーション施設と連携した誘客プログラムの検討
⑤南房総市の魅力を活かしたスポーツ関連産業の振興及び地域経済活性化のための仕組みづくり ・スポーツ交流を下支えする食、宿泊、農業、漁業、医療等の関連産業を振興し、地域経済の活性化を図る。	○健康づくりメニュー、食品等の開発 **◎森林セラピーに関する取り組みの推進** ○イベントに利用できる地域通貨の導入(イベントと地元商業との連携)
⑥南房総市のスポーツ交流資源やイベント等の情報発信、ＰＲ、及び交流促進の仕組みづくり ・地域外の住民が、南房総市に来訪したくなるような情報発信、ＰＲ、仕組みづくりを行う。	○スポーツ関連資源のデータベースの構築（官民のハード、ソフト） ○上記を前提としたＨＰ、及びマッチングシステムの構築 ○スポーツ施設マップの作成、配布

12の基本施策	考えられる主な事業や取り組み （◎：重点事業）
⑦スポーツ交流を通じた居住促進策の具体化 ・マリンスポーツや農業・漁業等と連携した週末居住（二地域居住）やスポーツ交流を目的とする長期滞在（移住）を促進する。	○サーフィン等マリンスポーツ愛好者の二地域居住の支援 ○長期滞在、体験型スポーツ（農業・漁業体験等）のプログラム構築
⑧市民の健康づくりの場となる地域スポーツクラブの活性化とこれを支える人材育成 ・市民のスポーツ交流の場となるスポーツクラブの活性化を図るとともに、その運営を支える人材を育成する。	○総合型地域スポーツクラブの活性化 ○上記の運営を支えるインストラクターや指導員の育成 ○上記を支援するスポーツボランティアの育成
⑨市民の健康づくりに向けた健康づくりプログラムの推進 ・上記のスポーツクラブが先導し、市民の健康づくりに向けた「健康づくりプログラム」を導入し、推進する。	○健康運動指導士の配置や健康管理システムの構築 ○病院等、医療機関との連携 **◎市民が楽しく続けられる健康づくりプログラムの具体化**
⑩スポーツ交流を通じた身体障害者の社会参加の支援策の具体化 ・身体障害者の一層の社会参加に向け、スポーツ交流を支援、促進する。	○障害者のスポーツ交流への参加の支援 ○障害者のスポーツ大会誘致
⑪スポーツ交流を支える母体組織（南房総市スポーツコミッション）の設立、自主事業の実施 ・スポーツ交流の地域づくりの担い手、個別事業の実施主体となる＜南房総市スポーツコミッション＞を設置する。	**◎（仮称）南房総市スポーツコミッションの設立** ○上記における事業計画の具体化、推進
⑫計画の推進に向けた関係団体、組織の連携体制の構築と地域全体での機運醸成 ・関係団体間の調整を行い、効果的な施策の展開、進行管理を行う連携体制を構築し、スポーツのまちとしての雰囲気づくりに向けた取り組みを行う。	○（仮称）南房総市スポーツ交流推進協議会の設立 ○上記による市民へのスポーツに関する啓発（シンポジウムや関連セミナー等）

第５章　基本施策の内容

１．「スポーツ交流のための場所づくり」に関する施策

基本施策①：スポーツ交流の場となり、拠点となる施設の整備、充実

1) 施策の概要

スポーツ交流のためには、その「場所」となる広場や体育館等の施設、散策やジョギング、サイクリング等のための安全な道路等が必要となります。

南房総市には、既に多くのスポーツ施設があり、活用されている一方、市民が「南房総市のスポーツの拠点」として感じられる施設や、スポーツイベントの誘致に有効なアピール力のある施設は無い状況で、訴求力のある拠点となる施設が必要と言えます。

また、散策やハイキング等を目的とした観光客は、現在 2 月をピークに多く見られますが、一層の誘客に向けては、来訪者が安全、安心に散策を楽しめるようなハイキングコースの充実、整備を行うことが有効です。

2) スポーツ広場の整備

南房総市における現在の施設の配置状況や利用状況、利用の需要可能性等を踏まえ、南房総市のスポーツのまちづくりのシンボルとなり、活動の拠点となりうる施設を整備します。

具体的には、下記の川場村の事例に示すような、各種のフィールドスポーツに対応可能で、プロスポーツの合宿等にも対応可能な機能、規模を有する施設を想定します。

■事例：群馬県川場村におけるスポーツ広場の整備

・群馬県川場村では、スポーツ交流の拠点となる「スポーツ広場」を平成 24 年７月に整備し、活用している。

・地域におけるスポーツ交流のシンボルとなっているだけでなく、女子サッカー「なでしこリーグ」の試合にも利用され、その模様はＴＶのスポーツ番組でも放映されるなど、外部にアピールできる資源となっている。





世田谷×仙台戦の入場風景
（平成 24 年 10 月 28 日）
出典：朝日新聞ＨＰ

3) ハイキングコースの充実、整備

南房総市では、ハイキング目的の観光客の誘客に向け、ハイキングコース等を設定し、ＨＰ等を活用して、その情報発信等を行っています。特に「とみさん伏姫」コース周辺には、里見氏ゆかりの歴史的施設等もあります。このような歴史文化施設と連携し、ハイキングコース等の充実を図り、必要に応じた整備等を行います。

■南房総市ハイキングコース

・以下の「とみさん伏姫ハイキングコース」等の８つのハイキングコースを設定し、観光客の観光プランづくり等を支援している。



●８つのハイキングコース

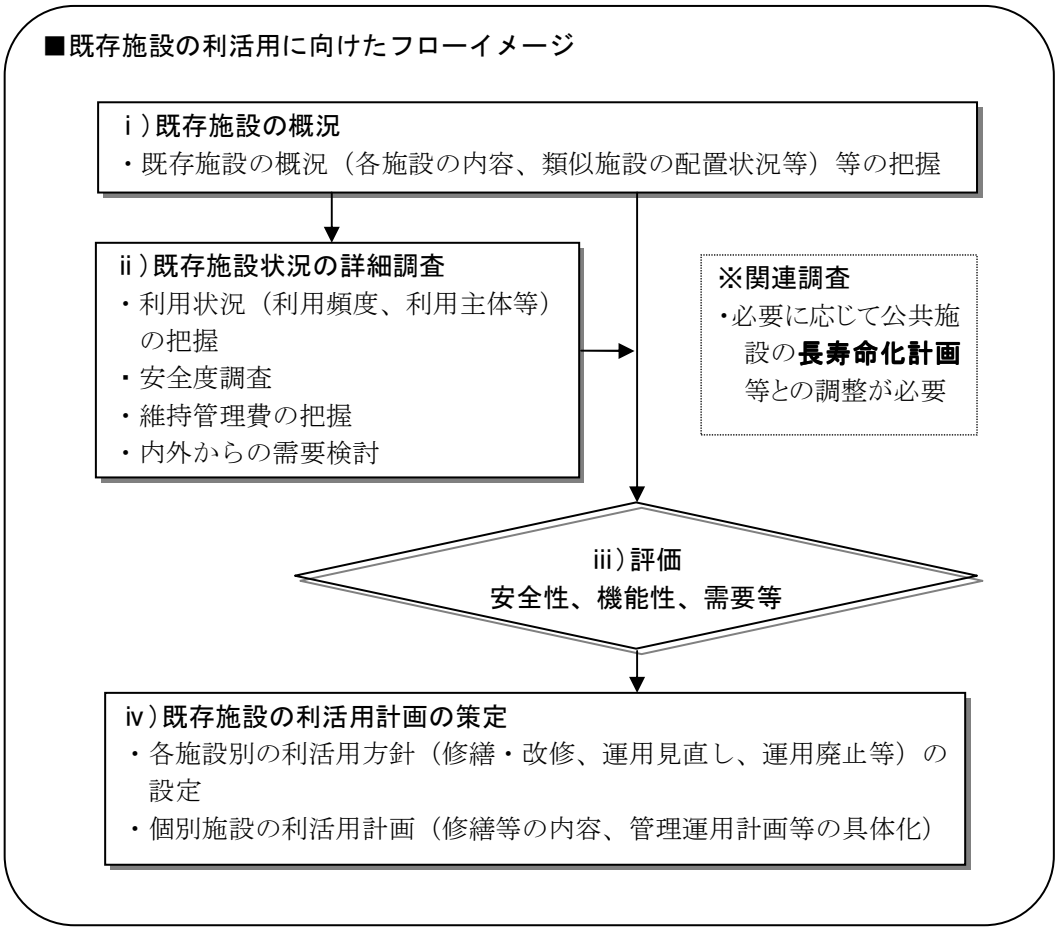
コース名	概要
とみさん伏姫ハイキングコース	・里見八犬見伝のふるさと「富山（とみさん）」を巡る初心者向きコース
伊予ヶ岳ハイキングコース	・標高３３６ｍの伊予ヶ岳への「山登り」コース
とみうら遊楽散歩道	・枇杷の産地・富浦の海と岬、花畑を巡るコース
三芳・森林遊歩道コース	・歴史と自然を満喫できるコース
御殿山・大日山ハイキングコース	・御殿山から大日山への山歩きコース
花嫁街道ハイキングコース	・眺望が人気で、名所も多いコース
千倉里山遊歩道コース	・花と海と里山が楽しめるコース
白浜民話のみち散策コース	・白浜地区に残る伝説や歴史に触れるハイキングコース

基本施策②：効率的な施設の利活用に向けた既存施設の運用見直し、修繕等

1）施策の概要

人口減少に伴いスポーツ施設の利用効率の低下が懸念され、また、少子化により学校の統廃合が計画されているなか、既存の社会体育施設や学校体育施設の運用の見直しによる利用効率の向上や、必要に応じた修繕や廃止等による維持管理のための行政コストの軽減は、喫緊の課題と言えます。

まずは、現況の各体育施設やスポーツ交流施設の安全度、利用状況、管理運営状況等を把握する必要があります。その上で、関連調査との調整や地元関係者の意向、今後の利用需要等も踏まえ、各施設別の修繕・改修、現状維持、運用方法の見直し、運用廃止等の方針を定め、個別施設の修繕・改修等の計画や、管理運用の改善計画を具体化するものとします。

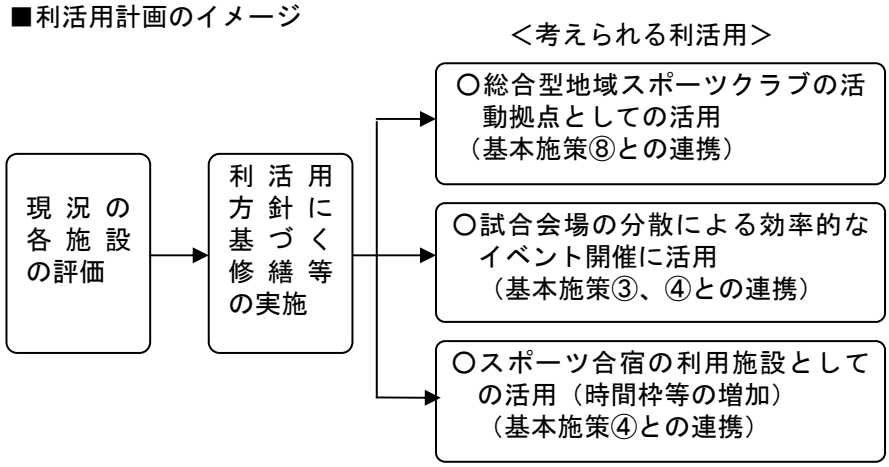


2) 利活用の方向性

既存施設の利活用の方向性としては、大きくは、総合型地域スポーツクラブの活動拠点としての活用、複数の類似施設があることを活かしたイベント、現況でも行っているスポーツ合宿への対応の充実（利用時間帯の拡充等）が考えられます。

また、文部科学省では、「スポーツ立国戦略」等に基づき公共スポーツ施設の整備を推進していますが、これを補完するものとして、学校体育施設等の現有資源の有効活用も進めています。以下にその事例を示します。

■利活用計画のイメージ



■事例：学校施設を利用した総合型地域スポーツクラブの活動（熊本市）

・熊本市の総合型クラブでは、学校施設の 19:30～21:30 の時間帯を利用して、活動している。

・活動には、指導者としてスタッフが施設にいるため、当該スタッフが学校施設管理業務も行っている。

・クラブスタッフの人件費を、管理業務委託料からまかなうことで、総合型クラブの運営を工面している。



出典：文部科学省『学校施設等の有効活用実践事例集』

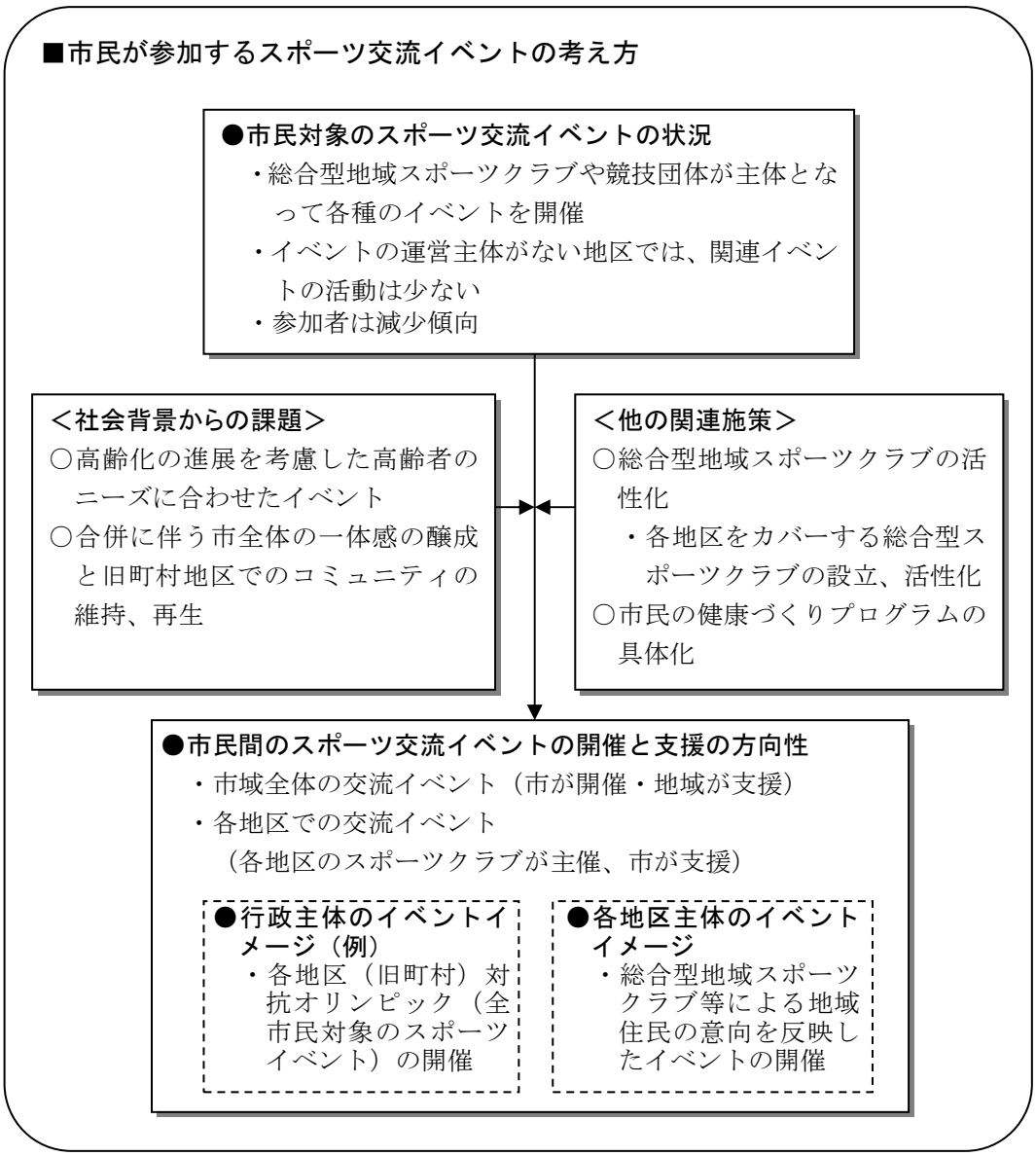
２.「スポーツ交流による地域振興に向けた仕組みづくり」に関する施策

基本施策③：市民が気軽に参加できるスポーツ交流イベント等の開催及び支援

1) 施策の概要

南房総市では、これまでも旧町村地区や地域スポーツクラブ、スポーツ少年団等が主体となったイベント等が開催されています。しかしながら、少子高齢化の中で、その参加者が減少している等の状況もうかがえます。このことは、地域のコミュニティ形成の面、つまり地域防災、防犯面からも問題となります。市民が気軽に参加でき、元気になれるスポーツ交流イベントの開催や、地域イベントを支援する必要があります。

基本的には、行政が主体的に行うイベントと、各地区が主体となったイベントを区別して考えます。その考え方を下図に示します。ここでは、第 2 章の意向調査等における意見を参考に「(仮称) 各地区（旧町村）対抗オリンピック・パラリンピック」を提案します。また、基本施策の⑧で示す地域スポーツクラブによるイベントの支援策（費用の補助）等も考えられます。



2)南房総市民を対象としたスポーツイベントの実施イメージ

前述した「(仮称) 各地区（旧町村）対抗オリンピック・パラリンピック」の実施概要のイメージを下記に示します。

イベントを通じて、各地区（旧町村）間のコミュニケーションを促進し、結果的に南房総市全体としての一体感の醸成を目的として実施します。

■市民を対象としたスポーツイベント「(仮称) 各地区（旧町村）対抗オリンピック・パラリンピック」の実施イメージ

〇イベント概要

・各地区（旧町村）を「国」に見立てた市内各地区（旧町村）対抗のオリンピック、パラリンピックを開催する。

・各地区住民間のコミュニケーションを促進し、市全体の一体感の醸成を目的とする。

〇競技種目等における工夫

・小学生から高齢者まで各世代が参加できる種目設定

・南房総市縦横断駅伝による各旧町村を回るコース設定

・ウォータースポーツは、東京湾側と太平洋側の両方で実施

・既成の競技だけでなく、南房総市の資源や特性等を活かした種目の設定

・各旧町村での得意分野（競技）のバランスに配慮

・医療機関との連携による障害者スポーツの導入　等

〇体制

・主催：南房総市

・運営：(仮称) 南房総市スポーツコミッション(市からの運営委託)

・後援・協力：体育協会、(株)ちば南房総、NPO スフィーレ
南房総市社会福祉協議会　等

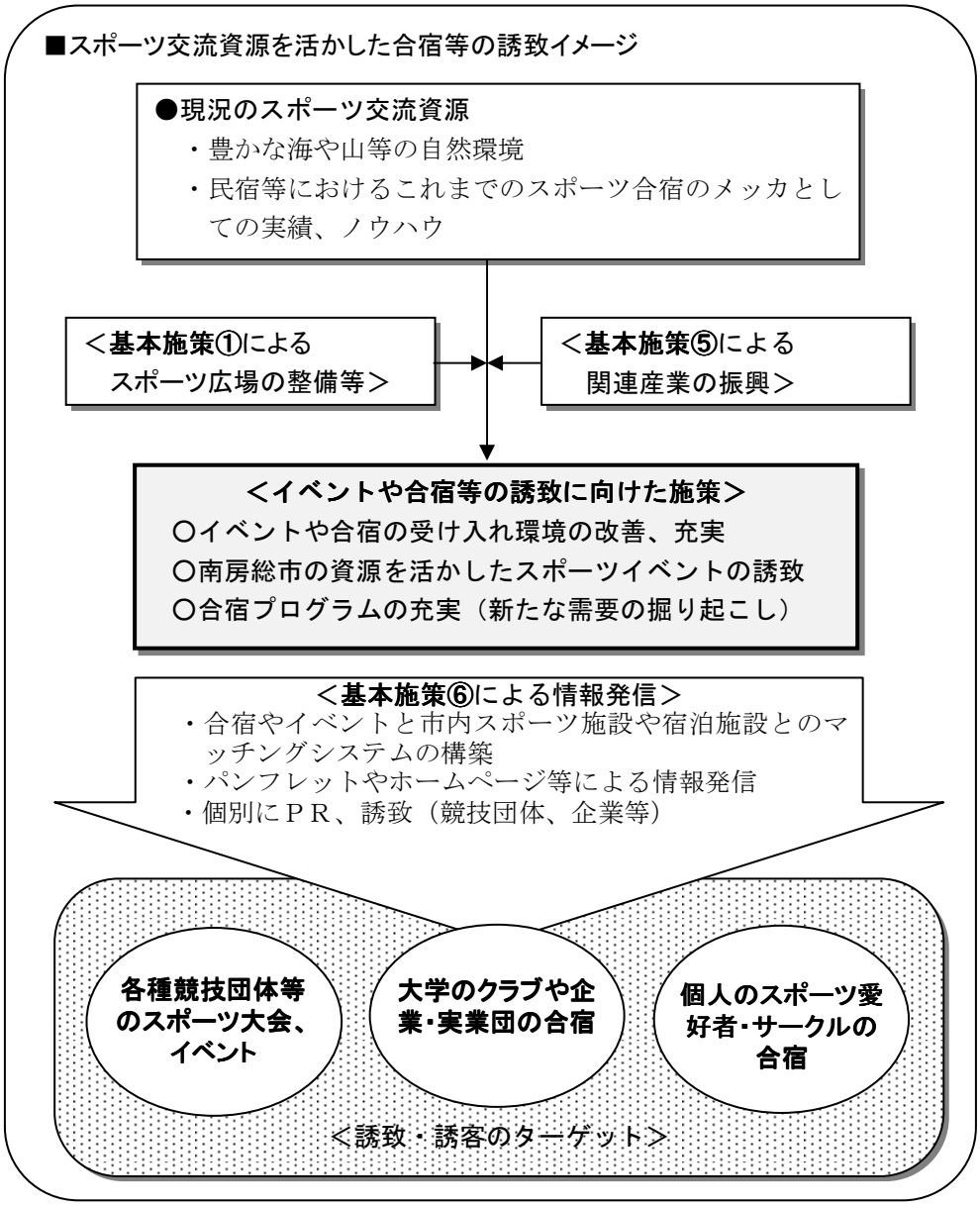
基本施策④：南房総市のスポーツ交流資源を活かした他地域からも参加するスポーツイベントの充実や団体合宿等の誘致

1) 施策の概要

南房総市は、古くから多くの人々がスポーツ合宿に訪れている一方、少子化の中、その需要は減少傾向であり、新たな需要を掘り起こす必要があります。

本計画では、「スポーツ広場の整備」や「スポーツ関連産業の振興」も基本施策として位置付けていますが、それらの施策とともに、イベントや合宿の受け入れ環境の改善や充実を図ります。その上で、民間事業者とも連携しつつ、既存のスポーツイベントの改善・充実や新たなイベントの個別誘致、スポーツ合宿等の新たな需要の掘り起こしに向けた、プログラムの構築を行います。

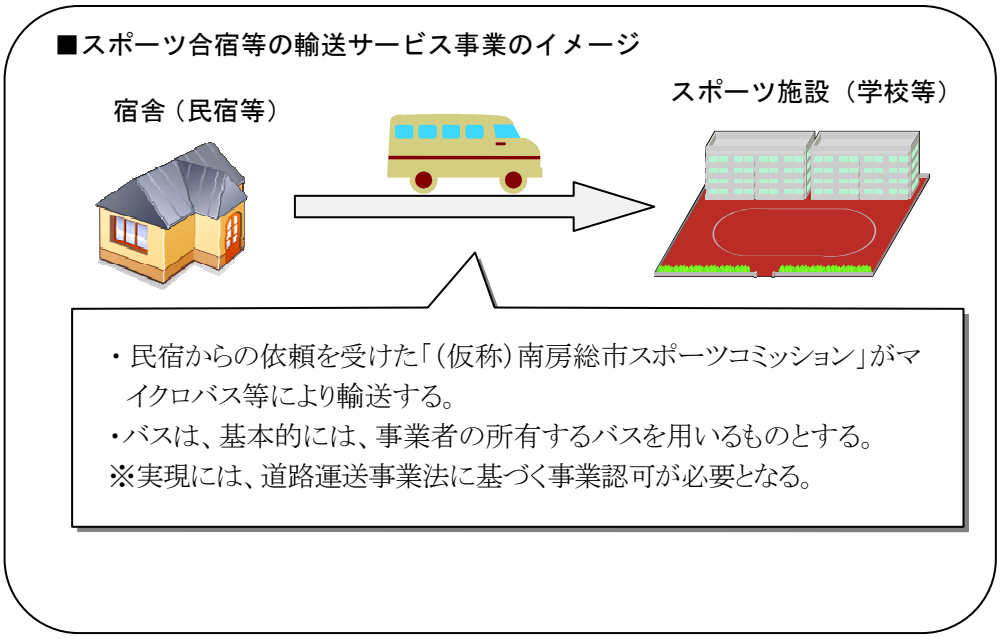
さらに基本施策⑥で示すマッチングシステムの構築や、パンフレット・ホームページ等による情報の発信、個別競技団体等への働きかけ等により誘致を図ります。



2) イベントや合宿受け入れ環境の改善、充実
（スポーツ交流を支援する輸送サービス事業の提案）

現況のイベントやスポーツ合宿の受け入れ環境の課題の 1 つとして、参加者の宿舎からスポーツ施設までの輸送方法があります。具体的には、宿舎とスポーツ施設が離れている場合には、合宿参加者をスポーツ施設まで輸送するバス等の交通手段が必要となりますが、宿泊施設が必ずしもバス等を有しているわけではなく、結果的に、スポーツ合宿のプログラム（宿舎と利用施設、スケジュール）等の幅を狭くしている状況となっています。

この課題への対応方策として、イベントや合宿への参加者を輸送する輸送システムを導入することが考えられます。具体的には、基本施策⑪で示す「（仮称）南房総市スポーツコミッション」によるマイクロバス等による輸送サービス事業等を想定します。



3) 新たなスポーツイベントの誘致

近年、地域の自然環境を活かした自転車ロードレースやトレイルランニング等の競技や、「競争」よりも「楽しむ」ことを主眼においた、エンターテイメント性の高いスポーツイベントが注目されています。豊かな自然を誇る南房総市においても、これらのイベントの開催、誘致が考えられます。

また、南房総市は、平成 22 年の第 65 回国民体育大会「ゆめ半島千葉国体」における自転車ロードレースの競技会場となっています。この時の資源やノウハウを活用した自転車レース大会の誘致も考えられます。

基本施策⑤：南房総市の魅力を活かしたスポーツ関連産業の振興及び地域経済活性化のための仕組みづくり

1) 施策の概要

南房総市は豊かな自然環境に恵まれ、千葉県の食を支える農業や漁業が盛んです。また、疲れた体を癒す温泉や温暖で冬でも散策を楽しめる気候、さらに、豊かな森林資源を活かした森林セラピーに関する取り組みも進められています。

これらの産業や取り組みとスポーツを組み合わせた、旅行産業やその他の産業の振興等を図ります。

あわせて、流通の促進に向けた仕組みづくりも考える必要があります。具体的には、ホームページや雑誌、フェイスブック等のＳＮＳと連携したクーポンや、スポーツイベントにも利用できる地域通貨等が考えられます。

■産業振興と地域経済の活性化のための仕組みづくりのイメージ

●他の施策（スポーツイベント、合宿誘致等）と連携した関連産業の振興（商品開発の例）

南房総市の資源や取り組み(例)	**産業振興に向けた商品開発(例)**
・温暖な気候や花畑を活かした散策目的の観光客	・散策・ウォーキングロードの整備と連携した新たな**旅行商品**の開発
・森林セラピー ・温泉	・森林セラピーと連携とした新たな産業の育成（森林セラピー＋温泉療法による**長期滞在プログラム**　等）
・農業や漁業が盛ん（食品）	・アスリート向けの**体づくりメニュー**や、市民の**健康づくりメニュー**の開発

南房総市の地域経済の活性化

●地域経済の活性化のための仕組みづくり

・来訪者の経済活動を促進する仕組みづくりを行う。

＜仕組みの方策例＞

・イベント参加者の個別商品購入における特典（おまけ等）の付与
・割引クーポン等（雑誌やフェイスブック等との連携）
・スポーツイベントで利用可能な地域通貨　等

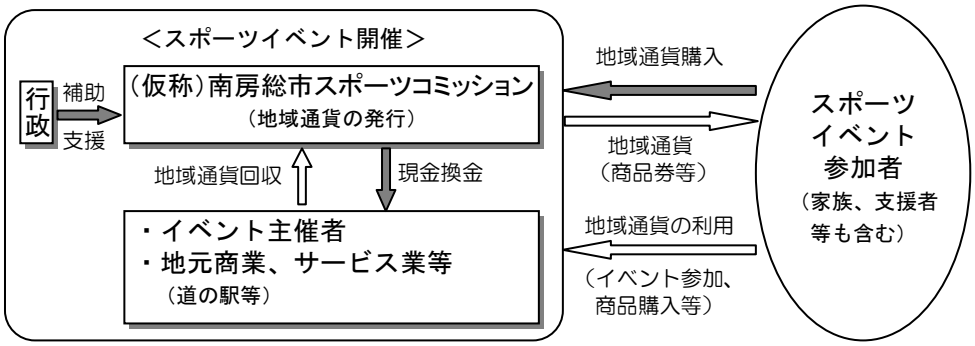
2) 仕組みづくりの例：スポーツイベントと連携した地域通貨の導入イメージ

仕組みづくりの具体的な例として、ここでは石垣島における地域通貨の取組を参考に、南房総市におけるその導入イメージを示します。

具体的には、スポーツイベントの開催と連携して地域通貨を発行し、イベント参加者が、地域での買い物等に使えるようにすることで、これを促進しようとするものです。

■スポーツイベントと連携した地域通貨の導入（イメージ）

・「南房総市ロードレース千倉」等のスポーツイベントでも利用できる地域通貨を発行し、スポーツイベントの参加費の支払いの他、南房総市に来訪した時に、道の駅等での買い物等に利用できるものとし、来訪者の南房総市での経済行動（買い物）、流通を促進する。



■事例：石垣市の地域通貨

・石垣市では、平成２３年に、地域経済の活性化等を目的として、地域通貨の１つである「アトム通貨」に参加している。

・石垣マラソンでは、参加者に、アトム通貨を進呈し、地域経済、流通の活性化につなげている。





石垣島マラソン用のアトム通貨とちらし

基本施策⑥：南房総市のスポーツ交流資源やイベント等の情報発信、ＰＲ、及び交流促進の仕組みづくり

1) 施策の概要

集客力のあるスポーツイベントの予定やスポーツ交流に適した環境、資源があったとしても、その情報が潜在的な来訪者に伝わらなければ、来訪者の増加にはつながりません。これらの情報発信、ＰＲを、インターネットやパンフレット、テレビ等のマスメディア等の活用により行います。

特に、情報発信を行うホームページ（ＨＰ）を構築するとともに、そのＨＰ内には、市内のスポーツ施設を活用したスポーツ交流を促進する機能を取り入れます。具体的には、スポーツ施設の予約システムと連携した練習試合の相手を探しマッチングするサイトの構築を想定します。

また近年、各種スポーツの関連雑誌が発行されていることや、スポーツ関連のホームページも多くあることから、これらへの情報発信も行うものとします。

■情報発信のイメージ

○南房総市のスポーツ交流情報のデータベース化
- スポーツイベント等の情報
- スポーツ交流資源のＰＲ　等

＜情報発信・ＰＲ＞

方法	コンテンツ（例）
ＨＰ	○ホームページの構築 ・スポーツ交流資源のＰＲ ・イベント等の基礎情報 ・イベントのリアルタイム状況 ○スポーツマッチングサイトの構築 ○他のスポーツ関連ＨＰへの発信
ＳＮＳ	・イベント等の旬の情報
パンフレット	・個別イベントやスポーツ合宿に関するパンフレット等の作成、配布（ＨＰでも公開）
メディア等	・テレビ、雑誌等を通じた積極的なＰＲ、プロモーション

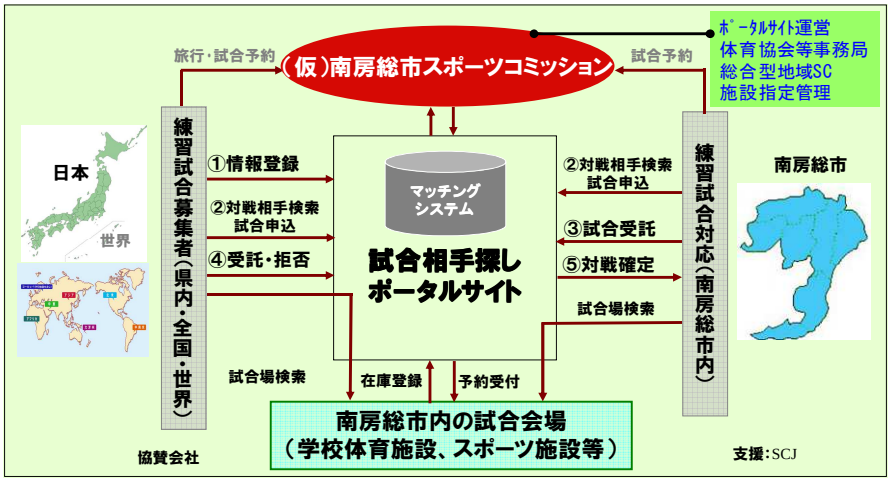
○情報提供のターゲット
- 他都市の自治体、住民、
- 個別スポーツのファン
- 個別スポーツの競技団体（合宿希望者等）
- 潜在的なスポーツ交流の来訪者
  （練習試合の場所や相手を探している人など）

2)施設予約システムと連携したスポーツマッチングサイトの構築・運営イメージ

「施設予約システムと連携したスポーツマッチングサイト」の構築、運営により、来訪者の増加、各スポーツ施設の利用の効率化はもちろん、観光振興への効果も期待されます。

■施設予約システムと連携したスポーツマッチングサイトのイメージ

・市内の各スポーツ施設のインターネット予約システムを構築し、誰もが閲覧可能なものとする。
・連携機能として、練習試合等のマッチング機能も設け、施設利用の促進、効率化を図る。また、関連情報として宿泊や観光施設等の情報提供も想定する。
・運営主体は、基本施策⑪の「(仮称) 南房総市スポーツコミッション」を想定する。



3) 専門誌やスポーツイベント関連ホームページへの情報発信

マラソン等愛好者の増加に従い、関連する専門誌やスポーツイベントに関するホームページ（ＨＰ）も多く見られるようになっており、これらの雑誌やＨＰ等を利用した情報発信も行っていきます。

■事例：雑誌『ランナーズ』
((株)アールビーズ)



■事例：イベント情報ＨＰ『スポーツエントリー』
((株)アプロード)



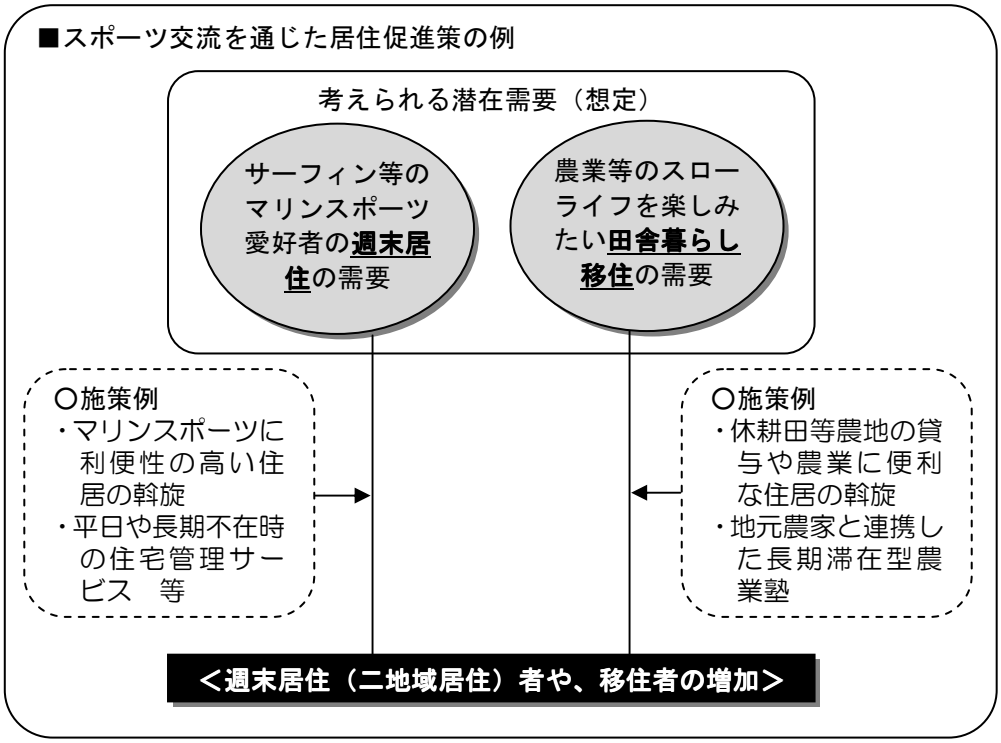
基本施策⑦：スポーツ交流を通じた居住促進策の具体化

1）施策の概要

南房総市は、東京への近さや、サーフィン等の滞在型のマリンスポーツが盛んなこと、また、農業や漁業も盛んであり、近年のスローライフや田舎暮らしに関する関心の高さなどから、東京圏からの二地域居住や移住に向けたポテンシャルは高いと言えます。

このような需要を具体的に把握した上で、各関係団体等と連携して、居住促進策を具体化、推進します。

例えば、下図に示すような、マリンスポーツに利便性の高い住居の斡旋や、休耕田等の農地の貸与、地元農家と連携した長期滞在型農業塾のプログラム化等の取り組みが考えられます。

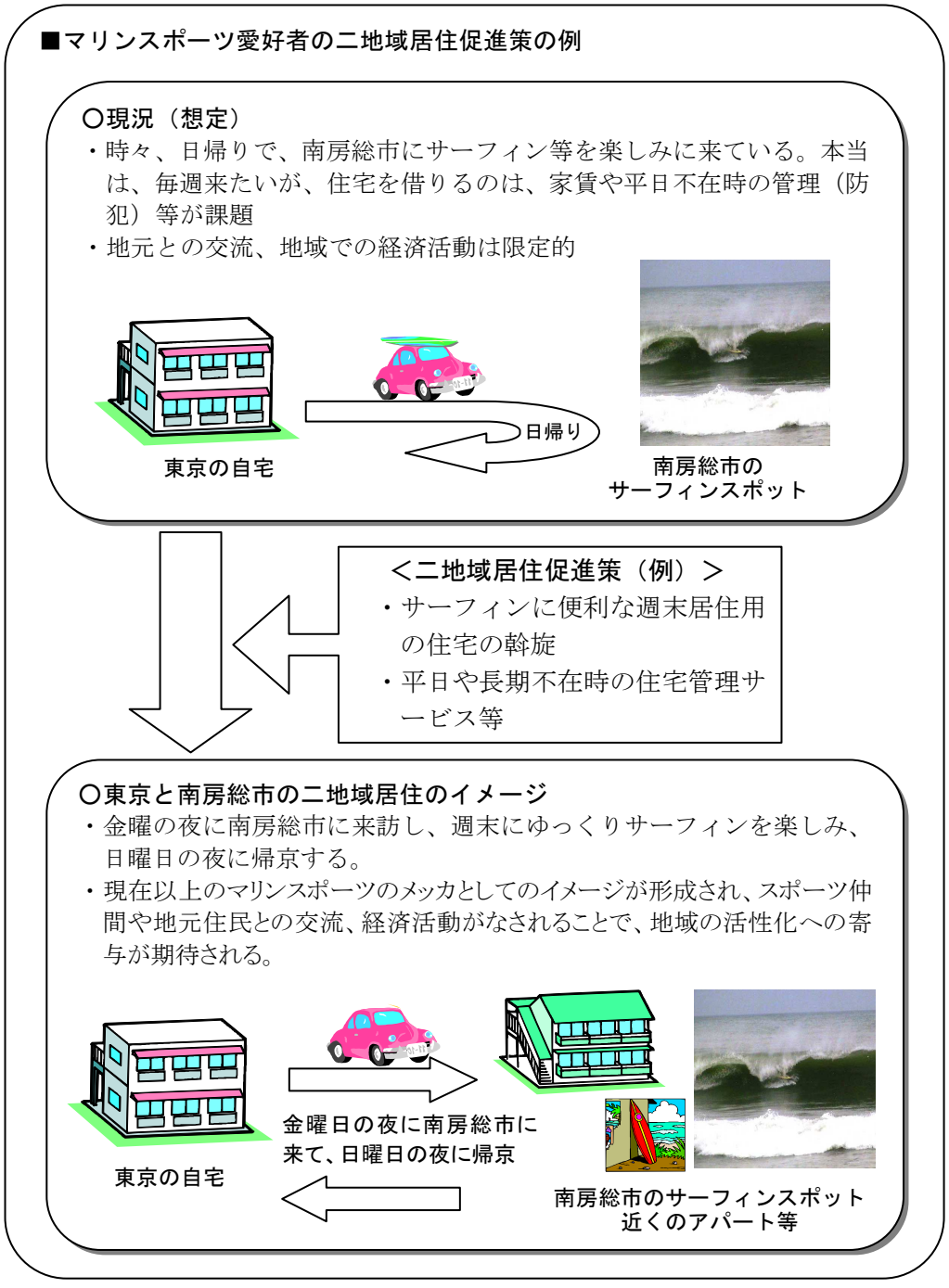


2）南房総市のマリンスポーツ環境を活かした二地域居住促進施策のイメージ

南房総市は、外房地区を中心に、一年を通じてサーフィン等のマリンスポーツを目的とした来訪者が多く見られます。これらの愛好者で、現在日帰りで東京等他都市圏から来ている来訪者の中には、もっとゆっくり南房総市でスポーツを楽しみたいというニーズもあると思われます。

そこで、このようなマリンスポーツ愛好者をターゲットに、例えば、下図に示すような方策を行い、東京都などの他都市圏と南房総市との二地域居住を促進するものとします。

これにより、サーフィン等マリンスポーツのメッカとしてのイメージを形成し、スポーツ交流を通じた地域活性化を図るものとします。



３．「スポーツ交流を実現する市民の心身の健康づくり」に関する施策

基本施策⑧：市民の健康づくりの場となる地域スポーツクラブの活性化とこれを支える人材育成

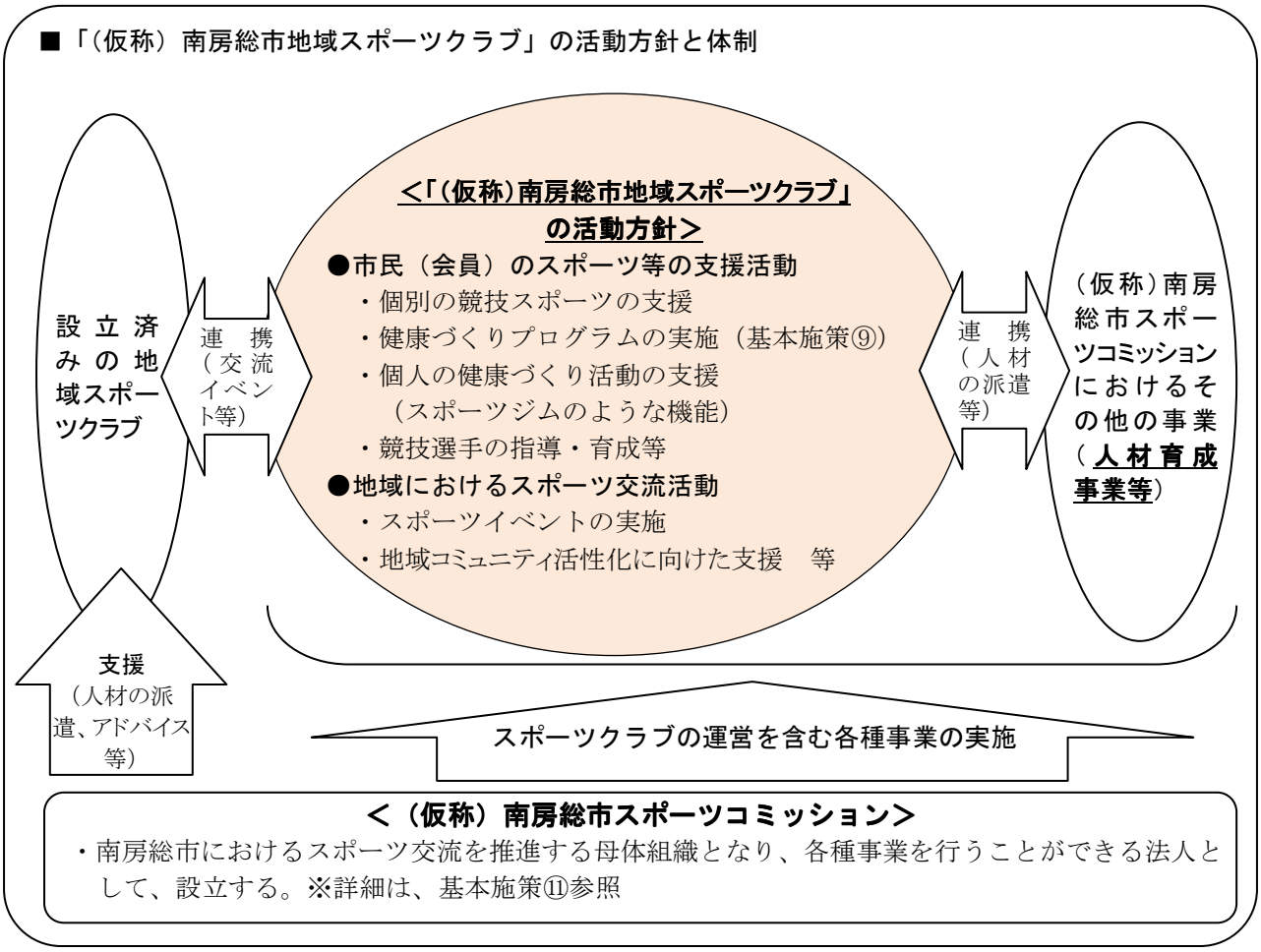
1) 施策の概要

市民一人一人の健康づくりや他の住民とのスポーツ交流を支援する「総合型地域スポーツクラブ（中央組織）」を設立し、その活動の活性化を図ります。新たに設立するスポーツクラブでは、個別競技スポーツの支援のほか、基本施策⑨で示す健康づくりプログラムの実施や、個人の健康づくり活動の支援、地域におけるスポーツ交流イベントの実施等の活動を想定します。

運営は、基本施策⑪で示す「（仮称）南房総市スポーツコミッション」が担うものとし、同組織が行う他の事業、特にスポーツインストラクターや健康づくり指導員等の人材育成事業との連携を図ります。なお、スポーツクラブの運営方針や活動内容等については、参加住民の主体性を尊重し、住民との協働により定めるものとし、住民の運営への参画も想定します。

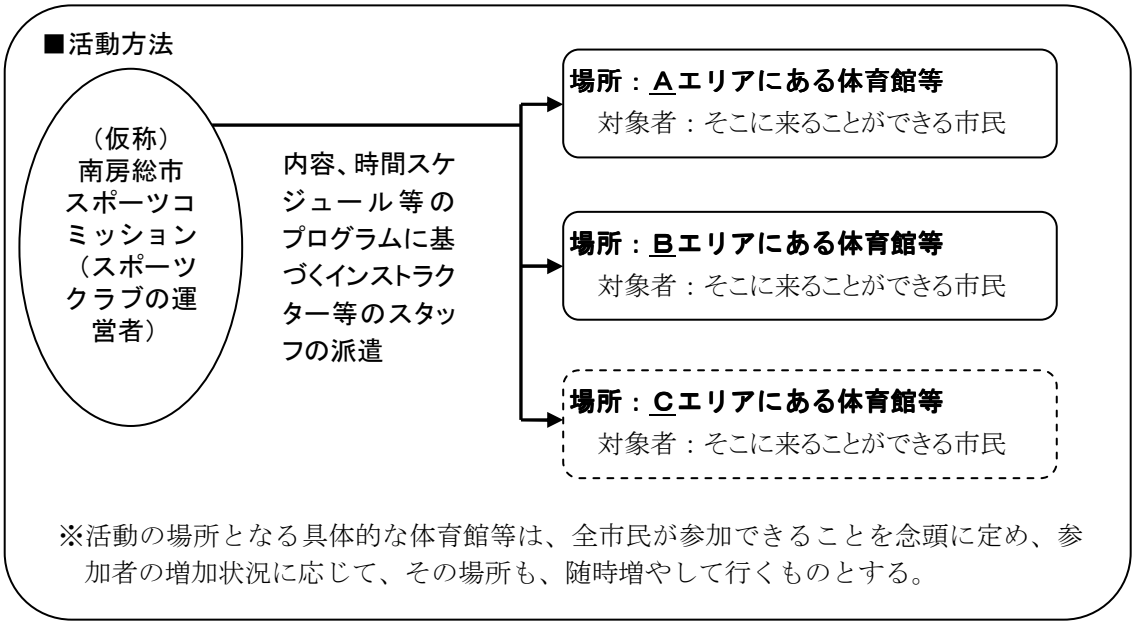
また、南房総市には、既に設立済みの地域スポーツクラブがありますが、これとの交流イベント等による連携や支援等も行い、南房総市全体でのスポーツクラブの活性化を目指します。

■「（仮称）南房総市地域スポーツクラブ」の活動方針と体制



2) 活動方法のイメージ

「(仮称) 南房総市地域スポーツクラブ（中央組織)」の具体的な活動は、まず「場所（体育館等)」、「内容（実施スポーツや体操等」、「時間スケジュール」、「対象人員数と対応する専門のスタッフ」等についてのプログラムを作成し、これに基づき、運営者である（仮称）南房総市スポーツコミッションが、各場所等にスタッフを派遣して、実施することを想定します。



基本施策⑨：市民の健康づくりに向けた健康づくりプログラムの推進

1）施策の概要

市民の健康づくりの実現に向けては、いかに市民に実際に体を動かしてもらうかが重要です。そのためには、特に、普段運動する機会の少ない高齢者をターゲットに、抵抗なく参加でき、続けられるプログラムを具体化する必要があります。

ここでは、下記の参考事例のいなべ市の取組みなどを参考に、健康づくりプログラムを具体化する等の取り組みを想定します。

■事例：いなべ市の健康づくりプログラム

・三重県いなべ市では、総合型地域スポーツクラブ「元気クラブいなべ」を通じて、「住民の力」を利用した健康増進、介護予防対策として「元気づくりシステム」と呼ぶ仕組みを構築し、地域住民のマンパワーを生かした健康増進活動を進め、医療費抑制、医師負担軽減の取り組みを行っている。

・「元気づくりシステム」は、専門スキルを持つコーディネーターの指導を受けた高齢者が「元気リーダー」となり、地域の集会所等で地域の仲間を集って、地域の高齢者等に正しい運動のやり方を伝え、定期的な元気づくり体験プログラムを展開しているものである。

・また、個別の活動内容としては、例えば、「５呼吸１０種のストレッチ」のように簡易な体操等をプログラムとして具体化し、住民の健康づくりにつなげている。





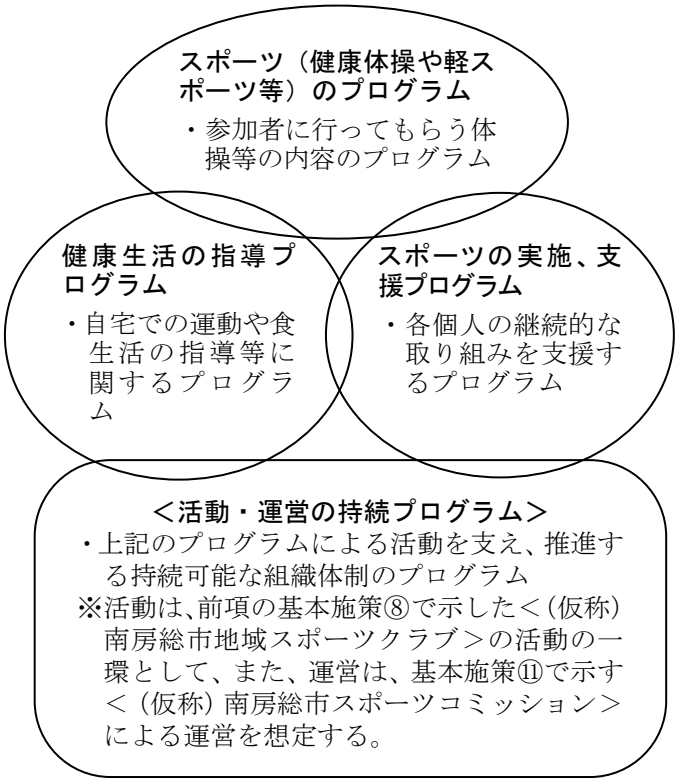


出典：いなべ市ＨＰ、及び社団法人元気クラブいなべＨＰ

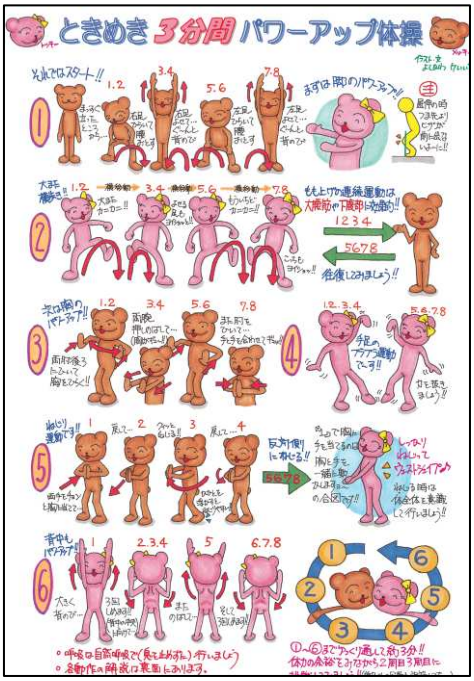
2) 健康づくりプログラムの構成イメージ

「健康づくりプログラム」は、大きくは健康体操や軽スポーツ等のプログラム、その健康体操等をスポーツクラブや自宅も含め、継続して実施してもらうための支援プログラムや、食事等日常的な生活に関する指導プログラム、さらに、これらの活動を支える組織体制を運営する持続プログラムによる構成を想定します。

■健康づくりプログラムの構成イメージ



■事例：健康体操のプログラム（埼玉県）



出典：埼玉県ＨＰ

3) 健康づくりプログラムに期待される効果

健康づくりプログラムの実施により、市民の一人一人が健康、元気になることで、医療費の軽減はもちろん、住民参加による地域づくりや、地域生活における安全、安心感の向上等が期待されます。

■期待される主な効果

直接効果	間接効果	相乗効果
高齢者を中心として、市民の一人一人が**健康**で元気になる	通院が少なくなり、行政負担、個人負担それぞれの**医療費が安く**なる。	・地域経済の活性化にもつながる。 ・市民の日常生活の質（豊かさ）が向上する。
	体力的な負担が軽減し、地域活動や地域づくりへの**住民参加**が増える。	
	市民間の交流機会が増え、**地域生活における安全、安心感**が向上する。	

基本施策⑩：スポーツ交流を通じた身体障害者の社会参加の支援策の具体化

1）施策の概要

スポーツ交流を通じた身体障害者の社会参加の促進、支援に向けては、これを支えるボランティアの体制づくり（人員の確保）や、その内容に応じた教育、専門的対応のできる人材の育成、医療機関や福祉団体等の関係団体との連携が必要です。また、イベントや合宿などに対応できる宿泊施設の環境整備も必要となります。

上記の支援体制を前提として、身体障害者のスポーツ交流の拠点としてブランド化を図り、全国からイベントや合宿を誘致することは、南房総市のイメージ向上にもつながると考えます。例えば、現在でも市内の一部宿泊施設で受け入れているＣＰサッカーの合宿やイベントの誘致、また、現況のスポーツイベントにおける身体障害者の受け入れ、部門の創設等が考えられます。

■身体障害者のスポーツ交流の支援イメージ

●支援方策のメニュー（例）

	メニュー例	概要
支援体制	ボランティアの募集、育成	・補助や介助等を行うボランティアの募集、必要に応じた人材育成
	関係団体との連携体制構築	・安房医師会や社会福祉協議会との連携体制の構築
	宿泊施設等での受入環境整備	・バリアフリー環境の整備や職員の教育　等
合宿やイベント関連	個別競技の合宿やイベントの誘致	・ＣＰサッカー*等認知度の低い個別の障害者スポーツの合宿や大会イベントの誘致 ・上記イベント等の継続実施に向けた運営費等の工夫
	現行のイベントにおける障害者への対応	・マラソンイベントにおける視覚障害者への伴走や車いすマラソンの種目の追加等 ・サッカーイベントにおけるブラインドサッカーやＣＰサッカー　等

＊脳性まひ者７人制サッカーのことで、パラリンピック競技でもある。現在でも、市内の宿泊施設でＣＰサッカーチームの個別合宿を受け入れている実績有り。

●視覚障害者マラソンの実施例

・出雲市のくにびきマラソンでは、視覚障害者ランナーの受け入れに際し、伴走を行うボランティアグループ「愛走クラブ」が結成されている。視覚障害者が安心して参加できる大会として有名である。



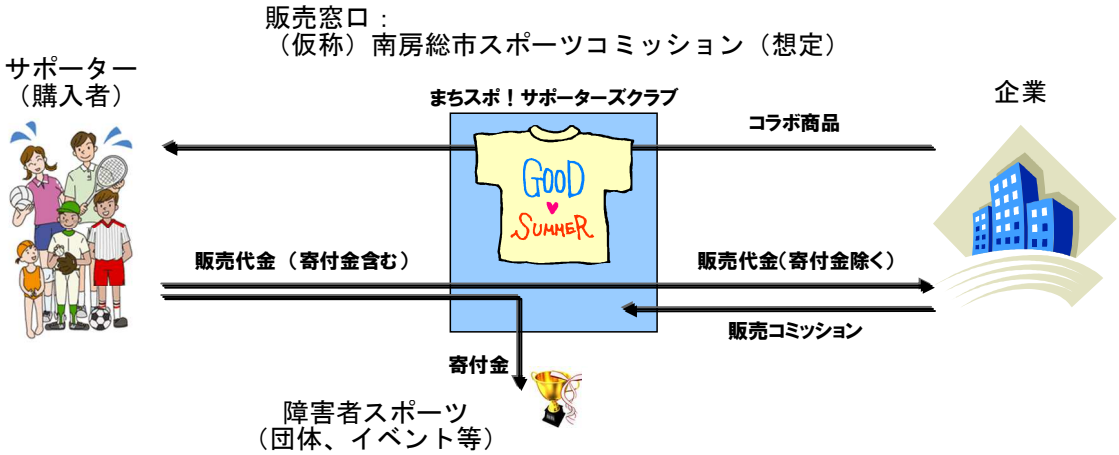
出典：ランネットＨＰ

2) 障害者スポーツイベント等の継続実施に向けた運営の工夫

障害者スポーツの合宿やイベントの実施には、地域の協力はもちろんですが、これを継続的なものにするには、行政が全ての運営費を負担するのではなく、民間資金の活用、「ビジネス」としての視点、工夫も必要です。

例えば、企業がそのイベント等のスポンサーとなるとともに、サポーターＴシャツ等の販売などのビジネスを行う権利を付与する等が考えられます。企業側には、企業の信頼度や好感度のアップ、職員における社会貢献意識の向上等のメリットがあります。

■民間企業との連携によるビジネスイメージ



■事例：企業とのコラボレーションによるＴシャツ販売

・広島県共同募金会では、企業の社会貢献活動とのコラボレーションを進めている。
・その一環として、広島東洋カープとの協力により、「赤い羽根募金」と「カープ」に共通する「赤」を効果的に活用したコラボＴシャツを販売している。
・売上の一部を募金するしくみとなっている。



出典：赤い羽根共同金会ＨＰ

４．「スポーツのまちづくりを支える人づくりと持続可能な体制の構築」に関する施策

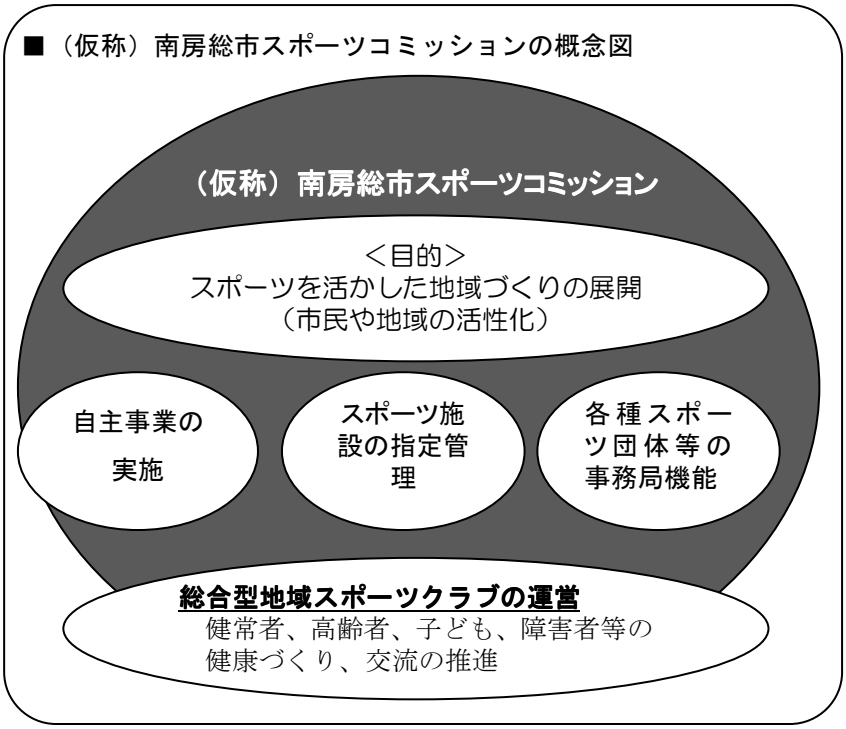
基本施策⑪：スポーツ交流を支える母体組織（南房総市スポーツコミッション）の設立、自主事業の実施

1）施策の概要

本計画推進の牽引役となり、個別事業の実施主体となる「（仮称）南房総市スポーツコミッション」を設立します。（仮称）南房総市スポーツコミッションは、南房総市におけるスポーツ交流に関わる各団体の連携による組織体制とし、各団体からの人材協力による運営事務局を設け、運営します。

役割、機能としては、各種スポーツ団体等の事務局機能やスポーツ施設の指定管理者、自主事業の実施、及び基本施策⑧で示した「総合型地域スポーツクラブ」の運営を担うものとし、文部科学省やｔｏｔｏ等の助成金も活用しつつ、持続可能な組織運営を行うものとします。

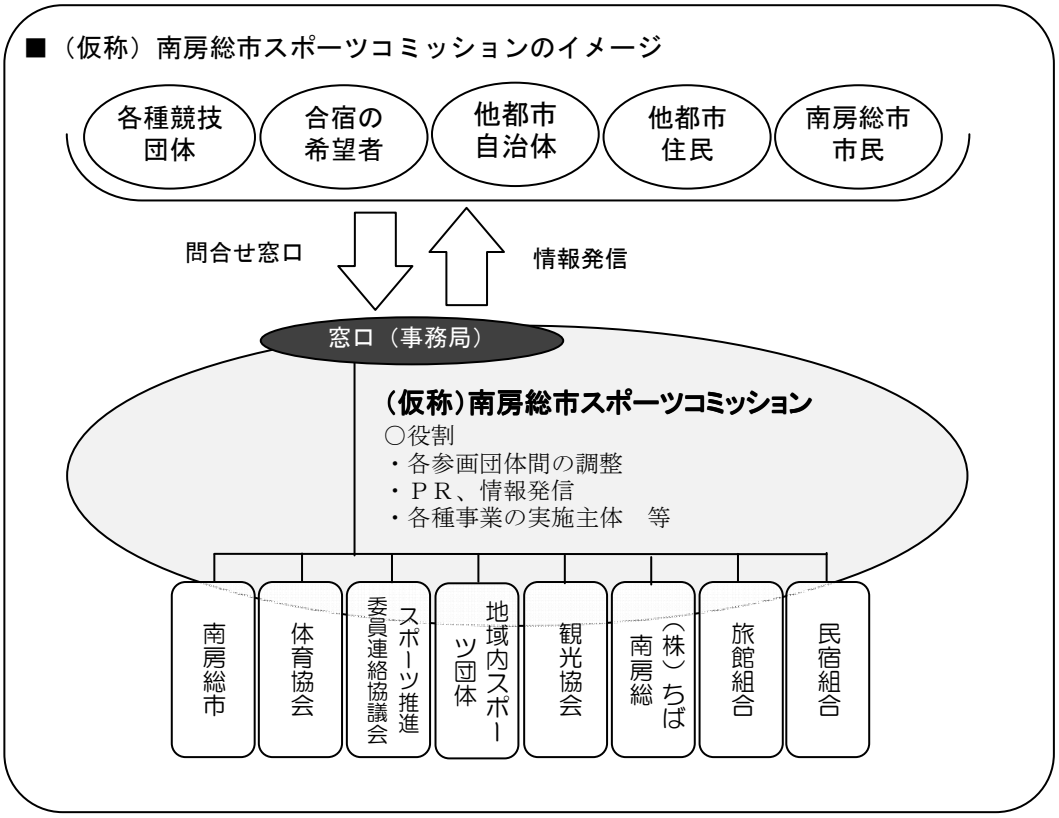
■（仮称）南房総市スポーツコミッションの概念図



2)組織体制イメージ

「(仮称) 南房総市スポーツコミッション」の組織体制は、下記に示すように、南房総市におけるスポーツ交流に関わる各団体の連携によるものとし、各団体からの人材の協力による運営事務局を設け、運営するものとします。

運営事務局は、競技団体や合宿希望者等の外部に向けた窓口となり情報発信等を行うとともに、参画する関連団体間の調整等も行います。さらに、持続的な運営を念頭に、各種事業の実施主体としての役割も担います。



基本施策⑫：計画の推進に向けた関係団体、組織の連携体制の構築と地域全体での機運醸成

1) 施策の概要

本計画の着実な推進に向けては、その進捗状況を把握管理し、その時点での課題への対応策等について関係者の調整等を行う必要があります。また、一般市民や各スポーツ交流施設の職員等については、スポーツ交流の地域の関係者としての意識の醸成も図る必要があります。このような調整や啓発活動を行う組織として、「(仮称) 南房総市スポーツ交流推進協議会」を設置します。

■（仮称）南房総市スポーツ交流推進協議会のイメージ

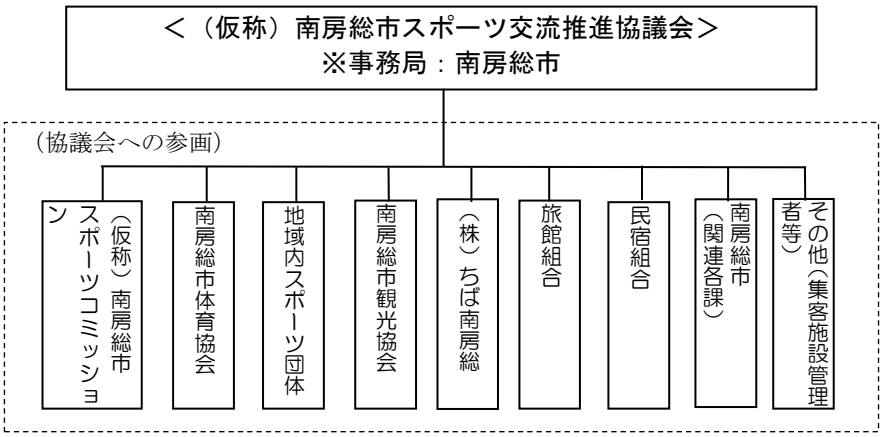
○目的・役割：

・本計画の推進に向けた進行管理、調整を行うと共に、市民や関係者に向けた啓発活動等を行う機関として設置

○主な活動：

・スポーツ交流の各事業の進捗状況の把握
・各事業に関わる主体間の調整（適時の調整会議）
・市民等内外に向けたシンポジウム等の啓発活動

○参加主体・体制イメージ



2) 地域全体での機運醸成に向けた取り組み（住民の啓発及びイメージづくり）

地域全体での「スポーツ交流の地域づくり」としての機運醸成に向けては、南房総市が中心となった前述の「（仮称）南房総市スポーツ交流推進協議会」が主体となり、積極的に市民や関係事業者に、その方向性や取り組みの趣旨を訴え、啓発していく必要があります。具体的には、下記の十日町市の事例に示すような、市民向けシンポジウムや関係事業者向けのセミナー、スポーツ交流の地域としてのイメージづくりを念頭においたイベント等を行っていくことが考えられます。

■事例：十日町市スポーツコミッション地域再生協議会の取り組み

・新潟県十日町市では、平成 20 年に「十日町市スポーツコミッション地域再生協議会」を発足し、「スポーツによる地域づくり」を目指して取り組んでおり、平成 25 年度には、「十日町市スポーツコミッション」を設立予定である。

・当初は、右記に示すような各種のシンポジウムによる住民意識の啓発、醸成や、イベント等による「スポーツキャンプ地、健康都市」としてのイメージづくりを行っている。





出典：十日町市資料

第６章　重点事業

１．重点事業の選定

重点事業は、第２章の関係者の意向調査等で示された個別意見や、南房総市における他の関連施策、及び先行事例等から、考えられる主な事業や取り組みを設定し、これらについて基本方針で示した「目標」への対応の視点から評価を行い、特に大きな貢献が期待されるものを「重点事業」として選定します。

具体的には、当該目標への貢献が考えられるものを「○」、特に貢献が大きいものに「◎」を設定し、「○」と「◎」の合計が６以上、かつ「◎」が２以上に対応しているものを重点事業として設定しています。

■考えられる事業や取り組みと目標との対応、及び「重点事業」の設定

基本施策	考えられる主な事業や取り組み（関係者意向調査や関連施策などから設定）	目標との対応								重点事業の設定
		スポーツ施設の利用者を増やす	スポーツ施設の運営を効率化する	スポーツイベントの参加者を増やす	スポーツ産業の就業人口を増やす	健康な市民を増やす	医療費を減らす	スポーツ交流の体制を構築する	市民や来訪者の満足度を向上させる	
①スポーツ交流の場となり、拠点となる施設の整備、充実	・多目的に利用できる新たなスポーツ交流拠点施設（スポーツ広場）の整備	◎		◎	○	○		○	○	**重点事業Ａ**
	・ハイキングコースの充実、整備	○				○	○		○	
②効率的な施設の利活用に向けた既存施設の運用の見直し、修繕等	・体育・スポーツ交流施設の現況把握調査	○	○							
	・既存のスポーツ交流施設の利活用方針、計画の具体化	◎	◎	◎		○		○	○	**重点事業Ｂ**
③市民が気軽に参加できるスポーツ交流イベント等の開催及び支援	・市内スポーツ団体等のスポーツ交流イベントの具体化	○	○	◎		○			○	
	・既存スポーツイベントの運営効率化	○	○	○					○	
④南房総市のスポーツ交流資源を活かした他地域からも参加するスポーツイベントの充実や団体合宿等の誘致	・新たなスポーツイベントや合宿の誘致	◎	○	◎	○			○	○	**重点事業Ｃ**
	・近隣大学との連携によるイベント運営	○	◎	○						
	・フラワーマーチとの連携			◎	○				○	
	・民間のスポーツ・レクリエーション施設と連携した誘客プログラムの検討	◎	○	○	○			○	○	

基本施策	考えられる主な事業や取り組み（関係者意向調査や関連施策などから設定）	目標との対応								重点施策の設定
		スポーツ施設の利用者を増やす	スポーツ施設の運営を効率化する	スポーツイベントの参加者を増やす	スポーツ産業の就業人口を増やす	健康な市民を増やす	医療費を減らす	スポーツ交流の体制を構築する	市民や来訪者の満足度を向上させる	
⑤南房総市の魅力を活かしたスポーツ関連産業の振興及び地域経済活性化のための仕組みづくり	・健康づくりメニュー、食品等の開発				◎	○			○	
	・森林セラピーに関する取り組みの推進	○		◎	◎	○	○		○	**重点事業D**
	・イベントに利用できる地域通貨の導入			○	◎				○	
⑥南房総市のスポーツ交流資源やイベント等の情報発信、ＰＲ、及び交流促進の仕組みづくり	・スポーツ資源のデータベース構築		○	○						
	・ＨＰ及びマッチングシステムの構築	○	○	◎				○	○	
	・スポーツ施設マップの作成、配布	○		○						
⑦スポーツ交流を通じた居住促進策の具体化	・サーフィン等マリンスポーツ愛好者の二地域居住の支援			○	○				○	
	・長期滞在、体験型スポーツのプログラム構築	○			○	○			○	
⑧市民の健康づくりの場となる地域スポーツクラブの活性化とこれを支える人材育成	・総合型地域スポーツクラブの活性化	○	○	○		○	○	○	◎	
	・インストラクターや指導員の育成	○		○		○	○		○	
	・スポーツボランティアの育成		○	○					○	
⑨市民の健康づくりに向けた健康づくりプログラムの推進	・健康運動指導士の配置や健康管理システムの構築					◎	◎		○	
	・病院等、医療機関との連携					◎	◎		○	
	・市民が楽しく続けられる健康づくりプログラムの具体化	○			○	◎	◎	○	◎	**重点事業E**

基本施策	考えられる主な事業や取り組み（関係者意向調査や関連施策などから設定）	目標との対応								重点事業の設定
		スポーツ施設の利用者を増やす	スポーツ施設の運営を効率化する	スポーツイベントの参加者を増やす	スポーツ産業の就業人口を増やす	健康な市民を増やす	医療費を減らす	スポーツ交流の体制を構築する	市民や来訪者の満足度を向上させる	
⑩スポーツ交流を通じた身体障害者の社会参加の支援策の具体化	・障害者のスポーツ交流への参加の支援	○		○		○			○	
	・障害者のスポーツ大会誘致	○		○		○			○	
⑪スポーツ交流を支える母体組織（南房総市スポーツコミッション）の設立、自主事業の実施	・（仮称）南房総市スポーツコミッションの設立	○	○	○	○	○	○	◎	◎	**重点事業F**
	・上記における事業計画の具体化、推進	○	○	○	○	○	○	○	○	
⑫計画の推進に向けた関係団体、組織の連携体制の構築と地域全体での機運醸成	・（仮称）南房総市スポーツ交流推進協議会の設立			○				◎	○	
	・上記による市民へのスポーツに関する啓発	○	○			○			○	

２．重点事業の内容

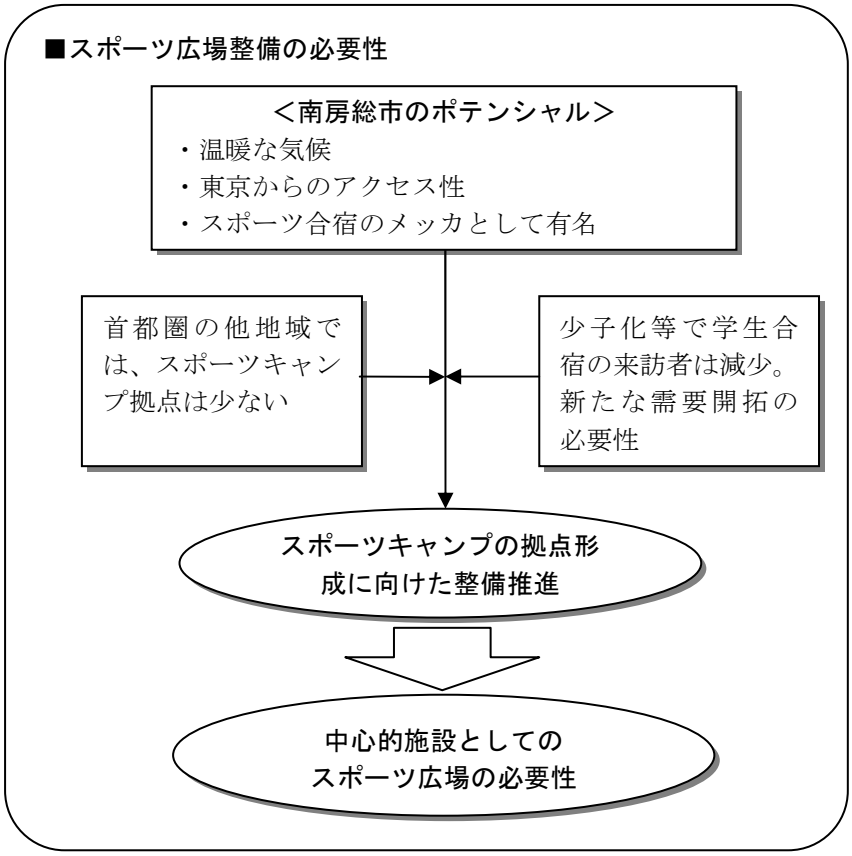
重点事業Ａ：多目的に利用できる新たなスポーツ交流拠点施設（スポーツ広場）の整備

①南房総市におけるスポーツ広場整備の必要性

南房総市は、温暖な気候と、東京都心部から約９０分というアクセス性の良さを有しています。また、古くから多くの人々がスポーツ合宿等に訪れており、基礎的なノウハウを有しています。

一方、もともと学生向けの合宿では、経済効果は限定的であるなか、少子化の中で学生合宿も減少していくことが予想され、社会人やプロなど新たな需要を開拓する必要があります。また、仮に南房総市において、社会人からプロを含めて対応可能なスポーツキャンプの拠点として整備を図った場合、首都圏では他に類似の地域は見あたらないことから、大きな集客効果、経済効果が期待されます。

このことから、スポーツキャンプの拠点形成に向けた整備を推進するものとし、特にそのシンボルとなる中心的施設の整備を急ぐ必要があります。



②スポーツ広場の導入機能イメージ

スポーツ広場のフィールドは、各種のフィールドスポーツに多目的に活用可能なものとし、各種スポーツの大会やキャンプ地としての利用が考えられる規模とします。具体的には、各種スポーツが２面以上確保可能なものとし、あわせて、必要な規模の駐車場や管理棟も整備します。

なお、スポーツ広場の整備だけでなく、近隣のスポーツ施設との連携を図り、機能を補完し運用することで、スポーツキャンプ地の形成を図ります。

■スポーツキャンプ拠点の形成イメージ

＜スポーツ広場（整備）＞

＜駐車場＞
・利用者用及び管理者用として用意
・大型バスにも対応

＜管理棟＞
・トイレ、更衣、受付、事務室、会議室等を想定

＜フィールド＞
・各種フィールドスポーツが多目的に利用可能な施設とする。
・フィールドは、雨天時等を含め、多様な利用による利用率の向上を念頭に、天然芝と人工芝の両方での整備を想定する。

○想定規模
・サッカー利用時：３面
・野球利用時：２面
・ラグビー利用時：３面
・ラクロス利用時：３面　程度

連携
・スポーツ広場の機能を補完し、一体的な運用を可能とする。

＜近隣既存の学校体育施設や社会体育施設＞
・体育館　・プール　・グランド等

■事例：徳島スポーツビレッジ
・計３面のピッチを有し、四国では最大クラスのスポーツキャンプ地
・徳島ヴォルティスの練習場としても利用されている

＜施設概要＞
ピッチＡ：天然芝１面
ピッチＢ：天然芝１面（照明設備・スプリンクラー完備）
ピッチＣ：人工芝１面（照明設備・スプリンクラー完備）
クラブハウス：１棟
（シャワー室、ロッカールーム、会議室等）
駐車場：約 300 台収容（無料）
※出典：徳島スポーツビレッジHP



重点事業Ｂ：既存のスポーツ交流施設の利活用方針、計画の具体化

①既存のスポーツ交流施設の利用状況

南房総市には、市が所有するスポーツ施設として、多くの社会体育施設のほか、学校施設も有しています。利用者は住民だけでなく、スポーツ合宿やイベント等で来訪した市外住民の利用も多く見られます。

一方で、南房総市では、少子化等に伴い学校の統廃合を計画しており、これにより、学校施設の扱いについても見直しが求められている状況です。

②利活用方針の設定の考え方

各個別施設の利活用方針は、それぞれについての関連調査を行い、老朽化等の状況による安全性、設備等の状況による維持管理費、社会体育施設としての機能や規模、近隣での類似施設の立地状況、将来需要等を踏まえ、適正に評価し、決定する必要があります。

評価結果については、その評価指標ごとの状況に応じて、下記に示すような利活用方針のランク設定を行うものとします。個別施設の利活用計画については、このランクを前提に、個別施設の状況に応じて検討し、計画内容を具体化するものとします。

■社会体育施設・学校体育施設の利用者状況

		H22 年度	H23 年度	増減
社会体育施設		207,551	199,826	−7,725
学校施設		69,829	97,617	27,788
合計利用者数		277,380	297,443	20,063
内市外利用者数	大会等	19,651	22,531	2,880
	合宿等	32,041	30,290	−1,751
	合計	51,692	52,821	1,129

既存施設の調査
（築年度、詳細利用状況、維持管理費等）

学校の統廃合計画

学校体育施設の扱いの見直しの必要性

■現況施設の評価指標（案）

評価指標	内容
安全性	耐震性、老朽化状況等の評価
維持管理費	光熱費、メンテナンス費用等
施設機能、規模等	対応可能な競技や規模、トイレ、更衣室等の機能
立地状況	近隣における社会体育施設の立地状況
施策による需要可能性	本計画の各施策による内外からの需要可能性
地元関係者意向による需要可能性	住民やスポーツ関係者の利用意向

評価

■利活用方針ランクの設定（案）

ランク		利活用方針
A	1	ほぼ**現況のまま**、社会体育施設として利活用（イベント等にも活用）
	2	ほぼ**現況のまま**、社会体育施設として利活用（地域住民利用及び合宿を中心）
B	1	社会体育施設としての**改修等**を行い、利活用（イベント等にも活用）
	2	社会体育施設としての**改修等**を行い、利活用（地域住民利用及び合宿を中心）
C		利用の廃止→同機能施設を**近接地に移転整備**
D		利用の廃止→**施設・土地の売却**等

方針ランクに基づく、各施設別の利活用計画の具体化

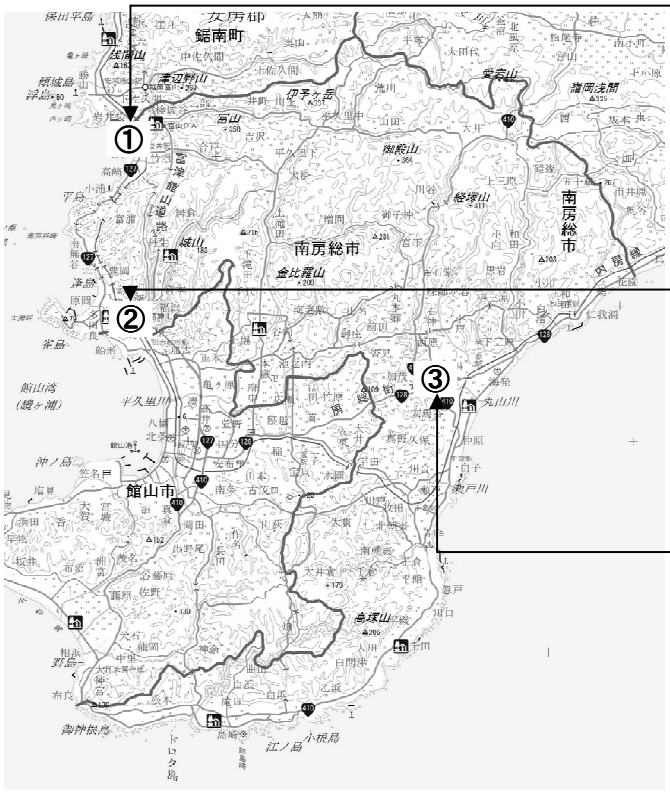
③既存施設の利活用イメージ

南房総市は、合併により一定規模を持つ同機能の社会体育施設を有しています。例えば、以下に示すように、３つの社会体育施設の体育館において、必要な機能の充実を行うことで、これまでには、できなかったイベント等の開催が可能となります。

個別施設の利活用計画の策定にあたっては、このような視点も踏まえ、検討するものとします。

■主な体育館の観客席等の状況

・現在、南房総市で観客席を有する体育館は、富山ふれあいスポーツセンターと富浦体育館のみ。



①富山ふれあいスポーツセンター
観客席：424 席




②富浦体育館
観客席：180 席




③丸山体育館
観客席：無し



＜利活用計画に基づく修理、改築等＞

・スポーツイベント実施を想定した観客席やその他の必要な施設（更衣室、シャワー室等）の整備

＜イベントの誘致、開催＞

・数百人規模の観客席のある複数の体育館を有することで、試合数の多い屋内スポーツイベントの誘致が可能となる。
・具体的には、中学生や高校生等のバスケットボールやバレーボール等のイベントの誘致が考えられる。

■事例

・平成 24 年度の千葉県中学校バスケットボール新人体育大会は、近隣の木更津市、君津市、富津市の３つの体育館（各２コート）を３日間用いて、開催されている。
・例えば、富津市総合社会体育館の観客席数は、560 席である。
・上記以上の観客席等の施設を拡充、充実することで、同程度の規模のイベントの誘致に向けて、優位になると思われる。

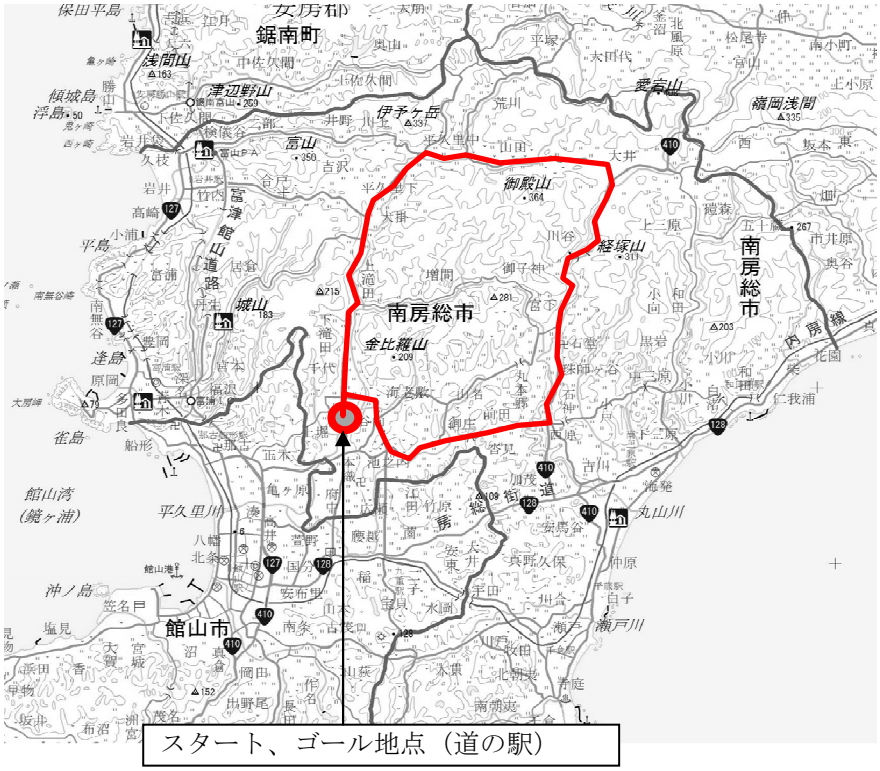
重点事業Ｃ：新たなスポーツイベントや合宿の誘致

①平成 22 年国民体育大会時の経験を活かした自転車レースの誘致

平成 22 年の千葉国体時には、自転車競技の１つとしてロードレースが南房総市の公道特設コースを用いて実施されました。競技実施にあたっては、南房総市もその運営に携わりました。この時の経験、ノウハウ等を活用した自転車ロードレースの誘致が考えられます。

特に近年は、より高低差の大きいコース設定となる「ヒルクライム」がブームとなっていますが、国体時のコースをベースに、さらに高低差がつくようなコース設定を行うことで、同イベントの誘致も考えられます。

■Ｈ22 千葉国体時の自転車ロードレースのコース



②豊かな自然環境を活かしたアウトドアスポーツイベントの誘致

南房総市の最大の資源と言える自然環境を活かしたイベントとしては、近年欧米で参加者が増えており、エンターテイメント的な要素の大きい「ウォリアーダッシュ」や、自然体験的要素の高い複数の競技を組み合わせた「アドベンチャーレース」等が考えられます。

また、オープンウォータースイミングのイベントは、民間団体が主体となり、これまでも南房総市や館山市において開催されています。

■アウトドアスポーツイベントの例

	概要	実施風景	イベント参加者の概数	実施主体	備考
ウォリアーダッシュ	・アドベンチャーランとフェスティバルを組み合わせたイベント ・世界累計参加者数 189 万人	 出典:ウォリアーダッシュHP	5,000 ～15,000 人	専門の民間法人	日本では、平成25年6月に相模湖で、初開催予定
アドベンチャーレース	・主にチームでトレイルランニングやカヤック等の多種目の競技に取り組むレース	 出典:日本アドベンチャーレース協会HP	20～50 チーム (1チーム3～7人)	観光協会等	
オープンウォータースイミング	・海・川・湖などの自然環境下で行う水泳競技であり、オリンピック の正式種目	 出典:たてやまGENKIナビHP (H24 館山市での大会風景)	数百人～	(一社) 全国 OWS 連盟等	

重点事業Ｄ：森林セラピーに関する取り組みの推進

①「森林セラピー」の概要及び南房総市の認定申請の概要

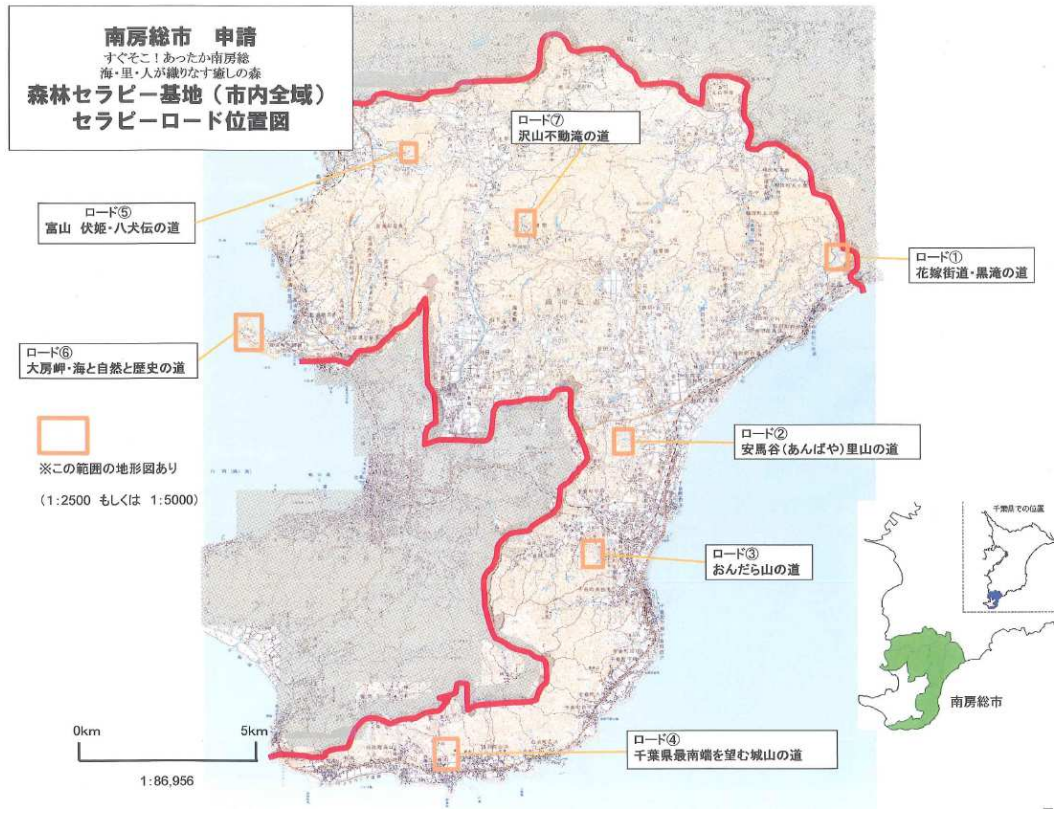
「森林セラピー」とは、医学的エビデンスを基礎とした森林の快適性増進効果・癒し効果等を、健康維持・増進等に活かしていくという、新たな取り組みの総称であり、林野庁等が推進しています。

「森林セラピー基地」及び「森林セラピーロード」は、認定制度となっており、特定非営利活動法人　森林セラピーソサエティの審査を経て、認定を受ける必要があります。南房総市では、豊かで、特徴的な森林環境を有していることから、その認定に向けた取り組みを進めているところです。平成 24 年度に下記に示す申請を行い、現在、森林セラピー基地候補地としてノミネートされています。

■認定申請の概要

森林セラピー基地	名称	すぐそこ！あったか南房総 海・里・人が織りなす癒しの森
	拠点施設	道の駅ローズマリー公園、道の駅和田浦ＷＡ・Ｏ！、道の駅とみうら枇杷倶楽部　他、市内の道の駅
	セールスポイント（抜粋）	・首都圏から９０分であり、アクセス性が良い。 ・黒潮に育まれた温暖な気候。このため、南房総のメインシーズンは秋～春で、冬でも散策が可能。 ・森林の広い範囲が、常緑の緑で覆われており、冬期でも森の緑を感じることが可能。 ・三方を海に囲まれ、山から海まで地域ごとに多様な環境があり、個性あるコースを楽しめる。

森林セラピーロード位置図



②森林セラピーの認定後の取り組みイメージ

平成 26 年度、森林セラピー基地、及び森林セラピーロードとして認定がなされた後には、これを健康づくりはもちろん、スポーツ観光や地域の産業振興にも活かすべく、施策の展開を図っていくことになります。

以下に考えられる施策のメニュー例を示します。

森林セラピー基地
・森林セラピーロードの認定

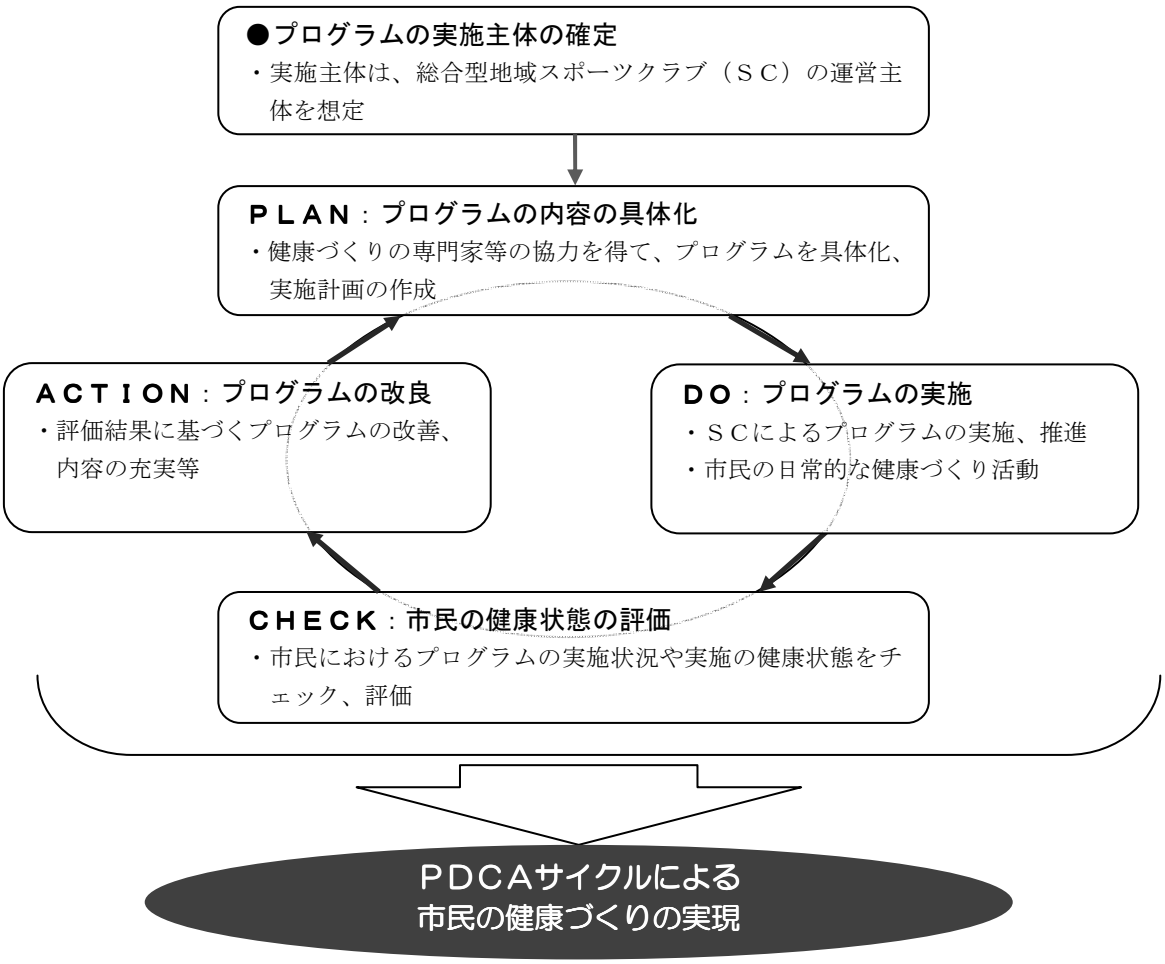
＜関連施策の推進（メニュー例）＞

項目	内容案
環境整備	・現地の保全整備、安全確保整備、サイン等の案内施設の整備等
体験プログラムの開発	・内容、スケジュール等の設定 ・温泉等他の資源と連携等
人材育成	・ロードの案内だけでなく地域観光の案内もできる森林セラピスト等の育成
関連商品開発	・本基地、ロードに特有の資源、モノを活用した商品開発（食、癒しグッズ等）
情報発信・プロモーション	・上記取り組み等についてのホームページやパンフレット等による情報発信 ・ＴＶや雑誌などでのプロモーション

重点事業Ｅ：市民が楽しく続けられる健康づくりプログラムの具体化

①ＰＤＣＡサイクルによる市民の健康づくりの実現

プログラムの具体化及び実施に向けては、「ＰＬＡＮ：プログラムの内容の具体化」、「ＤＯ：プログラムの実施」、「ＣＨＥＣＫ：市民の健康状態の評価」、「ＡＣＴＩＯＮ：プログラムの改良」というＰＤＣＡサイクルを活用します。これにより、市民の健康づくりを実現していきます。



②プログラムの展開イメージ

「健康づくりプログラム」の実施は、前述のように、効果をチェックし、改善しつつ、展開していくことになります。当初は参加者数を見定めつつ、その活動を始動し、住民の意識を醸成しながら、参加者が効果を実感できるものとすることで、参加者の拡大を図るとともに、その内容も拡充し、まちづくりにもつなげていく展開を想定します。

将来的には、その施策のコストに見合うだけの公共的価値がある、「南房総市健康づくりシステム」として確立することを目標とします。

ⅰ）始動期

○各種コースの開設、実施

・本人の体力、実施場所、時間、運動等の内容等に応じて、各種コースを設定

項目	コース分類等
対象者	・一般／高齢者
場所	・各地区体育館／集会所・公民館
時間	・週に 1～2 回、日中のみ
指導員：専門インストラクター等	

○目標

・住民の主体意識の醸成
・住民リーダーの育成
・参加者による効果（公衆衛生的価値）の実感

ⅱ）拡大展開期

○各種コースの増設

・効果や需要を踏まえ、各種コースを増設

項目	コースの増設方針
対象者	・身体障害者等への対応（対象者の拡大）
場所	・実施場所の拡大
時間	・開催曜日、時間帯の拡大
指導員：専門インストラクター＋住民リーダー	

○目標

・住民間の交流の活性化、住民活動の促進
・活動におけるボランティアの育成
・地域の活性化（社会的な価値）への接続

ⅲ）恒常期

○各種コースの内容の充実

・効果や需要を踏まえ、内容を充実

○目標

・南房総市健康づくりシステムの確立

③軽スポーツ（ニュースポーツ）の導入

市民、特に高齢者に楽しく「健康づくり」を続けてもらうための工夫として、健康づくりプログラムへの軽スポーツ（ニュースポーツ）の導入を行います。

具体的な競技としては、以下の事例に示すように、ニュースポーツにも各種の競技があります。前項で示したプログラムの始動期では、幅広く体験してもらいつつ、多くの参加者が楽しめるスポーツに絞り込んで行くことが考えられます。

■事例：みんなで楽しむニュースポーツまつり（千葉県柏市）

・柏市では、老若男女問わず生涯を通じ楽しむことができるニュースポーツを、気軽に体験することができるイベントを、年１回開催しています。
・開催地：柏市中央体育館
・実施主体：柏市スポーツ推進委員協議会

<table>
<tr><th>ビーンボウリング</th><th>シャフルボード</th></tr>
<tr><td>ピンに向かってボールを転がして棒でつながれた横一列に並んでいる９本のピンを反転させ、その本数を競うゲーム
</td><td>円盤（ディスク）が止まった場所によって得点が決まり、獲得した得点を競うゲーム。細長い棒（キュー）を使い得点エリアに向かって円盤を押し出す
</td></tr>
<tr><th>カローリング</th><th>バッゴー</th></tr>
<tr><td>カーリングに似た種目。ジェットローラー（取っ手のついた円盤）を、ポイントゾーンに向かって滑らせ、最も中心に近いチームが勝利
</td><td>ビーンバッグ（お手玉のようなバッグ）をボードの穴をめがけて、投げる的入れゲーム
</td></tr>
<tr><th>フリングネット</th><th>ターゲットマット</th></tr>
<tr><td>大きなネットの反動を使って、ボールを落とさないように他のグループに渡したり受け取ったりするゲーム
</td><td>マットにある数字の書かれたターゲットに向かってボールを蹴り、何個のターゲットをヒットできるかを競うゲーム
</td></tr>
<tr><th>ヒットだ！ターゲット</th><th>その他</th></tr>
<tr><td>1～9の数字の書かれた９枚のターゲットをめがけて、ボールを投げて、何枚ヒットできるかを競うゲーム
</td><td>・室内ペタンク
・室内グラウンドゴルフ
・ソフトボッチャ
・スカイクロス
・ディスコン</td></tr>
</table>

出典：柏市 HP

重点事業Ｆ：（仮称）南房総市スポーツコミッションの設立

①（仮称）南房総市スポーツコミッションの設立に向けた考え方

「(仮称）南房総市スポーツコミッション」は、事業主体としての役割も担い、一定の人材も必要とすることから、その設立時には、必ずしも各関連団体の積極的な協力が得られるとは限りません。

下記で示す段階的な体制構築、事業展開を想定します。

設立準備期	設立時	展開期
・当初は、南房総市が事務局の役割を担い、関連団体等への参画要請 ・協議、調整等を通じて、設立メンバーを確定	・設立時は、②で示すような、機動的な運営ができるよう、南房総市（行政）と関連するノウハウをもつ参画団体が中心となった事務局運営	・需要を踏まえた事業の拡大、展開等により、参画する関連団体等の協力を得つつ、体制を強化 ・人材を含め、行政の力を借りない、自主運営

②設立時のイメージ

（仮称）南房総市スポーツコミッションは、基本的には基本施策⑪で示した各関連団体の参画を前提としますが、設立時については、特に機動的に運営する必要があることを考慮し、常勤となる運営事務局は、4～6 人程度（数名程度のアルバイトを含む）の配置を想定します。

これらの人材は、スポーツに関する状況を熟知している者や、交流施設の管理運営のノウハウを持つ民間組織、及び南房総市（行政）による参画を想定します。

また、具体的事業としては、総合型地域スポーツクラブの運営や南房総市等が所有する各種のスポーツ施設の指定管理事業のほか、民間ノウハウを生かしたイベントの企画運営等の自主事業も想定します。各事業の概要を次項に示します。

■設立時の南房総市スポーツコミッションのイメージ

＜（仮称）南房総市スポーツコミッション＞

●目的・位置付け

・本計画等による各種**事業の実施主体**となり、本計画の着実で効果的な推進に向け、その牽引役を担う。

・南房総市スポーツ交流に関する**関連団体の協働体制**とすることで、各種調整等を行いつつ、事業の円滑で効率的な推進を目指す。

・公益事業等を行う法人（ＮＰＯ等）としての設立を想定する。

●体制

・**南房総市のスポーツ交流に関わる各関連団体の参画を想定**

・特に**運営事務局として 4～6 人程度の常勤の人員配置**を想定

●主な役割

・外部からの問い合わせ窓口（ワンストップサービスの提供）、外部への情報発信、ＰＲ（営業活動）、参画団体間の調整　等

※想定する具体的事業については、次項に示す。

○南房総市（行政）

○スポーツ関係団体の運営関係者

○交流施設管理運営の経験者

（運営事務局として参画、常勤スタッフを派遣）

○他の南房総市におけるスポーツ交流の関連団体

・スポーツ交流推進協議会への参画団体を想定する。

・非常勤だが、緊密な連携を図る。

③（仮称）南房総市スポーツコミッションにおける事業概要（案）

（仮称）南房総市スポーツコミッションで想定する事業、活動の概要を下表に示します。これらの事業を通じて、持続可能な組織運営とし、南房総市におけるスポーツのまちづくりを牽引していきます。

事業名		概要	関連施策
○スポーツ施設の指定管理事業		・南房総市や千葉県、その他行政の所有するスポーツ施設等の指定管理者となり、管理業務を行う。 ・具体的には、基本施策①で示したスポーツ広場や基本施策②で示した既存施設の利活用として、その管理運用を行う。	・基本施策① ・基本施策②
○総合型地域スポーツクラブの運営		・南房総市からの委託を前提に、新たに設立する総合型地域スポーツクラブの運営を行う。 ・具体的には、スポーツクラブの活動として、個別の競技スポーツの支援、健康づくりプログラムの実施、個人の健康づくり活動の支援、競技選手の指導・育成、クラブ内でのスポーツイベントの実施、等を行う。	・基本施策⑧ ・基本施策⑨
○スポーツクラブの運営を担う人材の育成事業		・南房総市からの委託を前提に、スポーツインストラクターや健康指導員等の育成を行う。 ・具体的には、セミナーや研修等の開催を想定する。	・基本施策⑧ ・基本施策⑨
○南房総市スポーツ関連ホームページ及びマッチングシステムの構築、運用		・南房総市からの委託を前提に、基本施策⑥で示したホームページやスポーツマッチングシステムの構築及び必要に応じたシステムの管理、更新等を行う。 ・あわせてその運用も行い、バナー広告等の事業も行う。	・基本施策⑥
○自主事業の実施	・スポーツイベントの自主開催、運営	・(仮称)南房総市スポーツコミッションが主催者(事務局）となり、スポーツイベントを誘致、開催、運営する。なお、基本施策⑩で示した障害者スポーツイベント等を含む。	・基本施策③ ・基本施策④ ・基本施策⑩
	・輸送サービス事業	・基本施策④で示した、イベントやスポーツ合宿等を支援する輸送サービスを、事業として実施する。 ※実現には、道路運送事業法に基づく事業認可が必要となる。	・基本施策④
	・商品開発、販売事業	・森林セラピー事業等と連携し、独自の商品を開発し、販売を行う。	・基本施策⑤
○その他		・上記の各収益事業のほか、スポーツコミッションに参画する関連団体の事務局機能や関連団体間の調整事務等も想定する。	

第７章　推進プログラム

１．推進プログラム

第 5 章で示した各基本施策及び第 6 章で示した各重点事業の推進、展開に向けては、南房総市総合計画における期間（～平成 29 年度）を念頭に、右記の３段階でのスケジュールによる実施を想定します。

●段階設定
短期（平成 25・26 年度）
中期（平成 27～29 年度）
長期（平成 30 年度～概ね 5 ヶ年）

１２の基本施策	段階的推進プログラム 短期	中期	長期
①スポーツ交流の場となり、拠点となる施設等の整備、充実	拠点施設整備の基本計画の検討（必要性の整理） 拠点施設の設計等 **スポーツ広場の計画具体化、設計**	各施設の計画、整備、運用 **スポーツ広場の整備・運用開始（各施策での活用開始）**	スポーツ広場の運用状況や、他の拠点施設の状況を踏まえた、拡充計画の検討、必要に応じた整備等
②効率的な施設の利活用に向けた既存施設の運用の見直し、修繕等	既存施設の管理運営状況の把握、評価 **既存施設の利活用計画の策定**	既存施設の利活用計画に基づく、各種対応（修繕、運用の見直し、廃止）	情報発信等、他の施策と連携したさらなる利活用の推進（効率化等）
③市民が気軽に参加できるスポーツ交流イベント等の開催及び支援	市民対象のスポーツ交流イベントの具体化（仮称）地区対抗オリンピック等）	・市民対象のスポーツ交流イベントの実施 ・各地区におけるスポーツイベントの支援	各イベントの継続、参加者増等、活性化に向けた取り組み
④南房総市のスポーツ交流資源を活かした他地域からも参加するスポーツイベントの充実や団体合宿等の誘致	イベント誘致や合宿プログラムの検討、構築 **新たなイベントの誘致の実現**	イベント誘致活動や合宿プログラムについての情報発信（構築したＨＰ等の活用）（イベントや合宿の誘致）	イベントや合宿の誘致状況に応じたプログラムの改善、充実（イベント規模の拡大等）
⑤南房総市の魅力を活かしたスポーツ関連産業の振興及び地域経済活性化のための仕組みづくり	地域資源を活かした商品開発や滞在プログラムの構築及び活性化のための仕組みの具体化 **森林セラピーの認定を前提とした滞在プログラム等の構築、ＰＲ**	開発した関連商品やサービスの提供開始 地域通貨等の仕組みを活用したイベントの実施 **森林セラピーの滞在プログラムによる集客の推進、必要な施設等の整備**	開発した商品やサービス等の需要や利用者の意向等を踏まえた、内容の改善 新たな商品などの開発
⑥南房総市のスポーツ交流資源やイベント等の情報発信、ＰＲ、及び交流促進の仕組みづくり	関連情報の収集整理（データベース構築） 上記を前提とした情報発信ＨＰ及び施設予約システム、マッチングシステムの構築　等	構築した情報発信ＨＰ及び施設予約システム、マッチングシステムの運用開始	システムの運用状況に応じた改善 サービス内容の拡充　等
⑦スポーツ交流を通じた居住促進策の具体化	需要を踏まえた居住促進方策の具体化（マリンスポーツ愛好者の二地域居住促進策等）	居住促進方策の実施、推進	居住促進方策の効果に応じた施策の改善、拡充
⑧市民の健康づくりの場となる地域スポーツクラブの活性化とこれを支える人材育成	総合型地域スポーツクラブの設立準備及び設立、既存クラブの支援	総合型地域スポーツクラブの活性化（活動範囲の拡充）	総合型地域スポーツクラブ活動状況等を踏まえた、活動内容の改善、充実
⑨市民の健康づくりに向けた健康づくりプログラムの推進	健康づくりプログラムの具体化（先行事例調査等による研究開始 **健康づくりプログラムの構築、試行**	ＰＤＣＡサイクルによる健康づくりプログラムの改善（地域スポーツクラブ等との連携の強化）	
⑩スポーツ交流を通じた身体障害者の社会参加の支援策の具体化	身体障害者のスポーツ交流の支援方策の具体化（関係者の意向把握、体制構築）	・身体障害者のスポーツ交流の支援方策の実施（関連イベントの実現など）	・関連施策の実施状況や効果等に応じた方策内容の見直し
⑪スポーツ交流を支える母体組織（南房総市スポーツコミッション）の設立、自主事業の実施	南房総市スポーツコミッションの設立準備 **（仮称）南房総市スポーツコミッションの設立** スポーツコミッションによる活動、各種自主事業の展開（総合型地域スポーツクラブの運営、指定管理事業　等）	**（仮称）南房総市スポーツコミッションのＮＰＯ法人化、事業開始**	**スポーツコミッションにおける事業の拡大（まちづくりへの貢献）、体制強化**
⑫計画の推進に向けた関係団体、組織の連携体制の構築と地域全体での機運醸成	（仮称）南房総市スポーツ交流推進協議会の設立(連携体制構築)	（仮称）南房総市スポーツ交流推進協議会の随時開催 （各施策や事業の実施状況の把握、調整、市民向けの啓発活動（活動の情報発信等）	

＜基本理念＞

南房総の資源を活かした「スポーツ交流」を通じて、地域の活性化を図り、市民の心身の健康づくりを実現する

※ **太字** は、重点事業として実施する